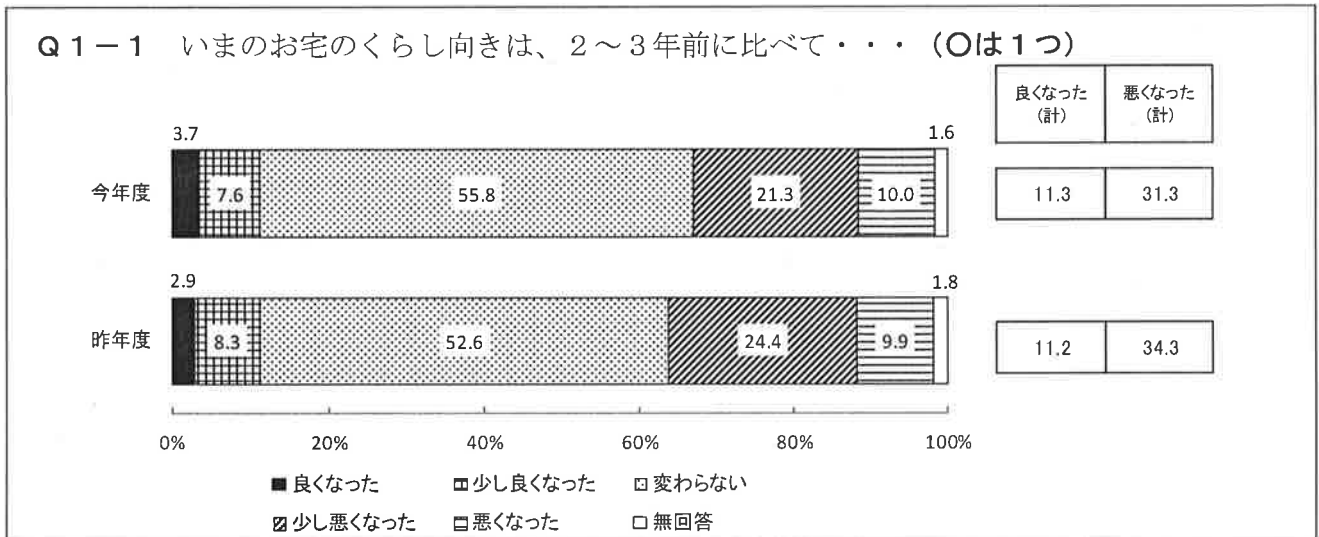


## Ⅱ. 調査結果

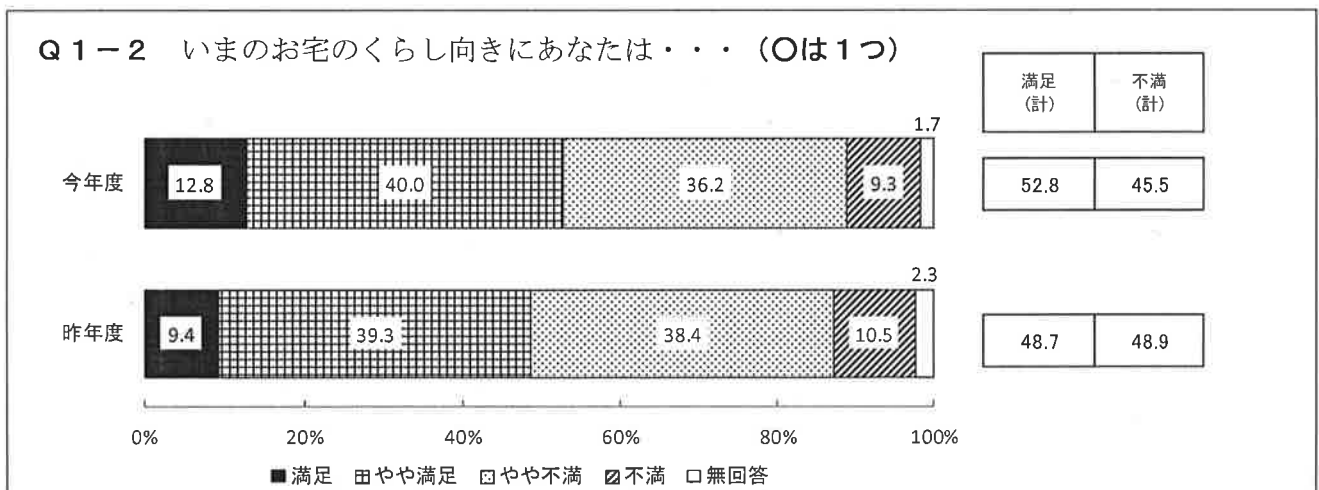
### 1. 県民の生活実感

#### 1-1. 暮らし向きの変化



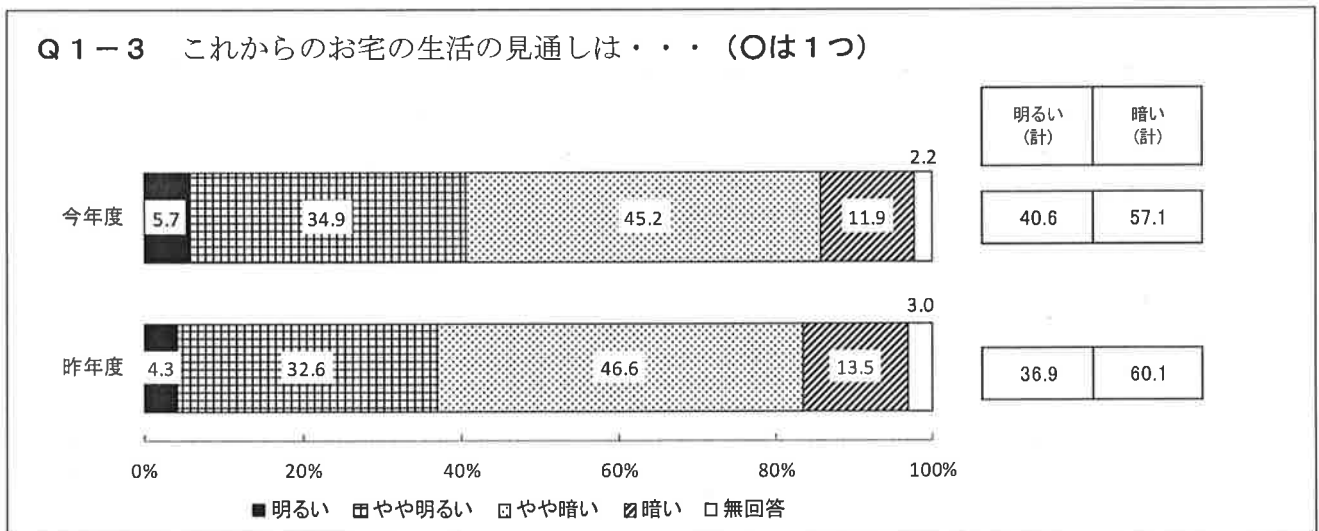
2～3年前に比べたくらし向きは、「良くなった」と「少し良くなった」を合わせた『良くなった(計)』は11.3%、「悪くなった」と「少し悪くなった」を合わせた『悪くなった(計)』は31.3%となっている。昨年度と比較すると、『悪くなった(計)』は3.0ポイント低下している。

#### 1-2. 暮らしの満足度



現在の暮らし向きに関する満足度について、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足(計)』は52.8%、「不満」と「やや不満」を合わせた『不満(計)』は45.5%となっている。昨年度と比較すると、『満足(計)』は4.1ポイント上昇し、『不満(計)』を上回っている。

1-3. 今後の生活の見通し



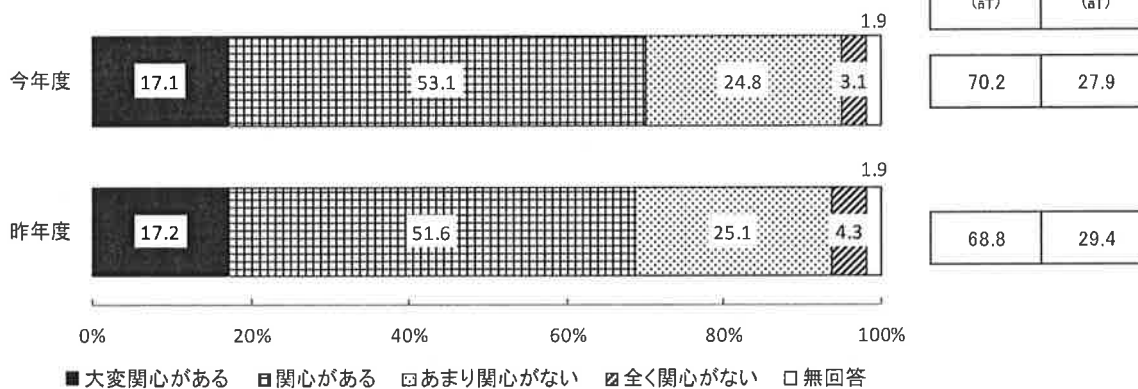
今後の生活の見通しについて、「明るい」と「やや明るい」を合わせた『明るい (計)』は40.6%、「暗い」と「やや暗い」を合わせた『暗い (計)』は57.1%となっている。昨年度と比較すると、『明るい (計)』は3.7ポイント上昇している。

## 2. 政治や経済への関心

### 2-1. 国の政治や経済への関心

Q2 あなたは、国や県、市町の政治・経済についてどの程度関心がありますか。  
(○はそれぞれ1つずつ)

(1) 国の政治・経済

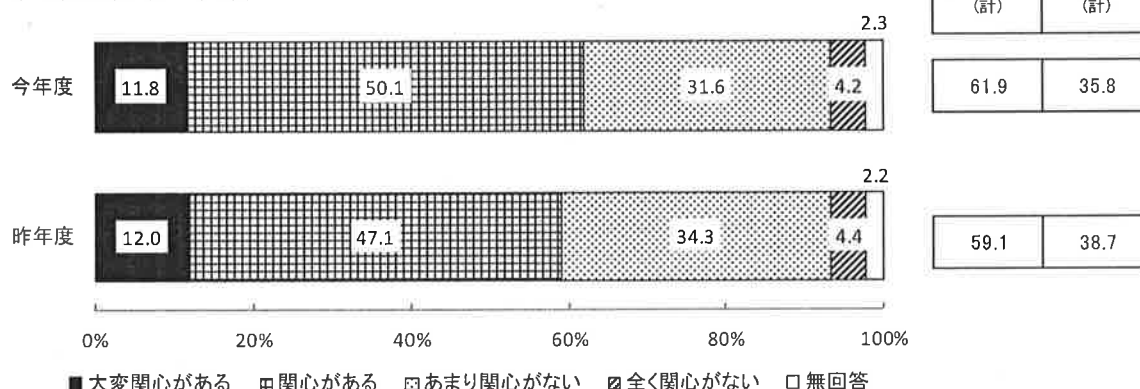


国の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある (計)』は70.2%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない (計)』は27.9%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある (計)』は1.4ポイント上昇、『関心がない (計)』は1.5ポイント低下している。

## 2-2. 県の政治や経済への関心

Q2 あなたは、国や県、市町の政治・経済についてどの程度関心がありますか。  
(○はそれぞれ1つずつ)

### (2) 県の政治・経済

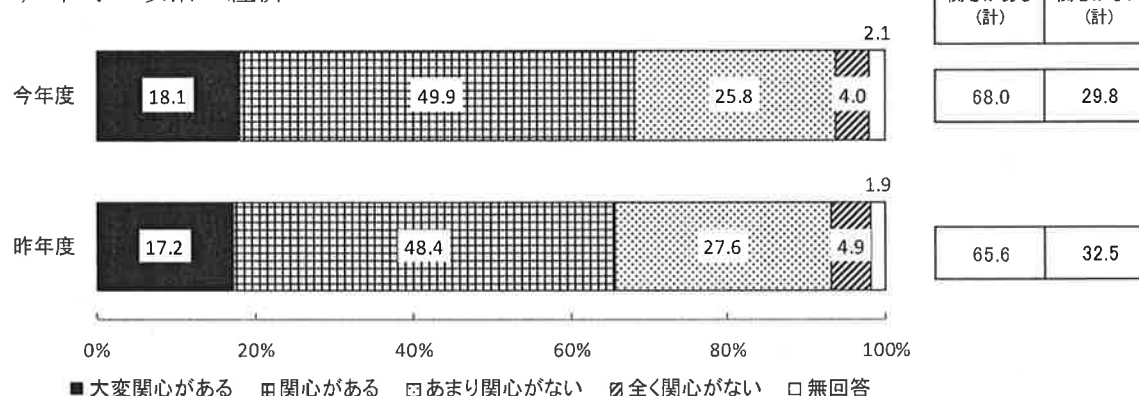


県の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある(計)』は61.9%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない(計)』は35.8%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある(計)』は2.8ポイント上昇、『関心がない(計)』は2.9ポイント低下している。

## 2-3. 市町の政治や経済への関心

Q2 あなたは、国や県、市町の政治・経済についてどの程度関心がありますか。  
(○はそれぞれ1つずつ)

### (3) 市町の政治・経済

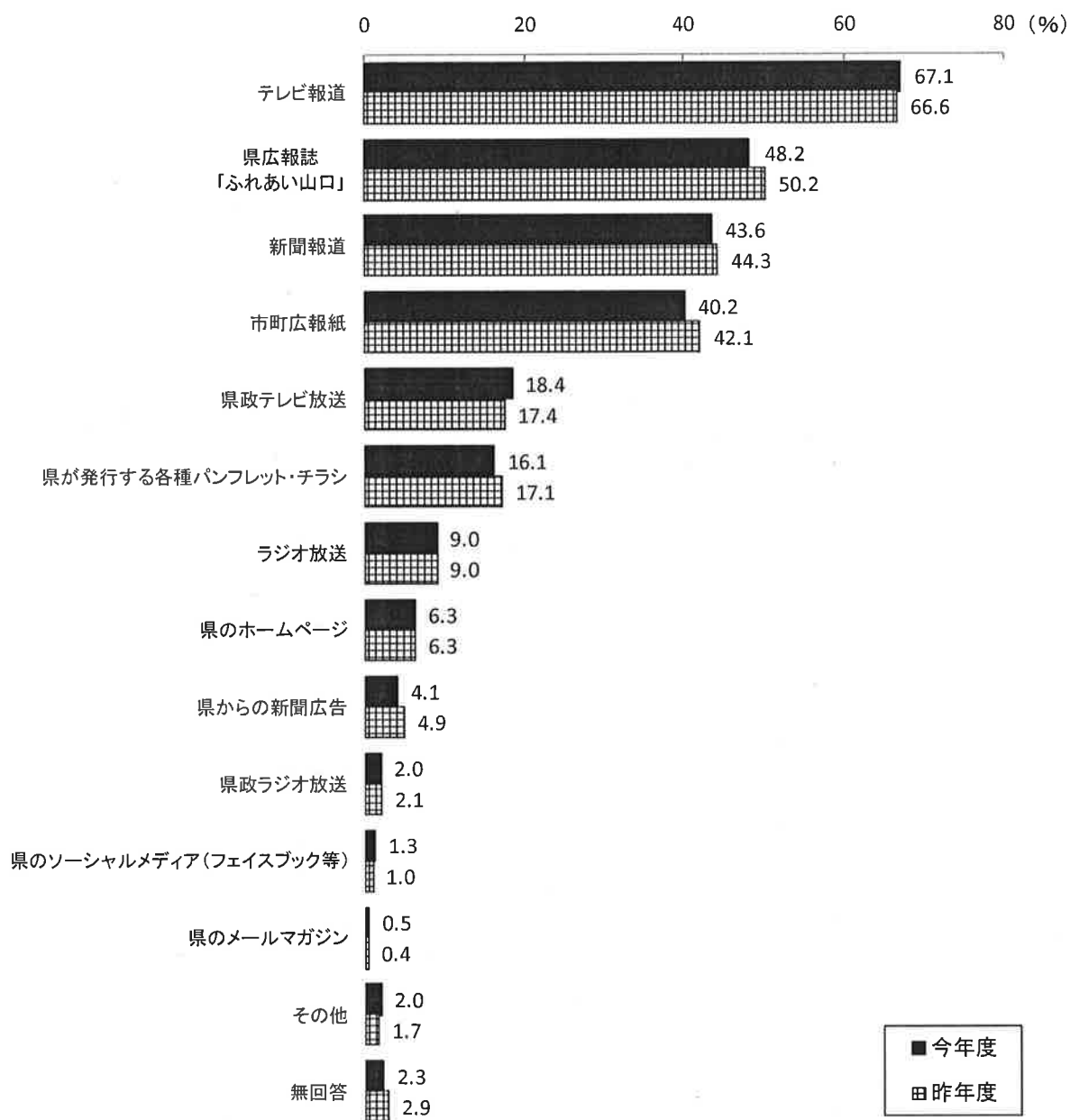


市町の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある(計)』は68.0%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない(計)』は29.8%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある(計)』は2.4ポイント上昇、『関心がない(計)』は2.7ポイント低下している。

### 3. 県の行っている広報

#### 3-1. 県の仕事の認知媒体

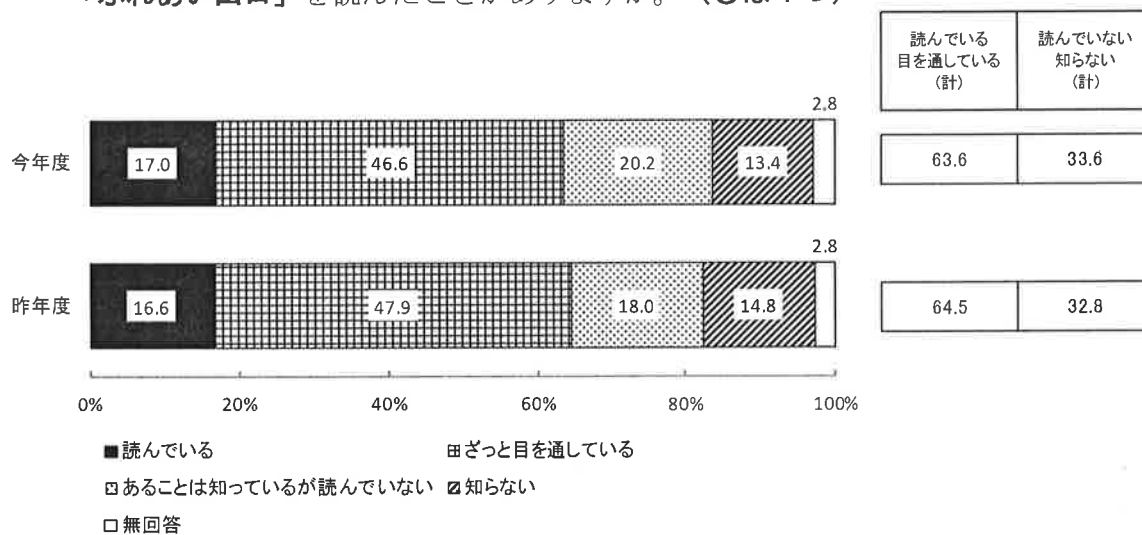
Q3-1 あなたは日頃、県が行っている仕事などの県政情報を何によって知ることが多いですか。(〇はいくつでも)



県の仕事の認知媒体について、「テレビ報道」が67.1%と最も多く、次いで「県広報誌『ふれあい山口』」(48.2%)、「新聞報道」(43.6%)、「市町広報紙」(40.2%)、「県政テレビ放送」(18.4%)、「県が発行する各種パンフレット・チラシ」(16.1%)などの順となっている。昨年度と比較すると、「県広報誌『ふれあい山口』」は2.0ポイント、「市町広報紙」は1.9ポイント低下した一方で、「県政テレビ放送」は1.0ポイント、「テレビ報道」は0.5ポイント上昇している。

3-2. 「ふれあい山口」の閲読状況

Q3-2 県全世帯に配布している県広報誌「ふれあい山口」についておたずねします。  
「ふれあい山口」を読んだことがありますか。(〇は1つ)



県広報誌「ふれあい山口」の閲読状況について、「読んでいる」と「ざっと目を通している」を合わせた『読んでいる・目を通している (計)』は63.6%、「あることは知っているが読んでいない」と「知らない」を合わせた『読んでいない・知らない (計)』は33.6%となっている。昨年度と比較すると、『読んでいる・目を通している (計)』は0.9ポイント低下している。

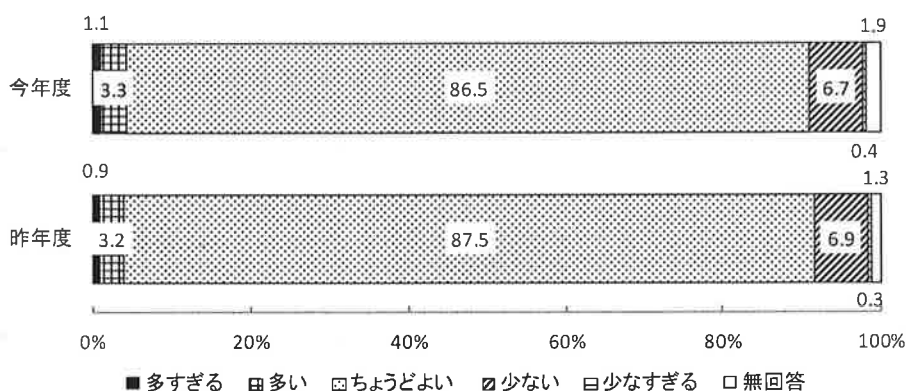
3-3. 「ふれあい山口」の内容に対する評価

【Q3-2で「読んでいる」と「ざっと目を通している」と回答した方に】 (n=994)

Q3-3 「ふれあい山口」の情報量及び読みやすさについておたずねします。

(○はそれぞれ1つつづ)

(1) 発行回数【現状】隔月発行(年6回発行)

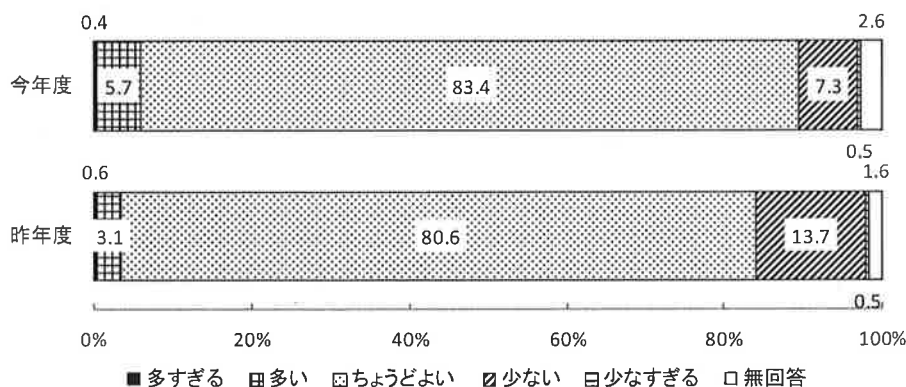


多い (計)	少ない (計)
-----------	------------

4.4	7.1
-----	-----

4.1	7.2
-----	-----

(2) 各号の情報量【現状】年4回：8ページ 年2回：4ページ

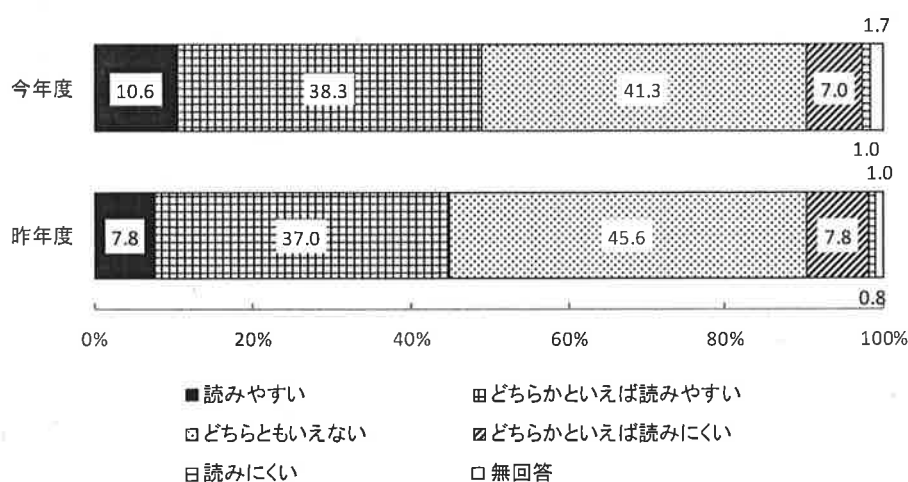


多い (計)	少ない (計)
-----------	------------

6.1	7.8
-----	-----

3.7	14.2
-----	------

(3) 紙面の読みやすさ



読みやすい (計)	読みにくい (計)
--------------	--------------

48.9	8.0
------	-----

44.8	8.6
------	-----

Q3-2で「ふれあい山口」を「読んでいる」と「ざっと目を通している」と回答された方に、「ふれあい山口」の内容に対する評価について質問すると、発行回数は「ちょうどよい」が86.5%と最も多く、情報量については「ちょうどよい」が83.4%と最も多くなっている。また読みやすさについては、「読みやすい」と「どちらかといえば読みやすい」を合わせた『読みやすい(計)』は48.9%となっており、昨年度と比較すると、4.1ポイント上昇している。



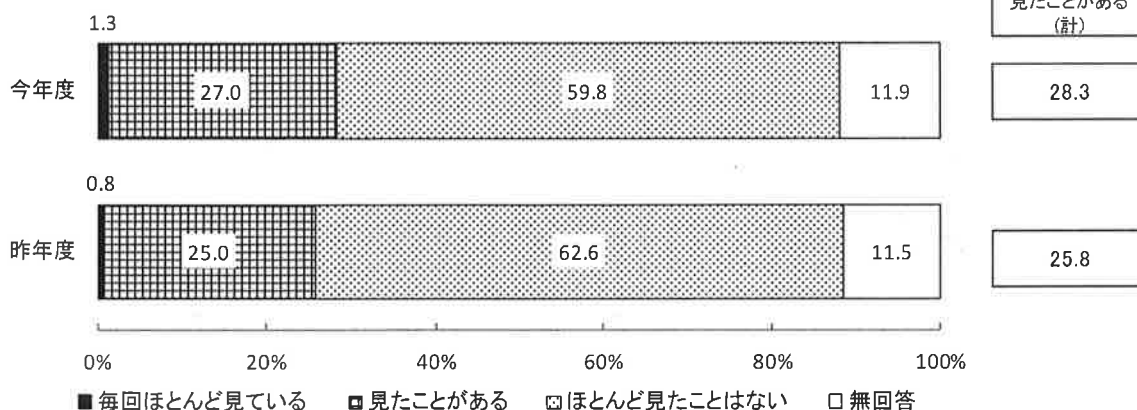
3-4. 各テレビ番組・各ラジオ番組の視聴（聴取）状況及び印象

Q3-4 県が提供しているテレビ・ラジオの県政番組についておたずねします。

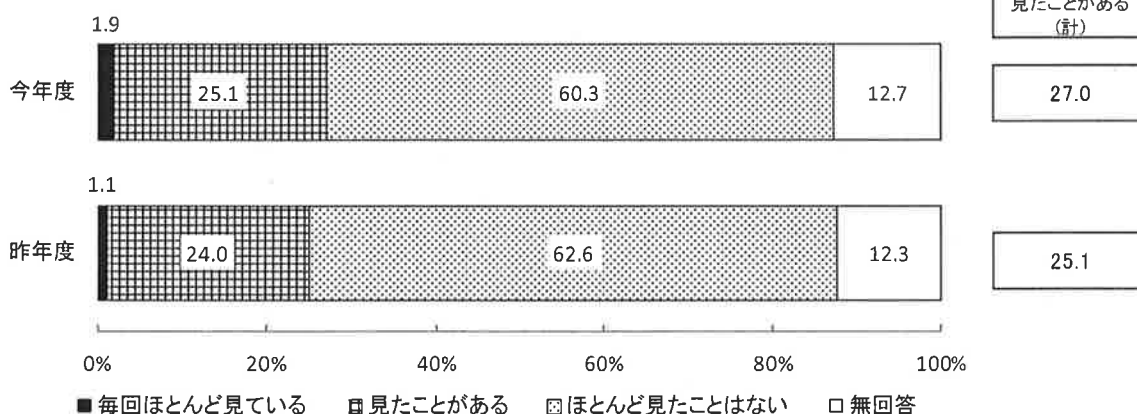
(1) 次の番組を視聴（または聴取）されたことがありますか。

1、2、3から選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

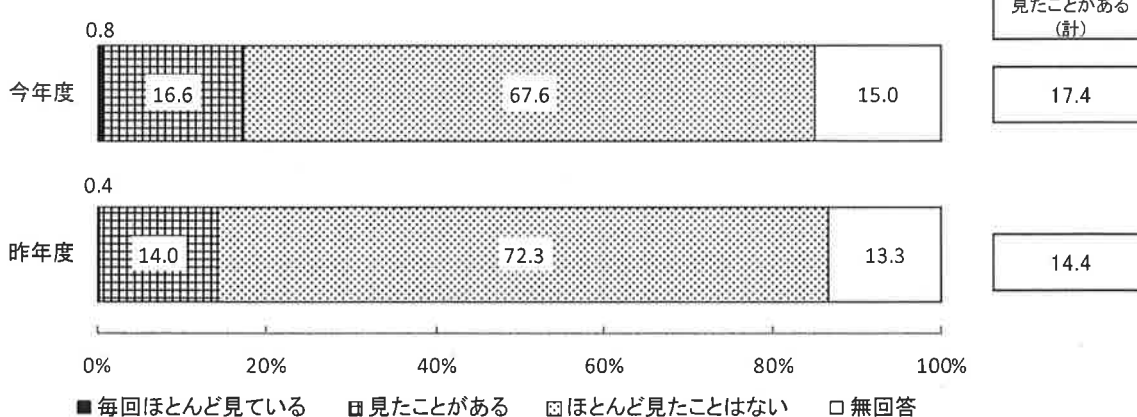
(ア) 「元気創出！やまぐち」（KRY山口放送）



(イ) 「大好き！やまぐち」（TYSテレビ山口）

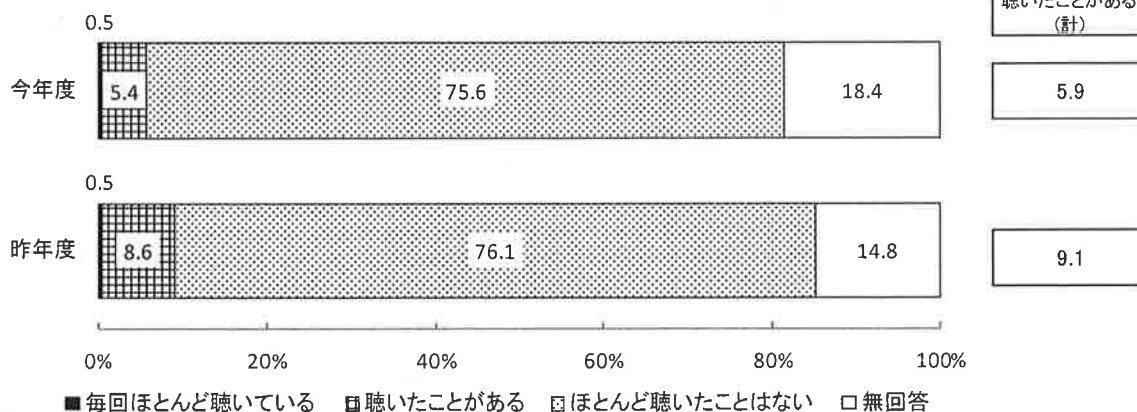


(ウ) 「イキイキ！山口」（YAB山口朝日放送）

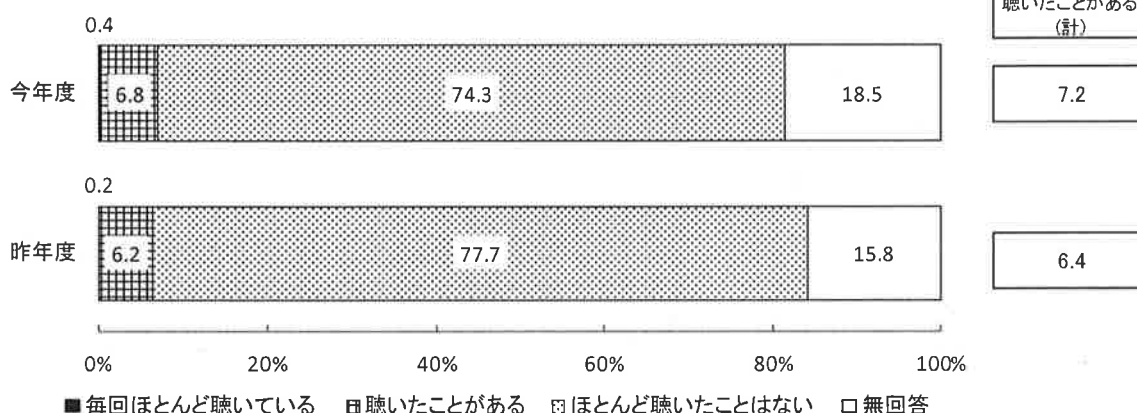


県が提供している県政テレビ番組の視聴状況について、「毎回ほとんど見ている」と「見たことがある」を合わせた『見ている・見たことがある（計）』は、「元気創出！やまぐち」は28.3%、「大好き！やまぐち」は27.0%、「イキイキ！山口」は17.4%と、昨年度に比べ全番組で上昇している。

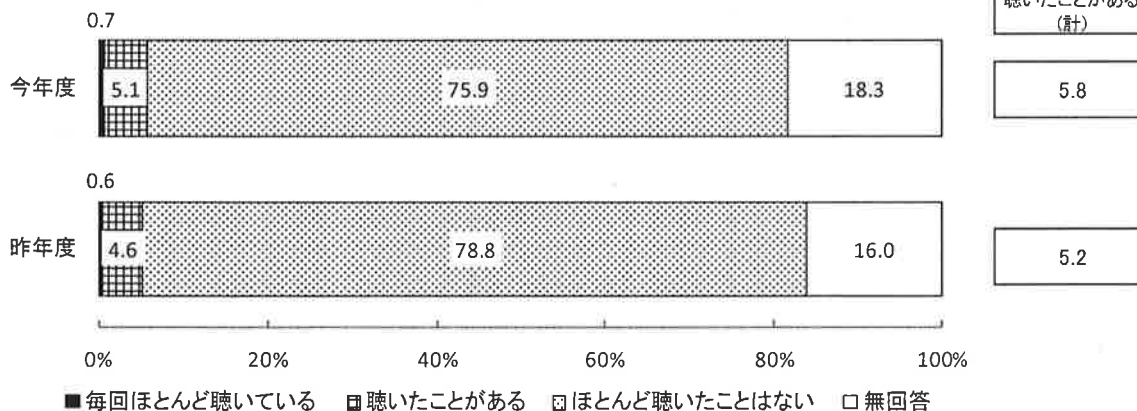
(エ) 「ワンポイント県政」 (KRY山口放送)



(オ) 「FM県民ダイアリー」 (エフエム山口)



(カ) 「情報BOX山口」 (エフエム山口)

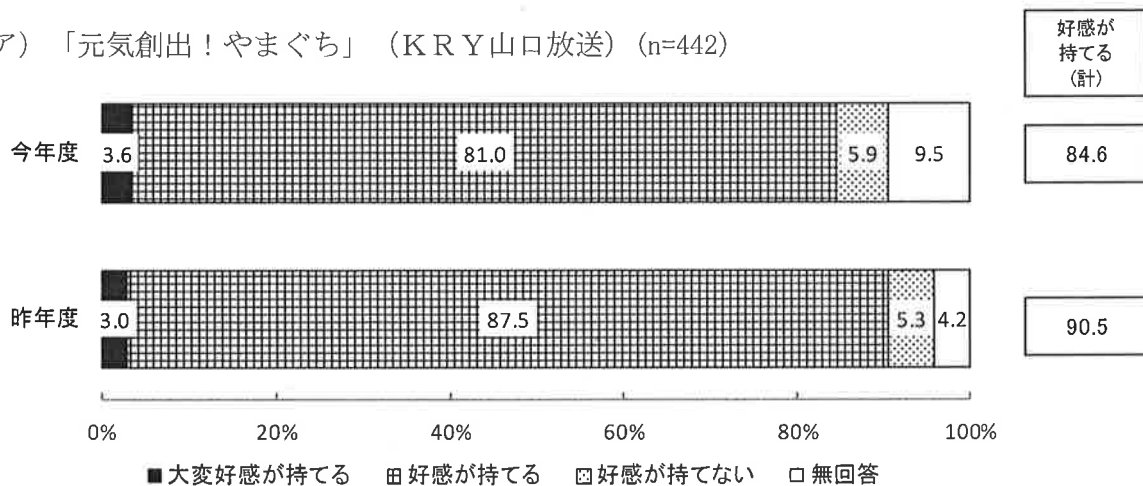


県が提供している県政ラジオ番組の聴取状況について、「毎回ほとんど聴いている」と「聴いたことがある」を合わせた『聴いている・聴いたことがある (計)』は、「ワンポイント県政」は5.9%、「FM県民ダイアリー」は7.2%、「情報BOX山口」は5.8%と、昨年度に比べ「ワンポイント県政」は低下しているものの、「FM県民ダイアリー」と「情報BOX山口」はともに上昇している。

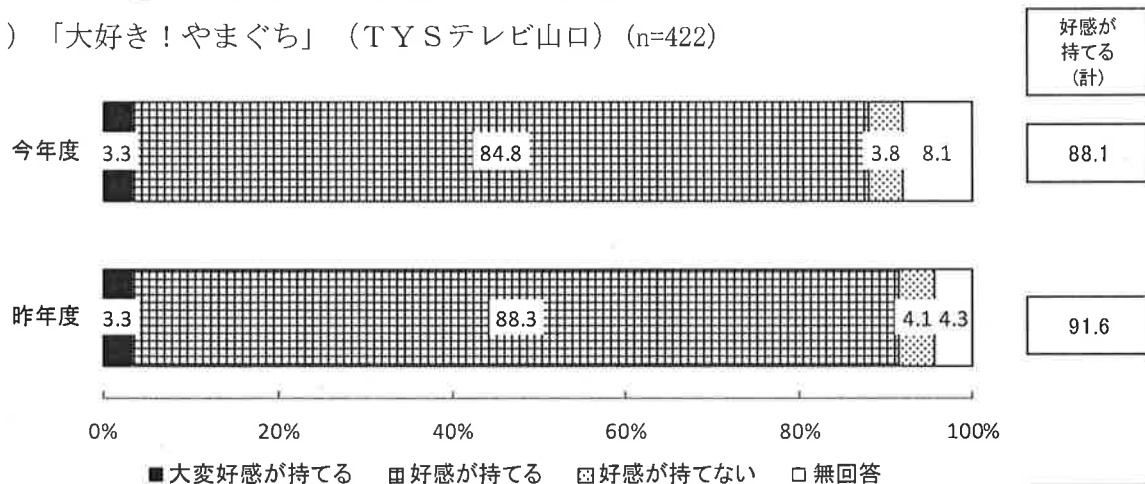
Q3-4 県が提供しているテレビ・ラジオの県政番組についておたずねします。

(2) 視聴（または聴取）されたことがある場合は、その番組の印象を4、5、6から選んでください。（〇はそれぞれ1つつ）

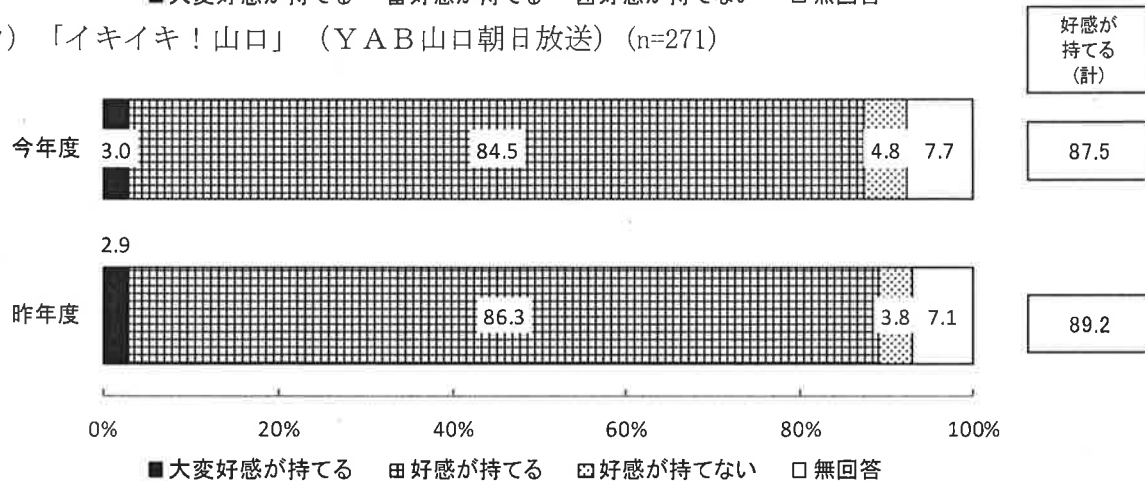
(ア) 「元気創出！やまぐち」（KRY山口放送）（n=442）



(イ) 「大好き！やまぐち」（TYSテレビ山口）（n=422）

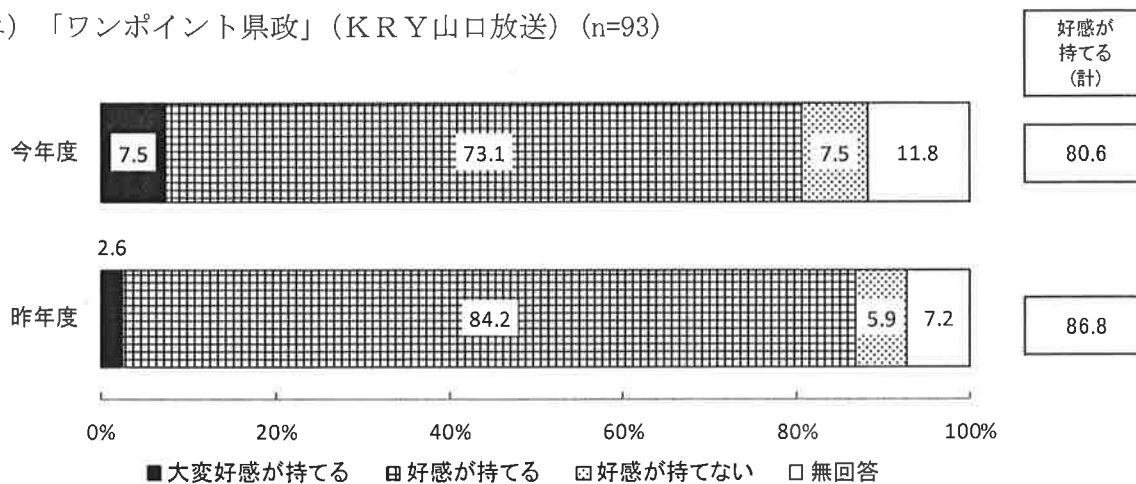


(ウ) 「イキイキ！山口」（YAB山口朝日放送）（n=271）

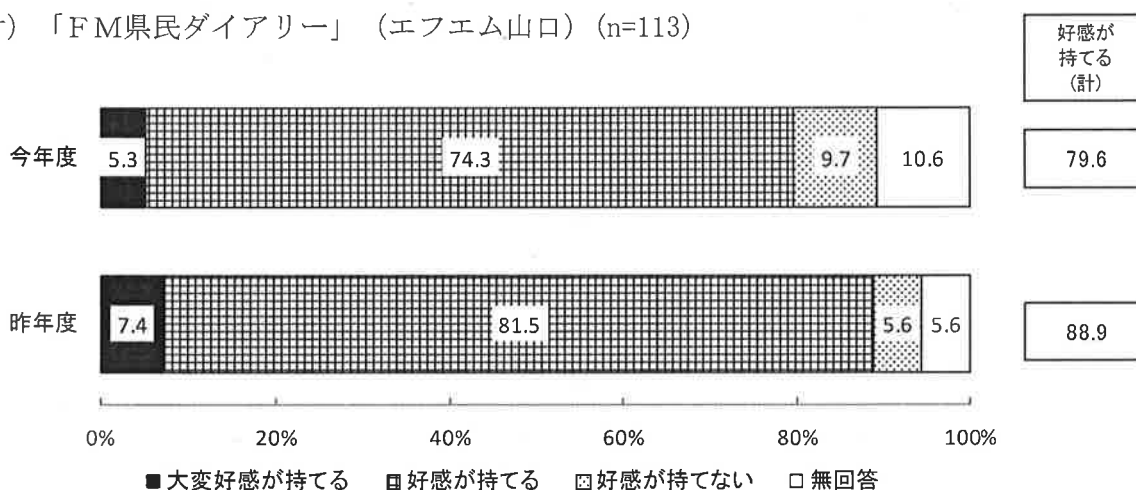


県が提供している県政テレビ番組の各番組の印象について、「大変好感が持てる」と「好感が持てる」を合わせた『好感が持てる（計）』が8割以上となっている。

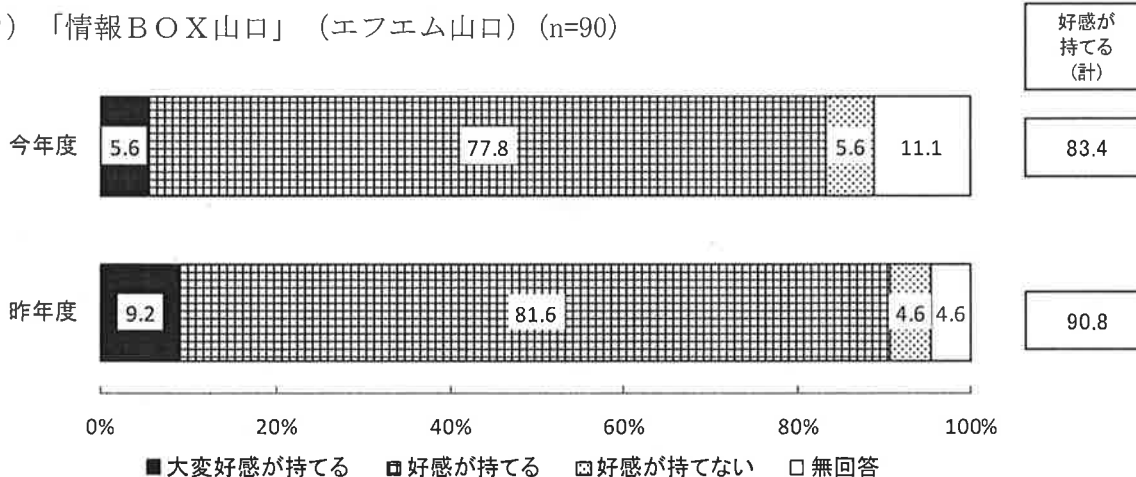
(エ) 「ワンポイント県政」(K R Y山口放送) (n=93)



(オ) 「FM県民ダイアリー」(エフエム山口) (n=113)

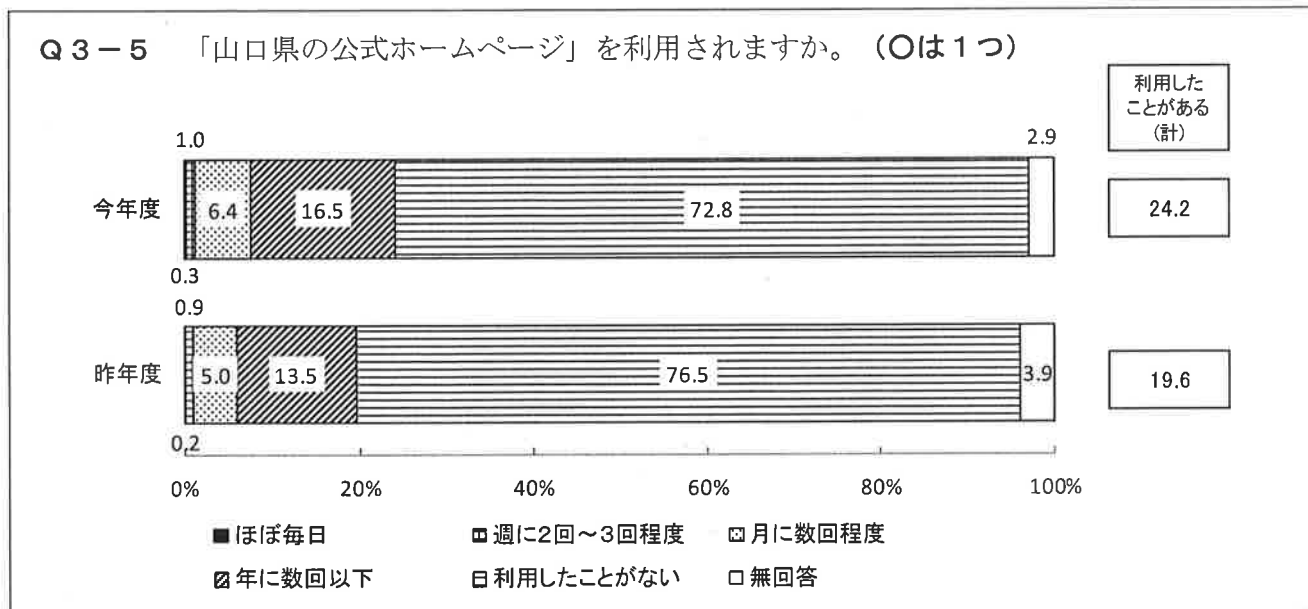


(カ) 「情報BOX山口」(エフエム山口) (n=90)



県が提供している県政ラジオ番組の各番組の印象について、「大変好感が持てる」と「好感が持てる」を合わせた『好感が持てる (計)』が8割前後となっている。

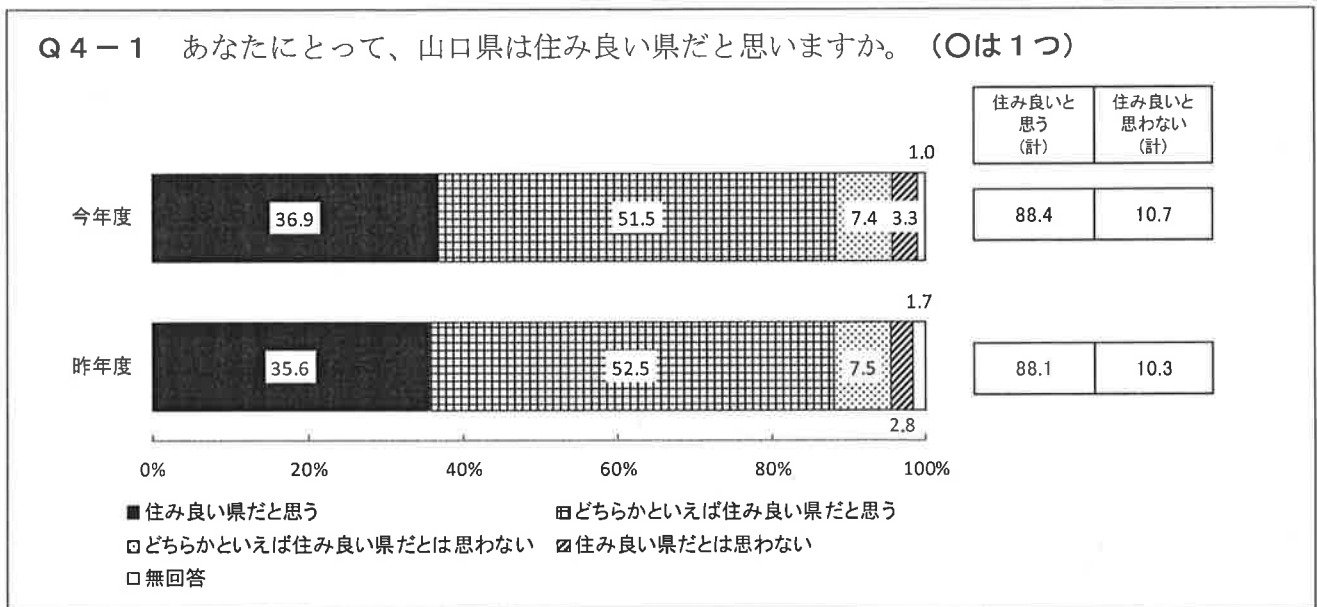
3-5. 「山口県の公式ホームページ」の利用頻度



「山口県の公式ホームページ」の利用頻度について、「ほぼ毎日」、「週に2回~3回程度」、「月に数回程度」、「年に数回以下」を合わせた『利用したことがある (計)』は24.2%、「利用したことがない」は72.8%となっている。昨年度と比較すると、『利用したことがある (計)』は4.6ポイント上昇している。

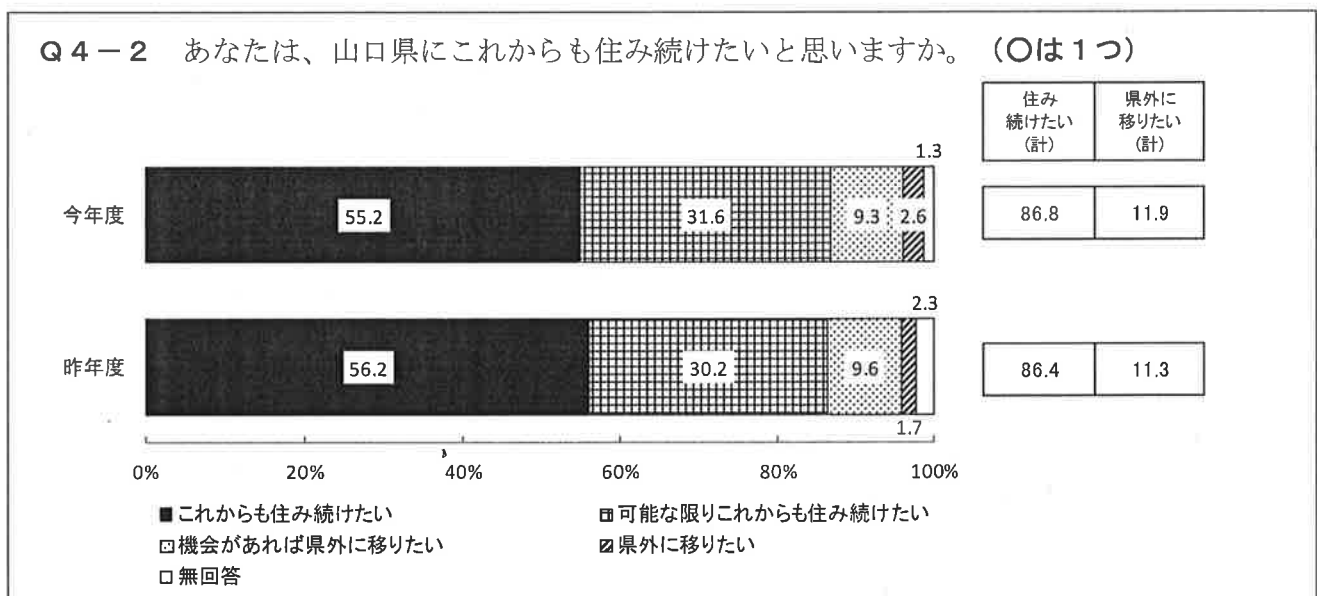
#### 4. 県の取組に対する実感

##### 4-1. 山口県の住み良さ



山口県の住み良さについて、「住み良い県だと思う」と「どちらかといえば住み良い県だと思う」を合わせた『住み良いと思う (計)』は88.4%となっており、昨年度と比較すると、0.3ポイント上昇し、引き続き約9割の高水準にある。

##### 4-2. 今後の山口県への居留意向

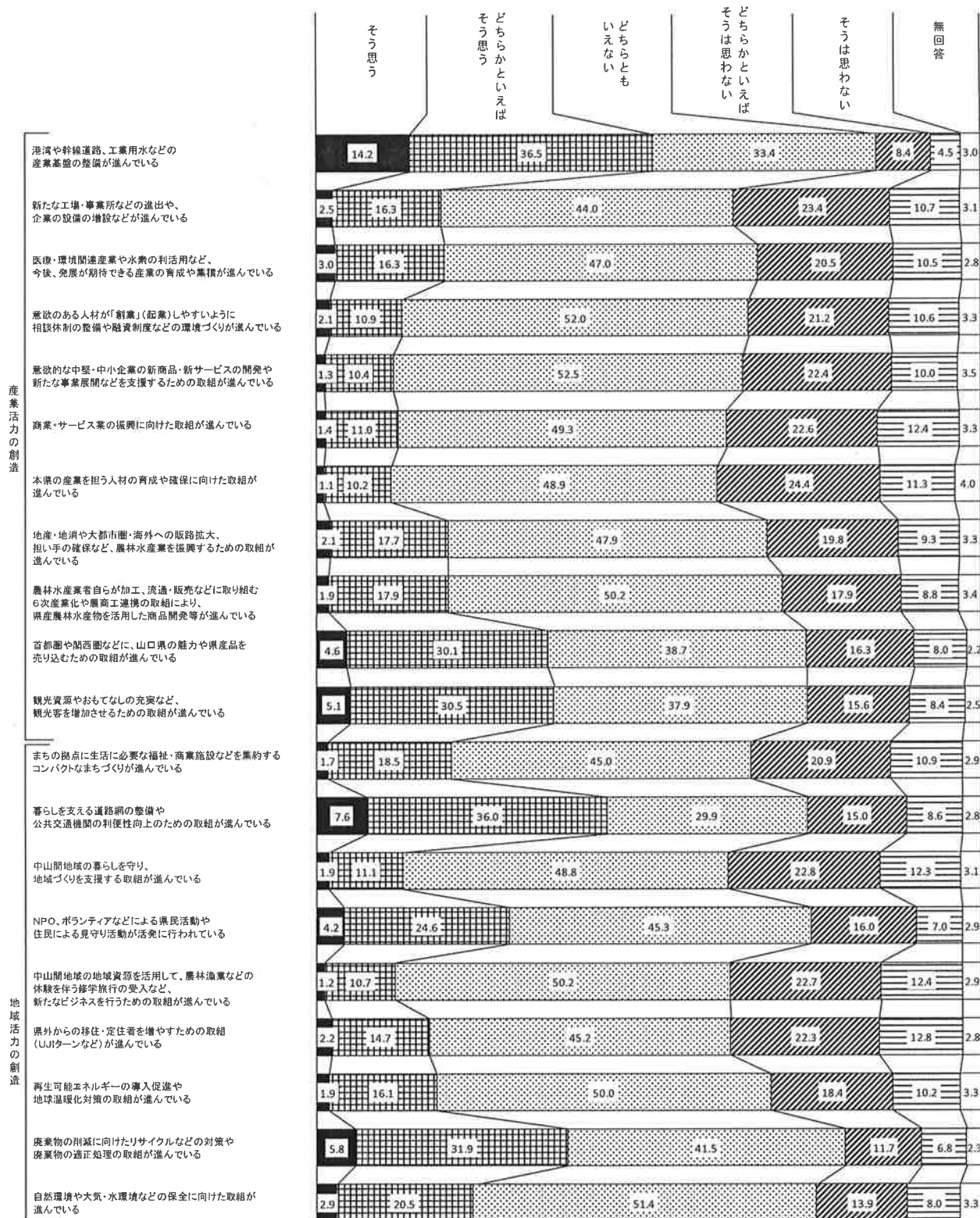


今後の山口県への居留意向について、「これからも住み続けたい」と「可能な限りこれからも住み続けたい」を合わせた『住み続けたい (計)』は86.8%となっており、昨年度と比較すると0.4ポイント上昇し、引き続き約9割の高水準にある。

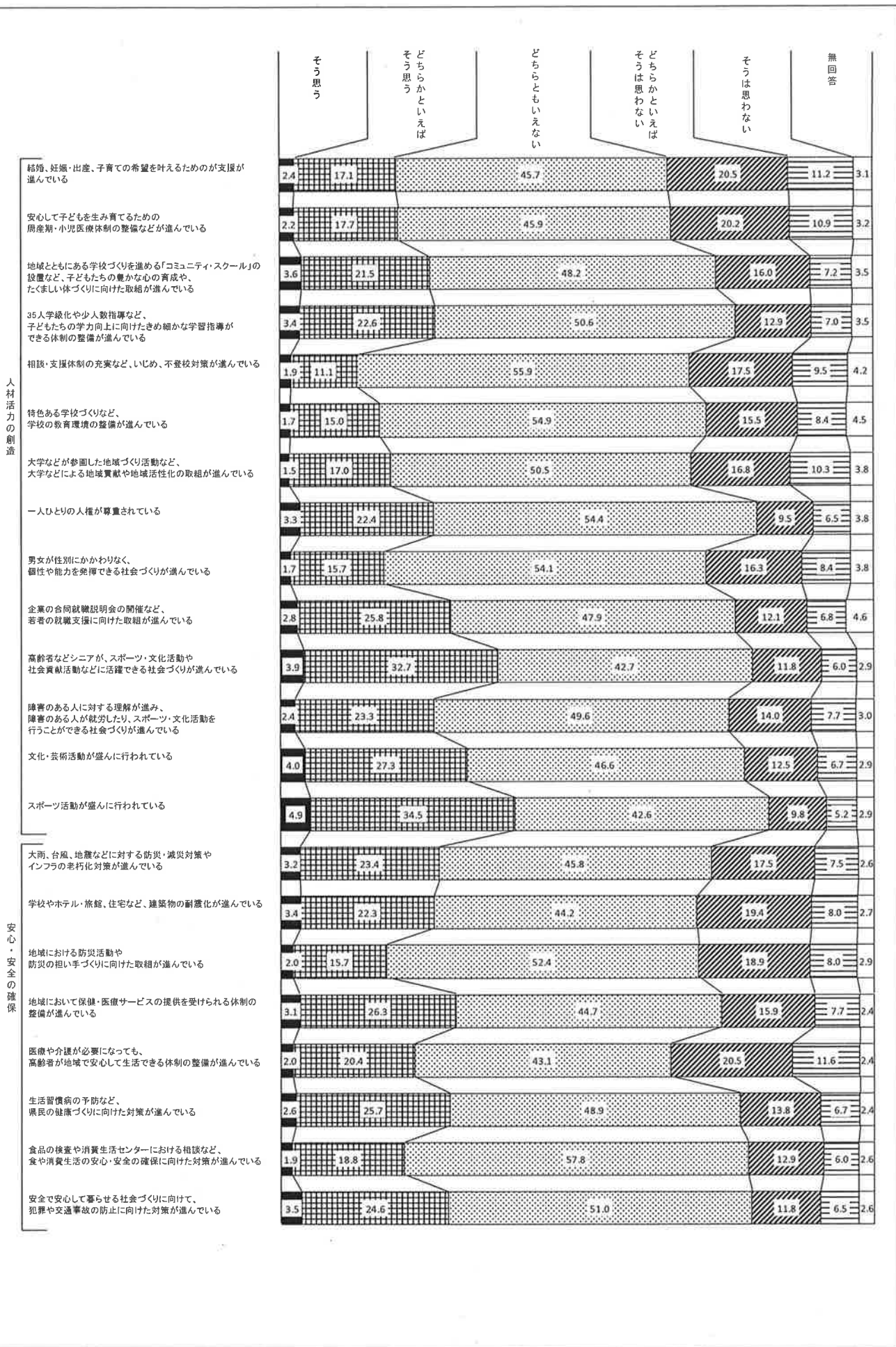
4-3. 県の取組に対する実感

Q4-3 チャレンジプランに基づいて取り組んでいる次の各項目におけるあなたの実感についておたずねします。いずれか1つを○で囲んでください。

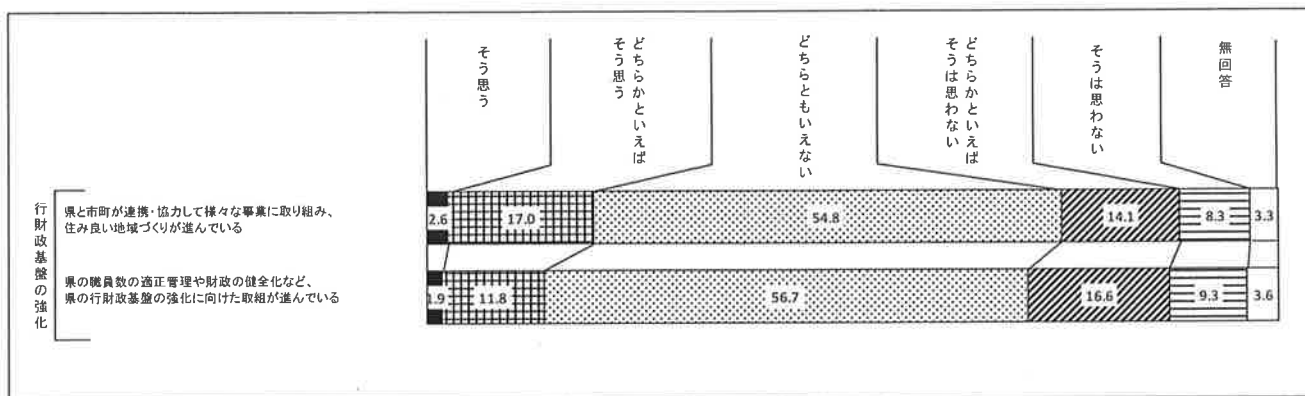
(○はそれぞれ1つずつ)











県の取組に対する実感について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う(計)』の割合は、【産業活力の創造】分野の「港湾や幹線道路、工業用水などの産業基盤の整備が進んでいる」(50.7%)、【地域活力の創造】分野の「暮らしを支える道路網の整備や公共交通機関の利便性向上のための取組が進んでいる」(43.6%)、【人材活力の創造】分野の「スポーツ活動が盛んに行われている」(39.4%)などで高くなっている。

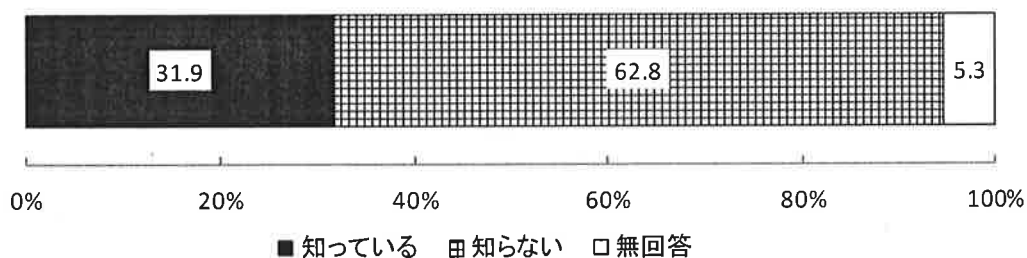
一方、「そうは思わない」と「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた『思わない(計)』の割合は、【産業活力の創造】分野の「本県の産業を担う人材の育成や確保に向けた取組が進んでいる」(35.7%)、【地域活力の創造】分野の「中山間地域の暮らしを守り、地域づくりを支援する取組が進んでいる」(35.1%)などで高くなっている。

『その他、県が取組を進めている12項目』

5. 「山口ゆめ花博」について

5-1. 「山口ゆめ花博」開催の認知状況

Q5-1 あなたは、平成30年に、「山口ゆめ花博」（第35回全国都市緑化やまぐちフェア）が山口県で開催されることをご存じですか。（○は1つ）

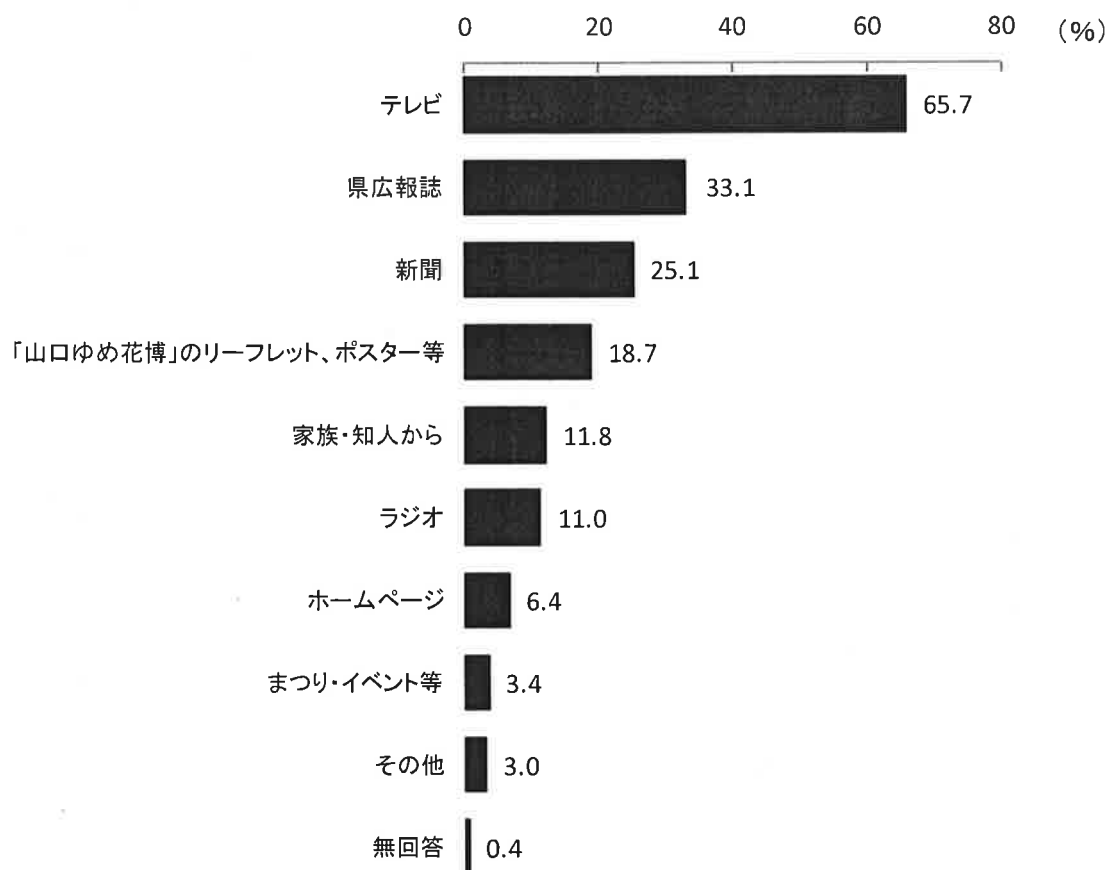


「山口ゆめ花博」開催の認知状況について、「知っている」が31.9%、「知らない」は62.8%となっている。

5-2. 「山口ゆめ花博」開催の認知媒体

【Q5-1で「1. 知っている」と回答した方に】 (n=498)

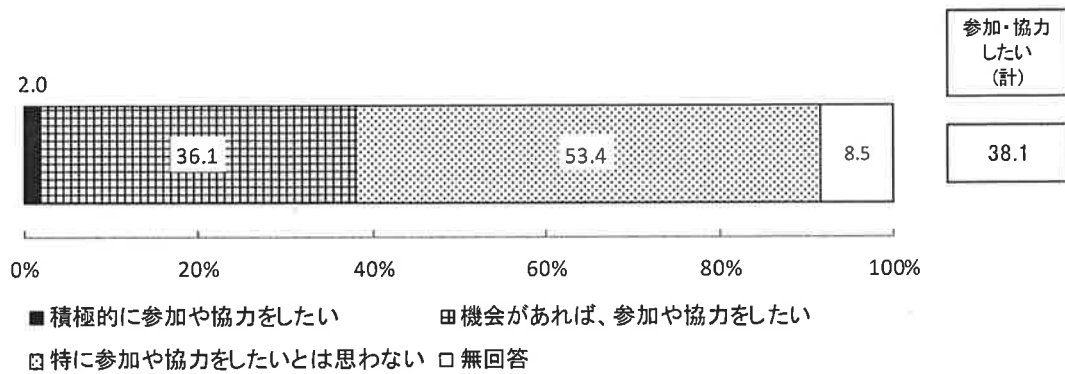
Q5-2 それは、何を通じてお知りになりましたか。(〇はいくつでも)



「山口ゆめ花博」開催を何を通じて知ったかについて、「テレビ」が 65.7%と最も高く、次いで「県広報誌」(33.1%)、「新聞」(25.1%)、「『山口ゆめ花博』のリーフレット、ポスター等」(18.7%)、「家族・知人から」(11.8%)、「ラジオ」(11.0%)などの順となっている。

## 5-3. 「山口ゆめ花博」への参加・協力意向

Q5-3 「山口ゆめ花博」では、みんなでつくるフェアを基本方針に、自治体、関係団体、企業、県民が知恵を出し合い、みんなの力を結集してつくりあげることとしています。あなたは、「山口ゆめ花博」に参加や協力をしたいと思いますか。(〇は1つ)

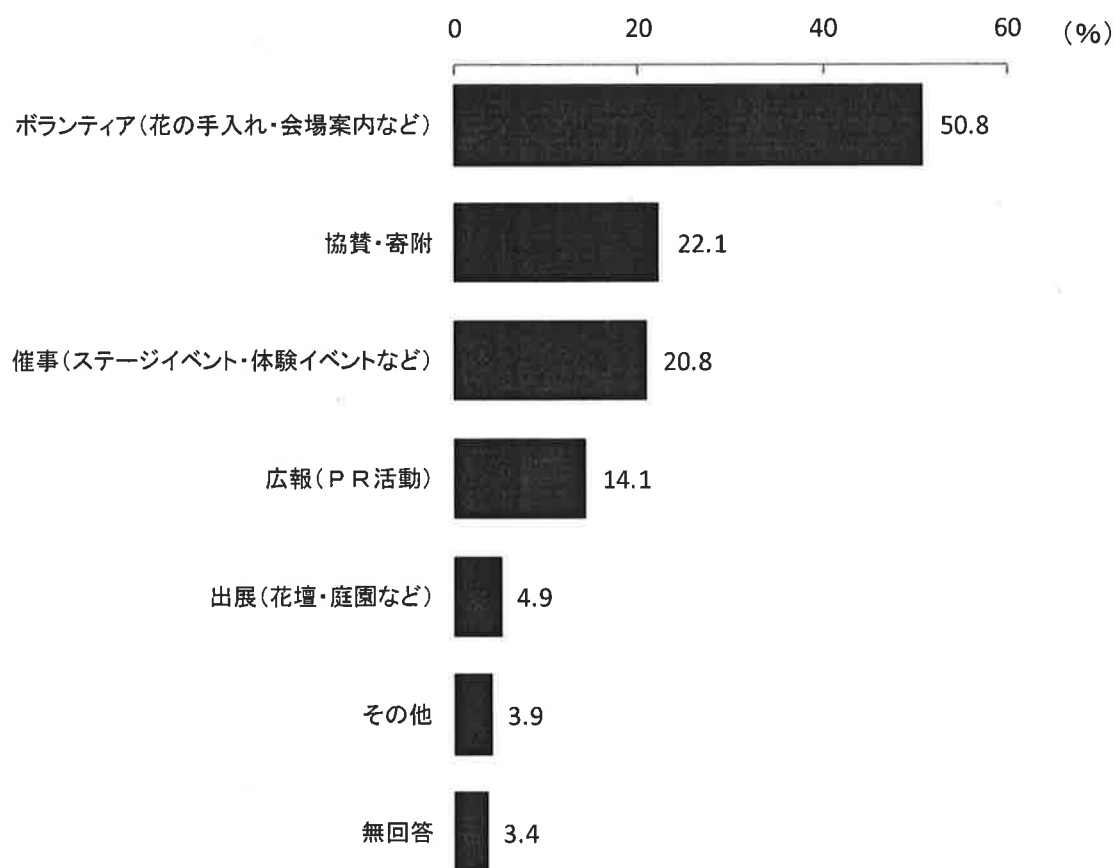


「山口ゆめ花博」への参加・協力意向について、「積極的に参加や協力をしたい」と「機会があれば、参加や協力をしたい」を合わせた『参加・協力したい (計)』は38.1%、「特に参加や協力をしたいとは思わない」は53.4%となっている。

## 5-4. 「山口ゆめ花博」へどのような形で参加や協力をしてみたいか

【Q5-3で「1. 積極的に参加や協力をしたい」「2. 機会があれば、参加や協力をしたい」と回答した方に】 (n=596)

Q5-4 どのような形で参加や協力をしてみたいと思いますか。(〇はいくつでも)

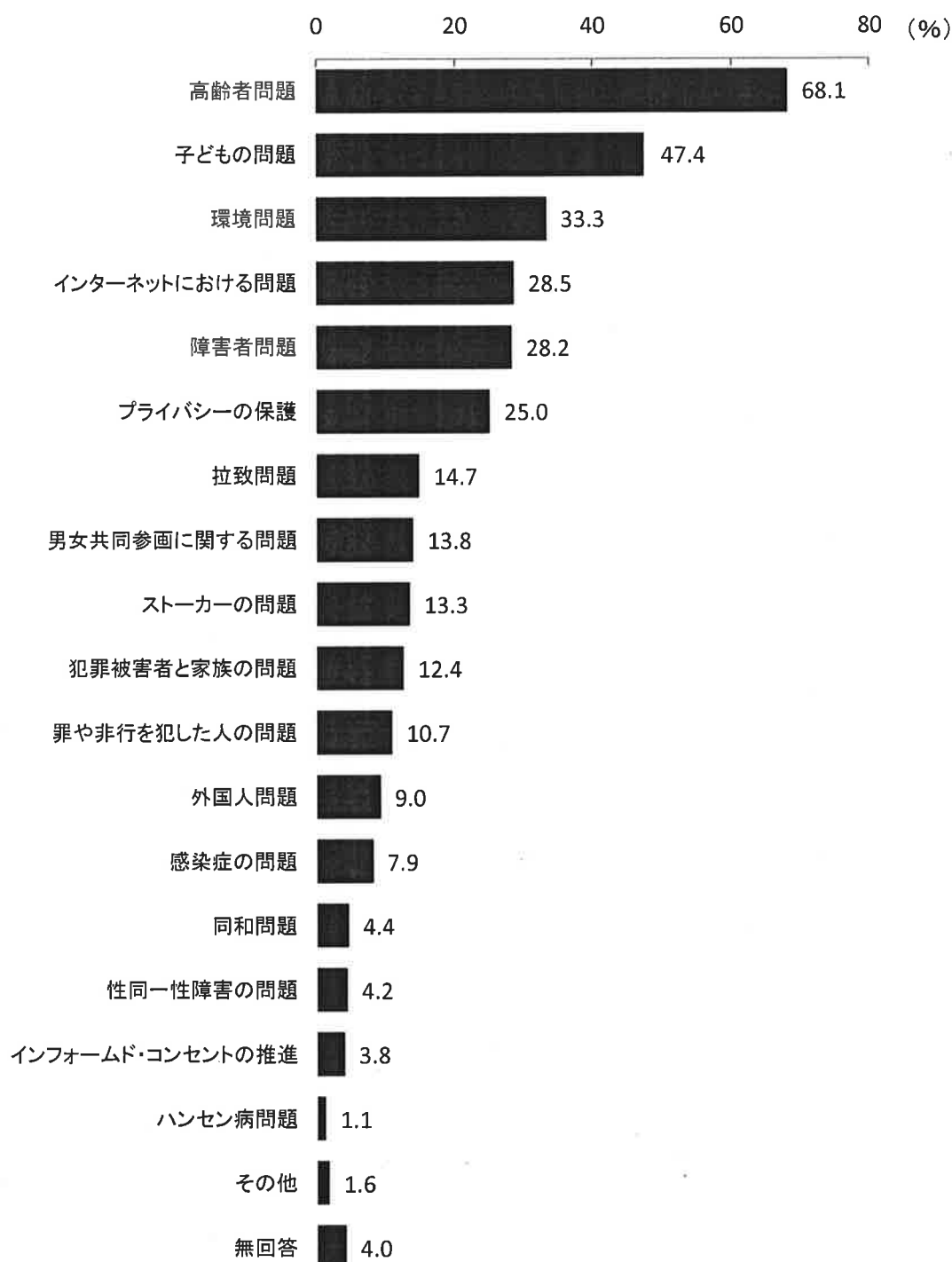


「山口ゆめ花博」へどのような形で参加や協力をしてみたいかについて、「ボランティア（花の手入れ・会場案内など）」が50.8%と最も高く、次いで「協賛・寄附」（22.1%）、「催事（ステージイベント・体験イベントなど）」（20.8%）、「広報（P R活動）」（14.1%）などの順となっている。

## 6. 関心がある人権問題について

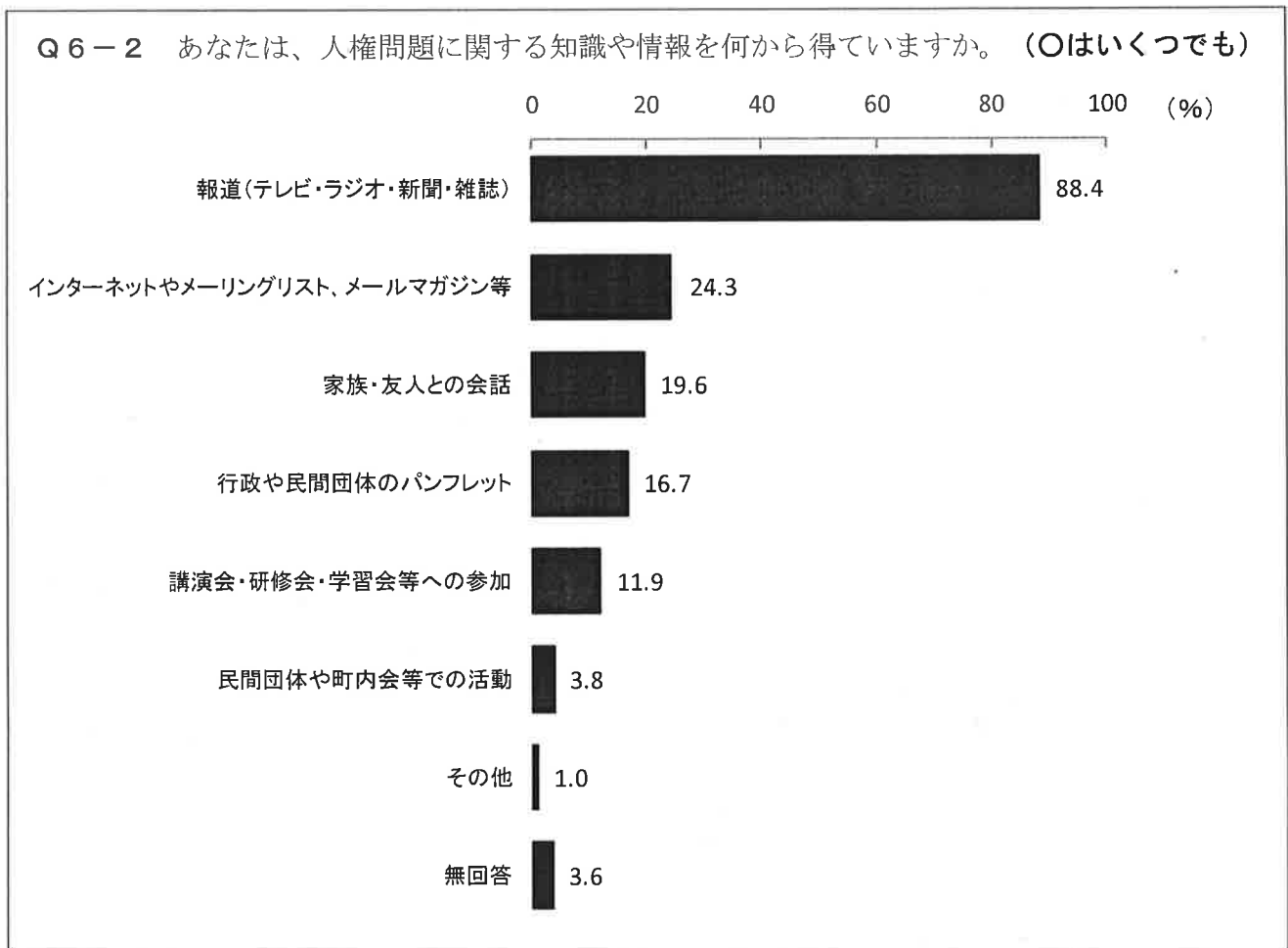
## 6-1. 関心がある人権問題

Q6-1 あなたは、現在どのような人権問題に関心をお持ちですか。(〇はいくつでも)



関心がある人権問題について、「高齢者問題」が68.1%と最も高く、次いで「子どもの問題」(47.4%)、「環境問題」(33.3%)、「インターネットにおける問題」(28.5%)、「障害者問題」(28.2%)などの順となっている。

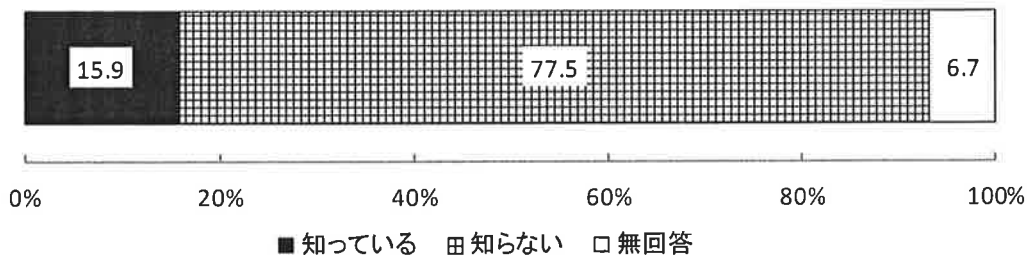
## 6-2. 人権問題に関する知識や情報の入手媒体



人権問題に関する知識や情報の入手媒体について、「報道(テレビ・ラジオ・新聞・雑誌)」が88.4%と最も高く、次いで「インターネットやメーリングリスト、メールマガジン等」(24.3%)、「家族・友人との会話」(19.6%)などの順となっている。

6-3. 「山口県人権推進指針」の認知状況

Q6-3 山口県では、「山口県人権推進指針」を策定し、人権に関する諸施策を総合的に推進しています。あなたは、この「山口県人権推進指針」をご存じですか。(〇は1つ)

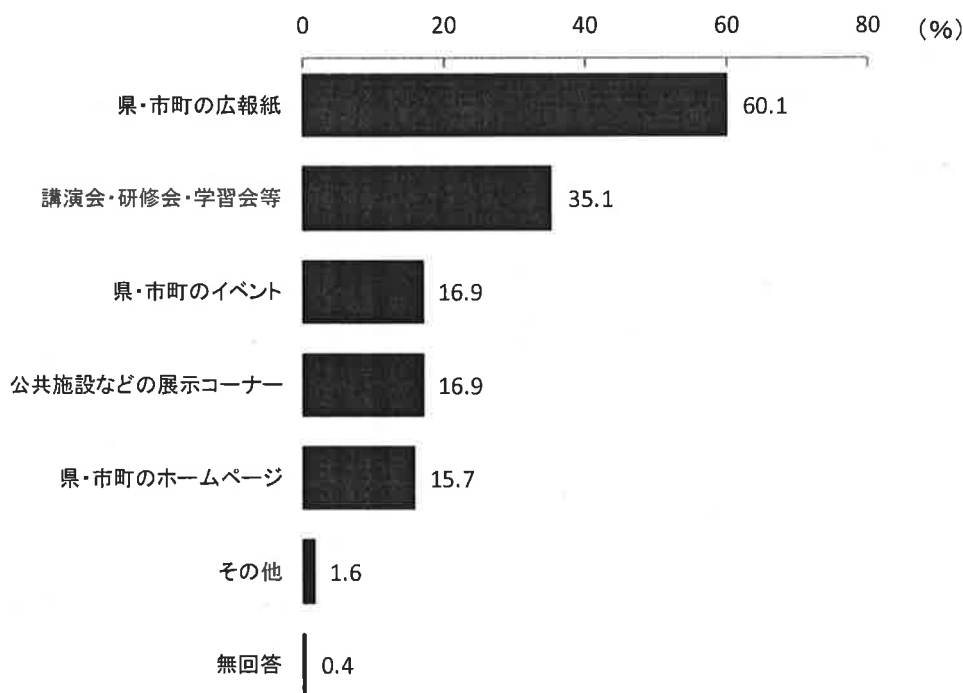


「山口県人権推進指針」の認知状況について、「知っている」が 15.9%、「知らない」が 77.5%となっている。

6-4. 「山口県人権推進指針」の認知媒体

【Q6-3で「1. 知っている」と回答した方に】 (n=248)

Q6-4 それは、何を通じてお知りになりましたか。(〇はいくつでも)



「山口県人権推進指針」を何を通じて知ったかについて、「県・市町の広報紙」が 60.1%と最も高く、次いで「講演会・研修会・学習会等」(35.1%)、「県・市町のイベント」(16.9%)、「公共施設などの展示コーナー」(16.9%)などの順となっている。

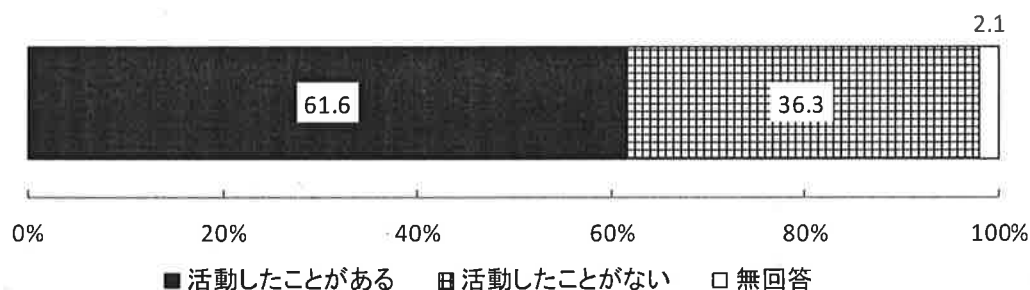


## 7. 県民活動について

「県民活動」とは、営利を目的としない県民の自主的・主体的な社会参加活動で不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを目的とする活動であり、活動の形態としては、コミュニティ活動（地域住民活動）、ボランティア活動（個人の自発的な意思に基づく活動）、NPO 活動（一定の規模を備えた組織的な活動）をいいます。

### 7-1. 県民活動状況

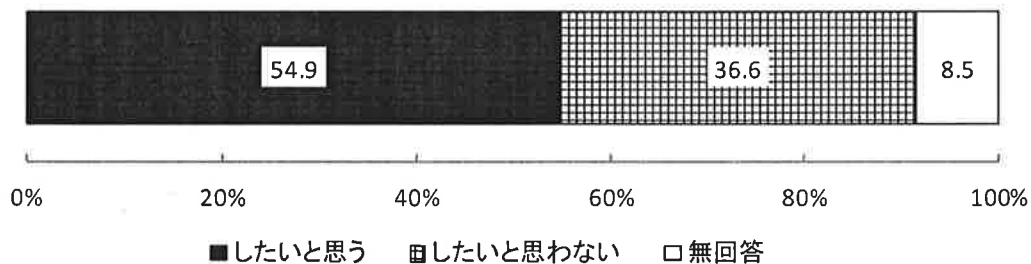
Q7-1 あなたは、地域の清掃やスポーツ行事、まちづくり、リサイクル、高齢者や障害者のための福祉、子育て支援など、仕事以外で地域や社会のために活動したことはありますか。（〇は1つ）



県民活動状況について、「活動したことがある」が 61.6%、「活動したことがない」が 36.3%となっている。

### 7-2. 県民活動意向

Q7-2 あなたは、今後このような活動をしたいと思いませんか。（〇は1つ）

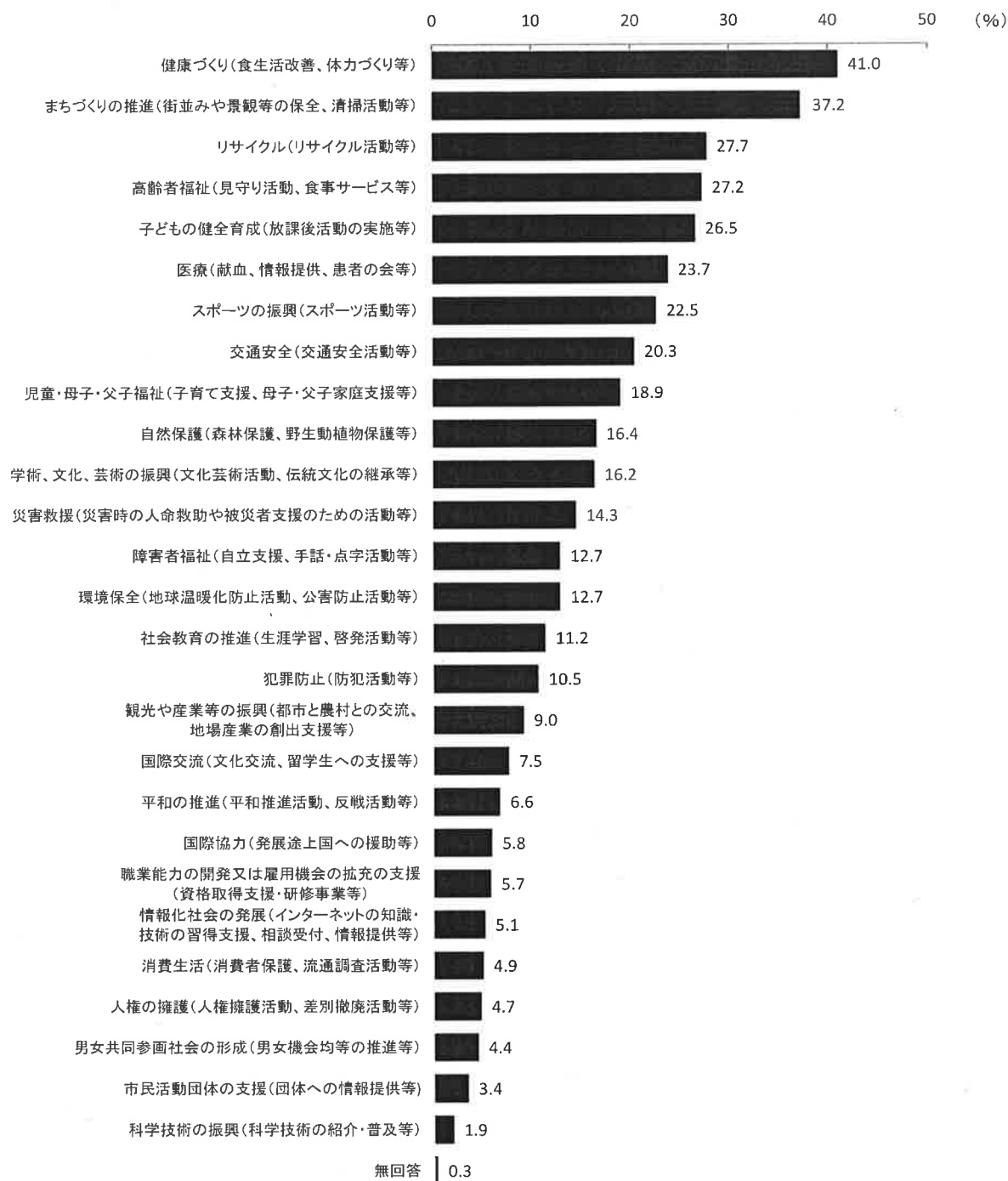


県民活動意向について、「したいと思う」が 54.9%、「したいと思わない」が 36.6%となっている。

7-3. 活動したい県民活動分野

【Q7-2で「1. したいと思う」と回答した方に】 (n=858)

Q7-3 どのような分野の活動をしたいと思いますか。(〇はいくつでも)

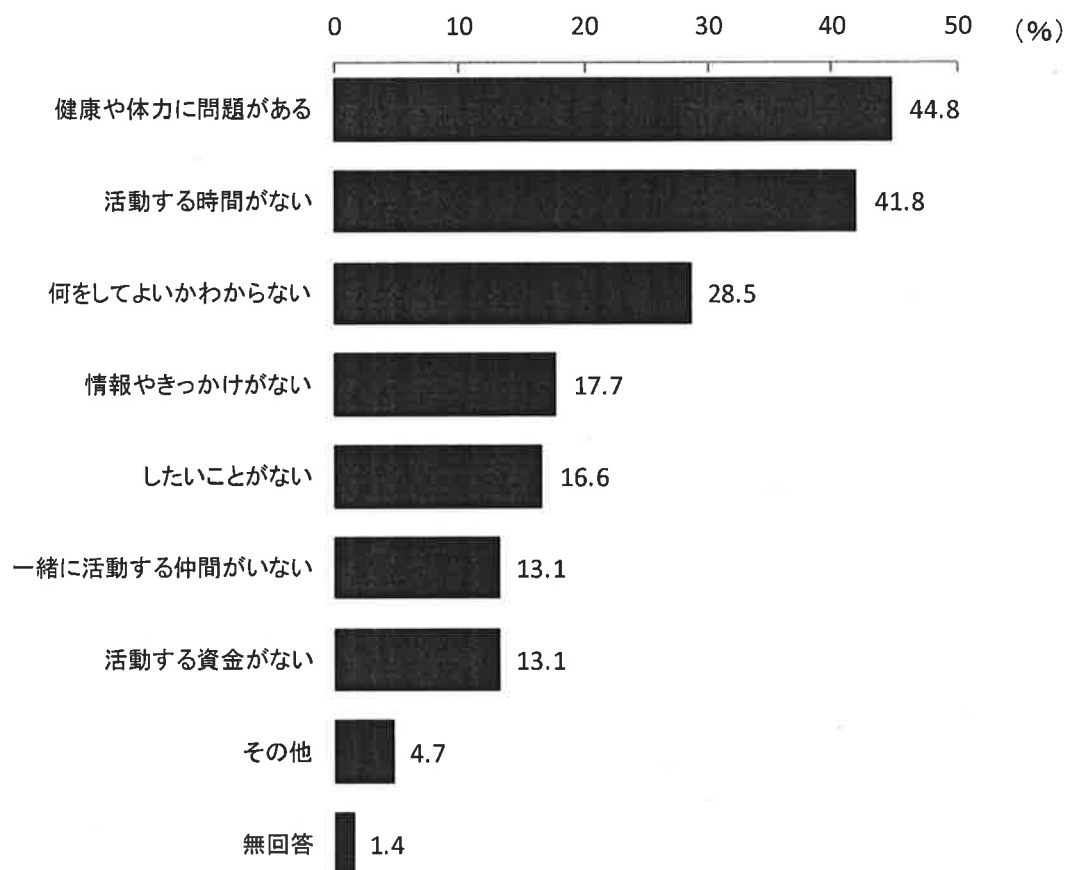


Q7-2で県民活動を「したいと思う」と回答された方に、活動したい県民活動分野について質問すると、「健康づくり(食生活改善、体力づくり等)」が41.0%と最も高く、次いで「まちづくりの推進(街並みや景観等の保全、清掃活動等)」(37.2%)、「リサイクル(リサイクル活動等)」(27.7%)、「高齢者福祉(見守り活動、食事サービス等)」(27.2%)などの順となっている。

## 7-4. 県民活動をしたくない理由

【Q7-2で「2. したいと思わない」と回答した方に】 (n=572)

Q7-4 その理由を、次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

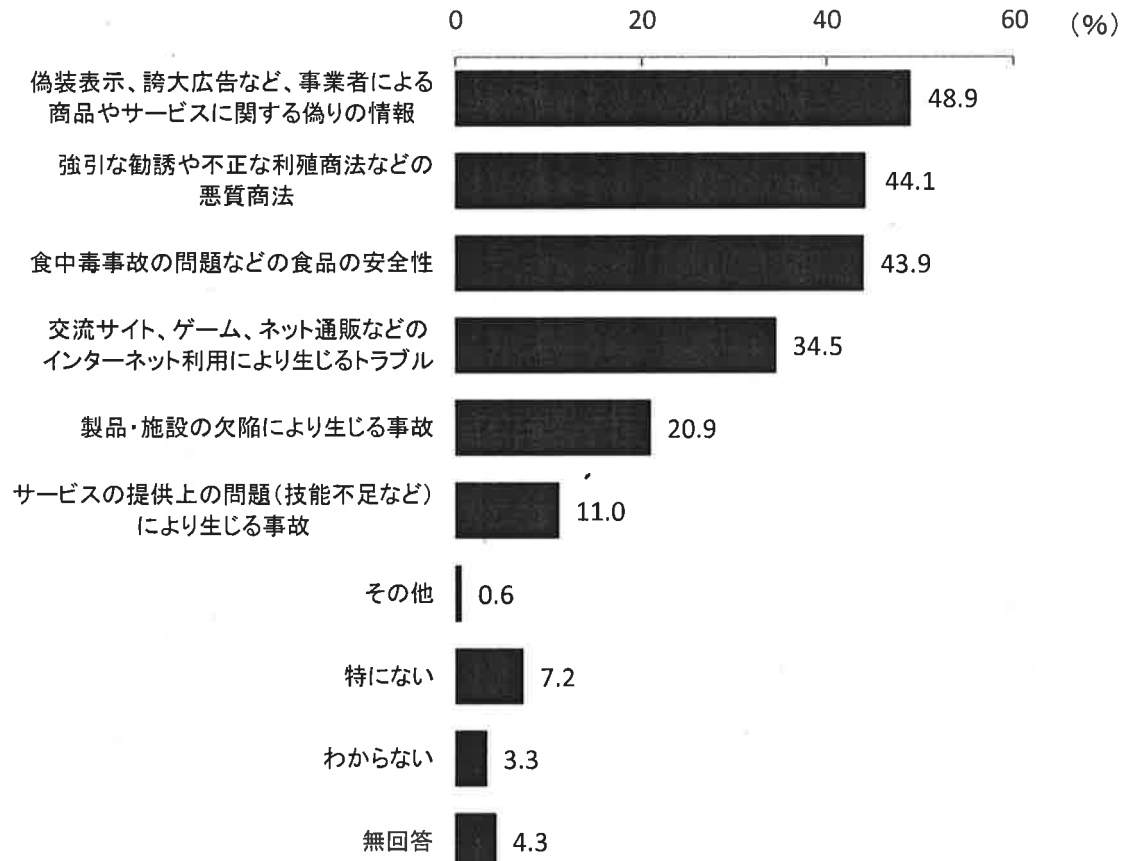


Q7-2で県民活動を「したいと思わない」と回答された方に、県民活動をしたくない理由について質問すると、「健康や体力に問題がある」が44.8%と最も高く、次いで「活動する時間がない」(41.8%)、「何をしてもよいかわからない」(28.5%)、「情報やきっかけがない」(17.7%)などの順となっている。

## 8. 消費生活に関することについて

## 8-1. 関心がある消費者問題

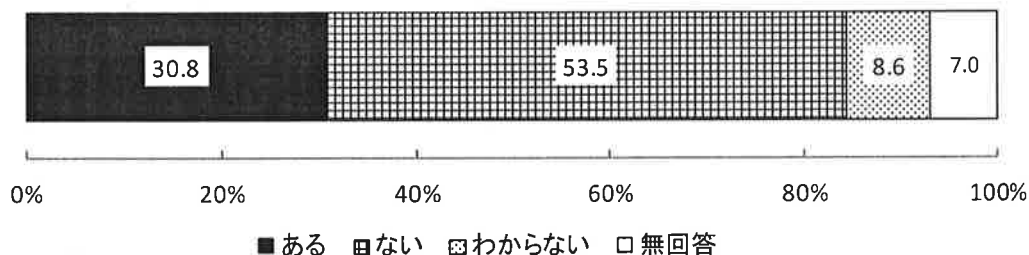
Q8-1 あなたは、どういった分野の消費者問題に対して関心がありますか。(〇はいくつでも)



関心がある消費者問題について、「偽装表示、誇大広告など、事業者による商品やサービスに関する偽りの情報」が48.9%と最も高く、次いで「強引な勧誘や不正な利殖商法などの悪質商法」(44.1%)、「食中毒事故の問題などの食品の安全性」(43.9%)、「交流サイト、ゲーム、ネット通販などのインターネット利用により生じるトラブル」(34.5%)などの順となっている。

8-2. 宣伝だけでの商品利用・購入経験

Q8-2 あなたは、店頭での広告やテレビでの宣伝、ホームページにおける表示など不特定多数に向けてなされる宣伝を見ただけで、商品・サービスの内容を確かめたり、相手方の事業者から直接説明を聞いたりすることなく、購入や利用をしたことはありますか。(〇は1つ)

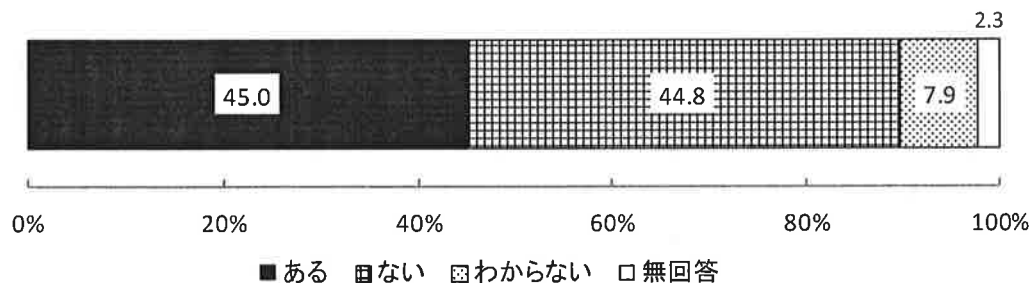


宣伝だけでの商品利用・購入経験について、「ある」は30.8%、「ない」は53.5%となっている。

8-3. 宣伝内容と商品・サービス内容の違い

【Q8-2で「1. ある」と回答した方に】 (n=482)

Q8-3 その場合に、宣伝の際の表示の内容と実際に買った商品・サービスの内容が異なっていたと思ったことはありますか。(〇は1つ)

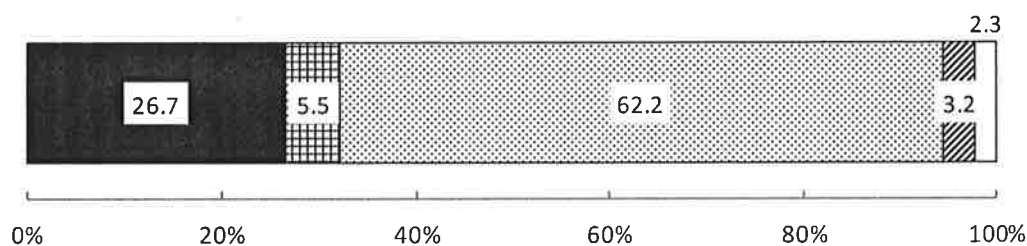


Q8-2で宣伝だけでの商品利用・購入経験が「ある」と回答された方に、宣伝内容と商品・サービス内容の違いについて質問すると、「ある」は45.0%、「ない」は44.8%となっている。

## 8-4. 宣伝内容と商品・サービス内容が違った時にとった行動

【Q8-3で「1. ある」と回答した方に】 (n=217)

Q8-4 その際、まずあなたはどうしましたか。(〇は1つ)

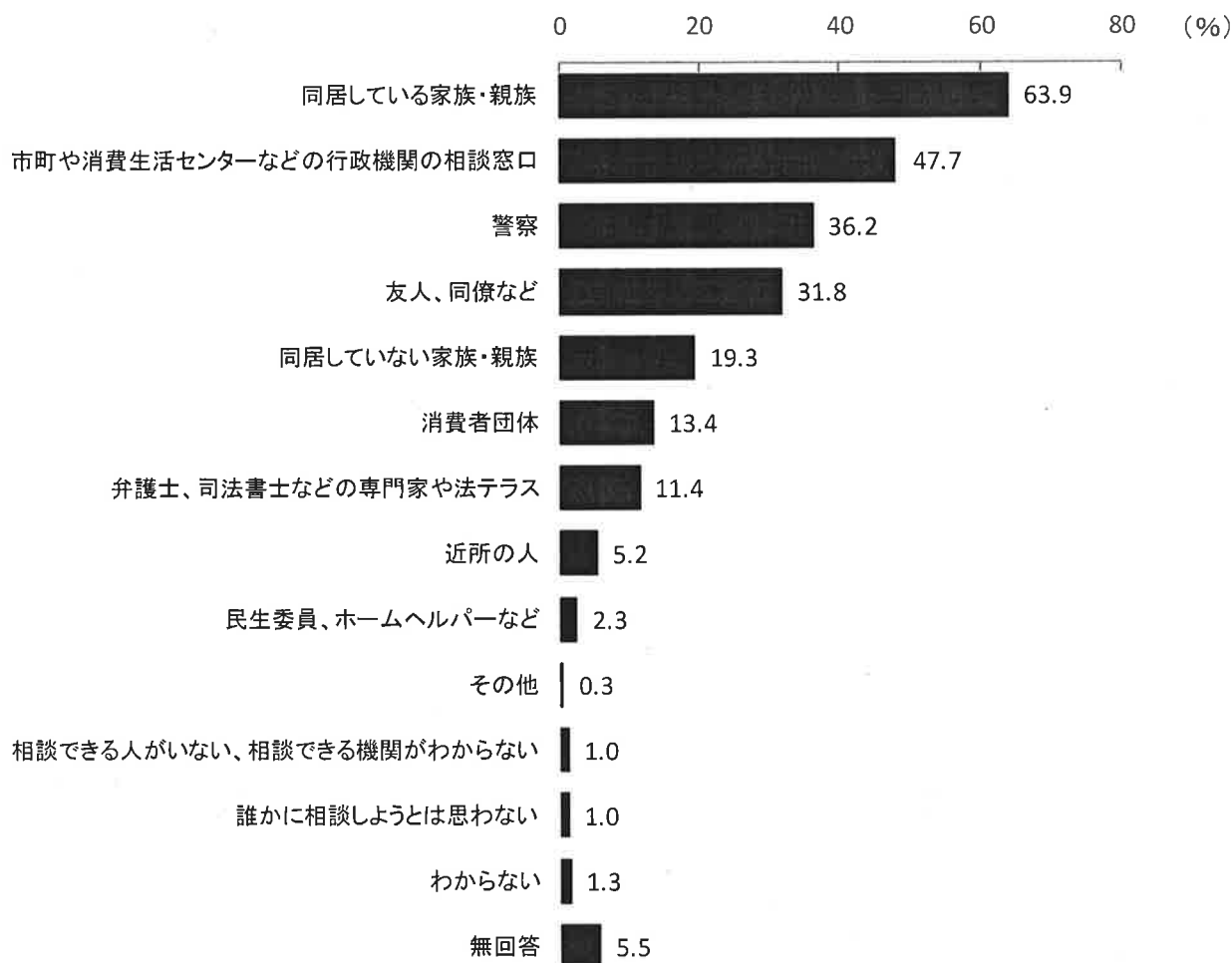


- 販売店やメーカーなどに苦情を申し出たり、返金や返品を求めたりした
- ▣ 消費生活センターなどの消費生活相談窓口、消費者団体、弁護士などに相談した
- 何もしなかった
- ▨ その他
- わからない
- 無回答

宣伝内容と商品・サービス内容の違った時にとった行動について、「何もしなかった」は62.2%、「販売店やメーカーなどに苦情を申し出たり、返金や返品を求めたりした」は26.7%、「消費生活センターなどの消費生活相談窓口、消費者団体、弁護士などに相談した」は5.5%となっている。何かした人より何もしなかった人の割合が高くなっている。

8-5. 被害を受けた時の相談相手

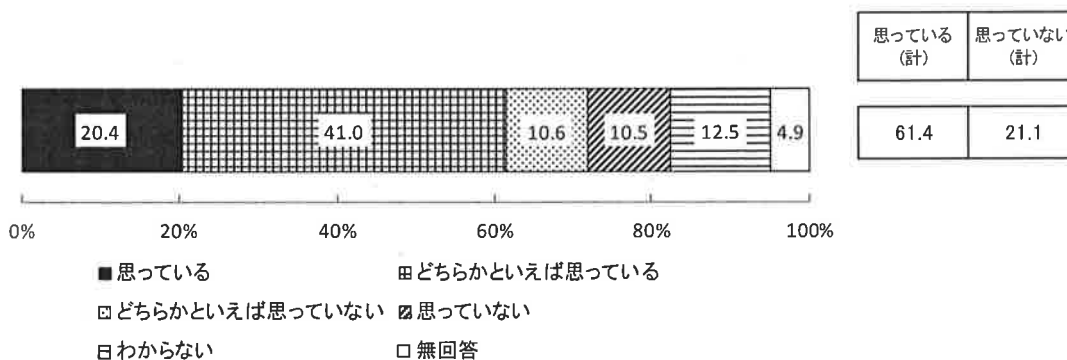
Q8-5 あなたは、強引な勧誘や詐欺的な勧誘を受けた場合や、そのような勧誘により契約を締結してしまった場合、誰に相談しようと思いますか。(〇はいくつでも)



被害を受けた時の相談相手について、「同居している家族・親族」が 63.9%と最も高く、次いで「市町や消費生活センターなどの行政機関の相談窓口」(47.7%)、「警察」(36.2%)、「友人、同僚など」(31.8%)などの順となっている。

8-6. 社会問題を意識しての商品サービス選択

Q8-6 あなたは、日頃、環境、食品ロス削減、地産・地消、被災地の復興、開発途上国の労働者の生活改善など、社会的課題につながることを意識して、商品・サービスを選択しようと思っていますか。(〇は1つ)

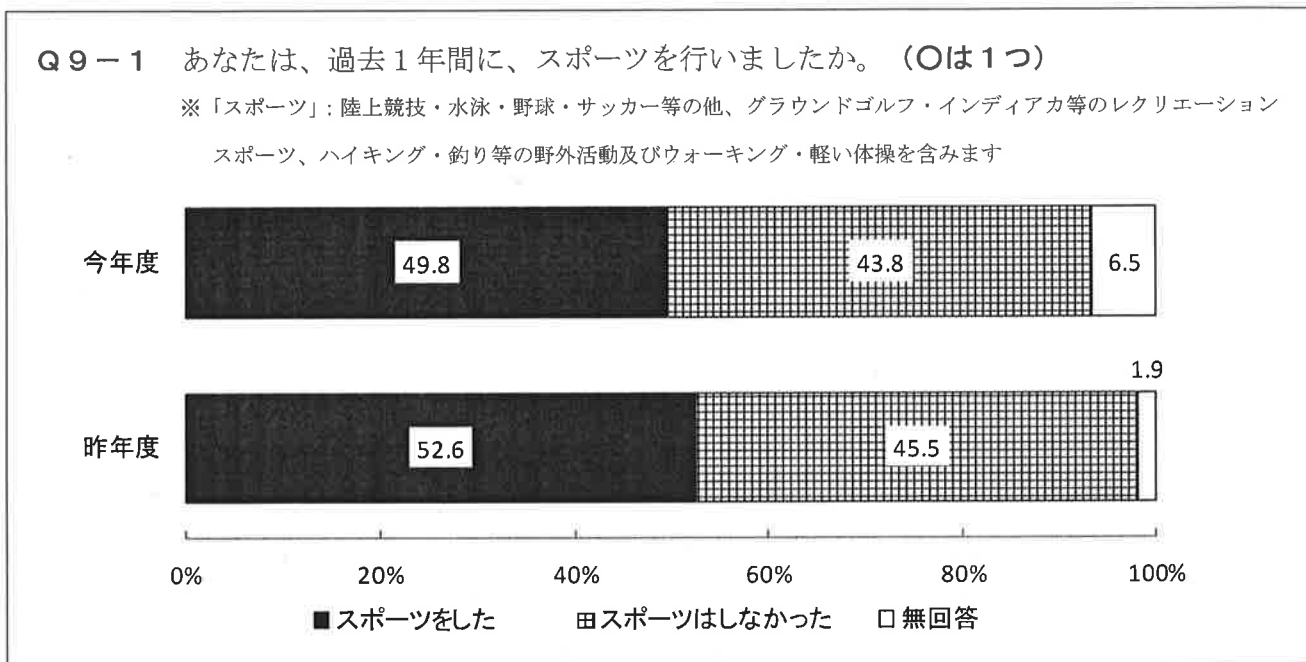


社会問題を意識しての商品サービス選択について、「思っている」と「どちらかといえば思っている」を合わせた『思っている (計)』は61.4%、「どちらかといえば思っていない」と「思っていない」を合わせた『思っていない (計)』は21.1%となっていて、社会問題を意識しての商品サービス選択をしている人の割合が高くなっている。



9. スポーツ活動の実施状況について

9-1. 過去1年間でのスポーツの実施状況

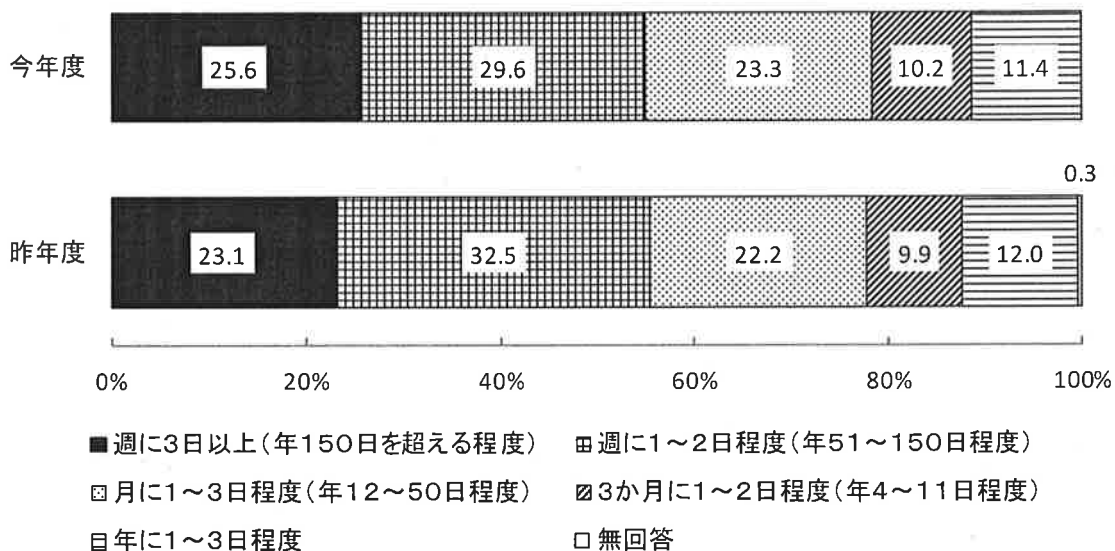


過去1年間のスポーツ実施状況について、「スポーツをした」は49.8%、「スポーツはしなかった」は43.8%となっている。昨年度と比較すると、「スポーツをした」が2.8ポイント低下している。

9-2. スポーツの実施頻度

【Q9-1で「1. スポーツをした」と回答した方に】 (n=778)

Q9-2 どれくらいの頻度でスポーツを行いましたか。(〇は1つ)

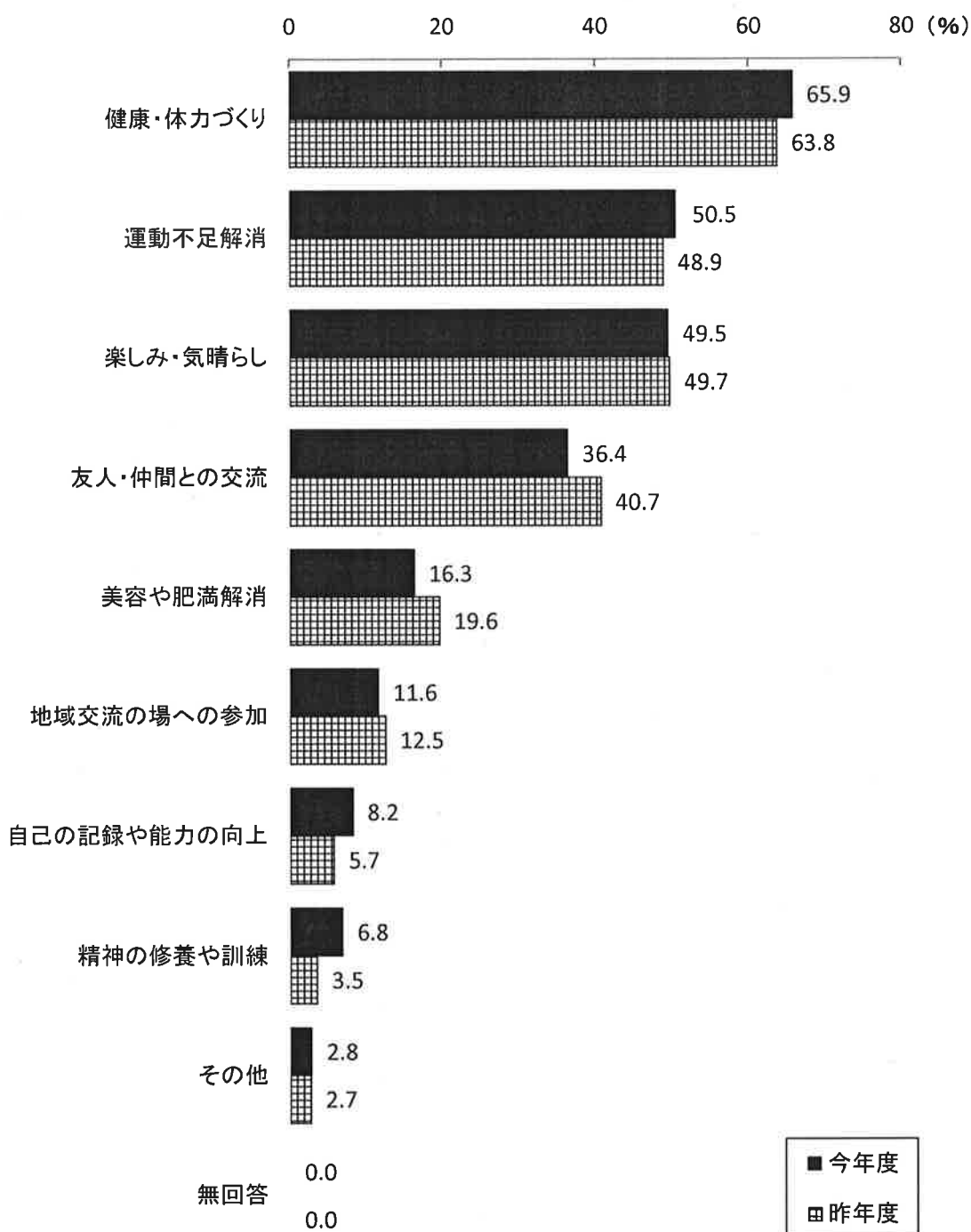


Q9-1で「スポーツをした」と回答された方に、スポーツ実施頻度について質問すると、「週に1~2日程度(年51~150日程度)」が29.6%と最も高く、次いで「週に3日以上(年150日を超える程度)」(25.6%)、「月に1~3日程度(年12~50日程度)」(23.3%)などの順となっている。昨年度と比較すると、「週に1~2日程度(年51~150日程度)」が2.9ポイント低下している。

9-3. スポーツを行った理由

【Q9-1で「1. スポーツをした」と回答した方に】 (n=778)

Q9-3 スポーツを行った理由は何ですか。(〇はいくつでも)

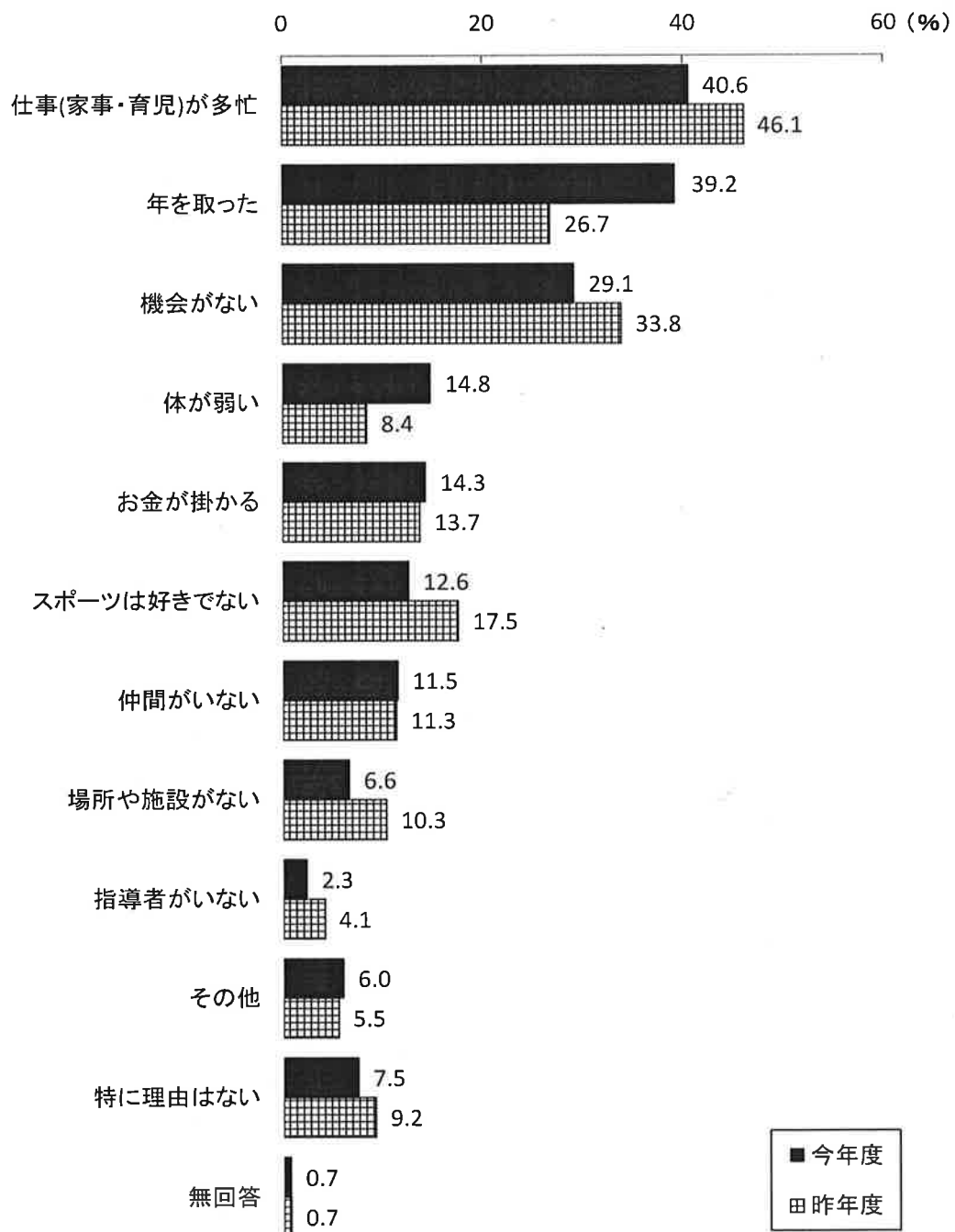


Q9-1で「スポーツをした」と回答された方に、スポーツを行った理由について質問すると、「健康・体力づくり」が65.9%と最も高く、次いで「運動不足解消」(50.5%)、「楽しみ・気晴らし」(49.5%)、「友人・仲間との交流」(36.4%)などの順となっている。昨年度と比較すると、「友人・仲間との交流」は4.3ポイント低下している。

9-4. スポーツを行わなかった理由

【Q9-1で「2. スポーツはしなかった」と回答した方に】 (n=684)

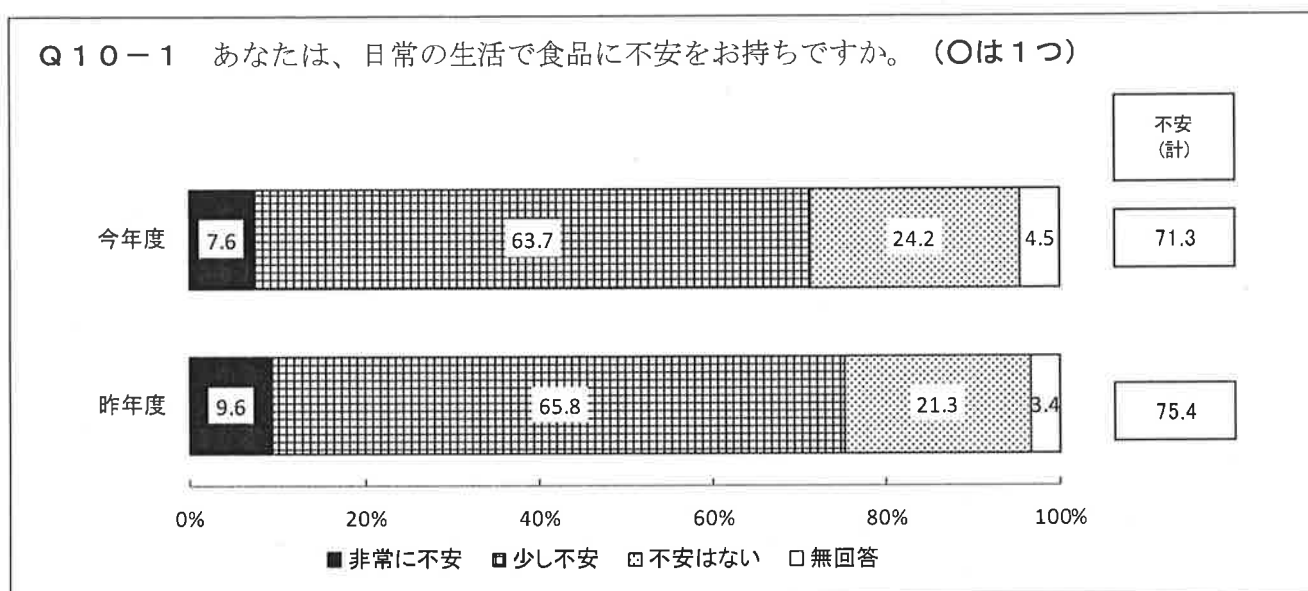
Q9-4 スポーツを行わなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)



Q9-1で「スポーツはしなかった」と回答された方に、スポーツを行わなかった理由について質問すると、「仕事(家事・育児)が多忙」が40.6%で最も高く、次いで「年を取った」(39.2%)、「機会がない」(29.1%)などの順となっている。昨年度と比較すると、「年を取った」が12.5ポイント、「体が弱い」が6.4ポイント上昇し、「仕事(家事・育児)が多忙」が5.5ポイント、「スポーツは好きでない」が4.9ポイント低下している。

## 10. 食の安心・安全について

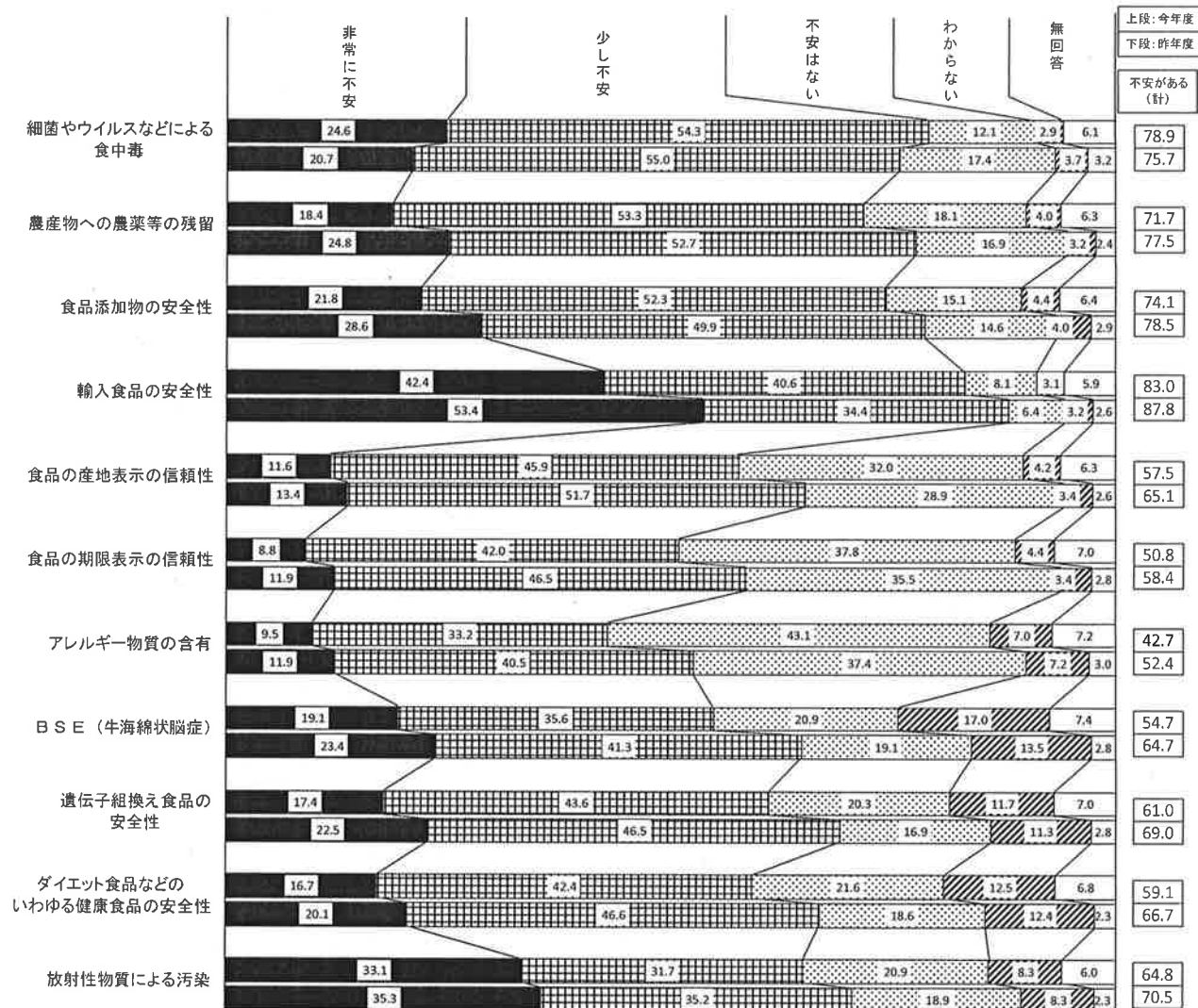
### 10-1. 食品に対する不安



食品に対する不安について、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安(計)』は71.3%と7割を超えている。昨年度と比較すると、『不安(計)』は4.1ポイント低下している。

10-2. 食品に対する不安の要因

Q10-2 あなたは食品について、どのようなことに不安をお持ちですか。  
 いずれか1つを○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

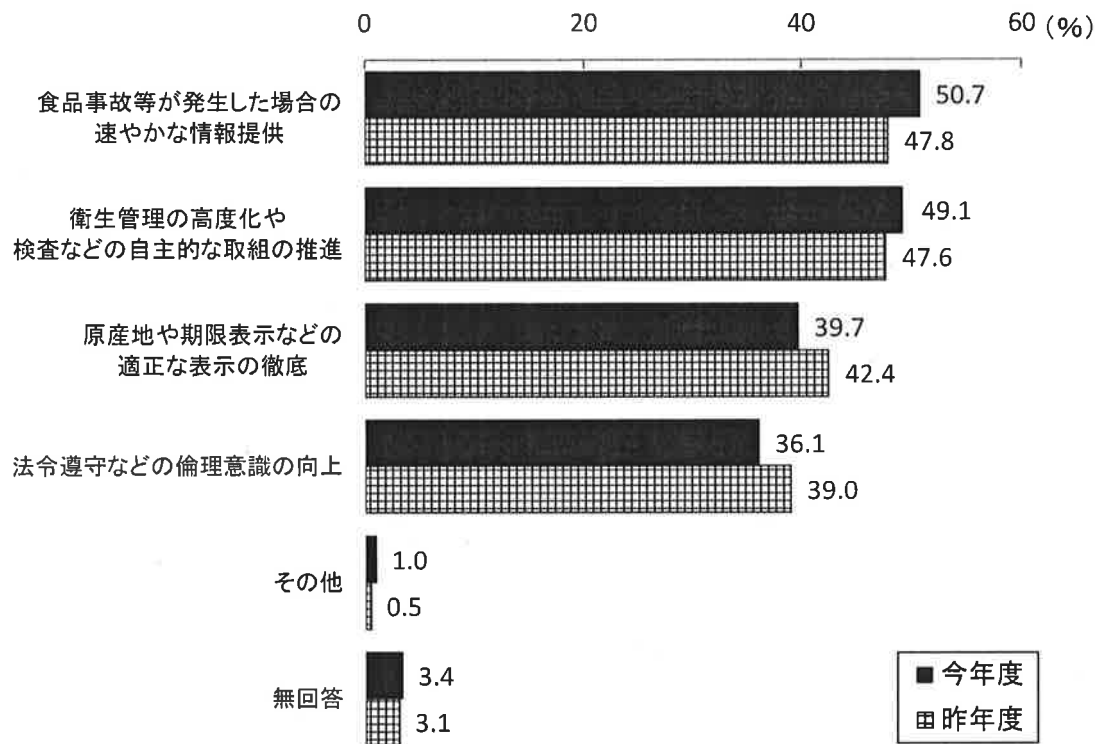


食品に対する不安の要因について、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安(計)』は、「輸入食品の安全性」で83.0%と最も高くなっている。昨年度と比較すると、「細菌やウイルスなどによる食中毒」(78.9%)以外、すべての項目で『不安(計)』が低下している。

10-3. 安全で安心な食生活を送るために必要な取組

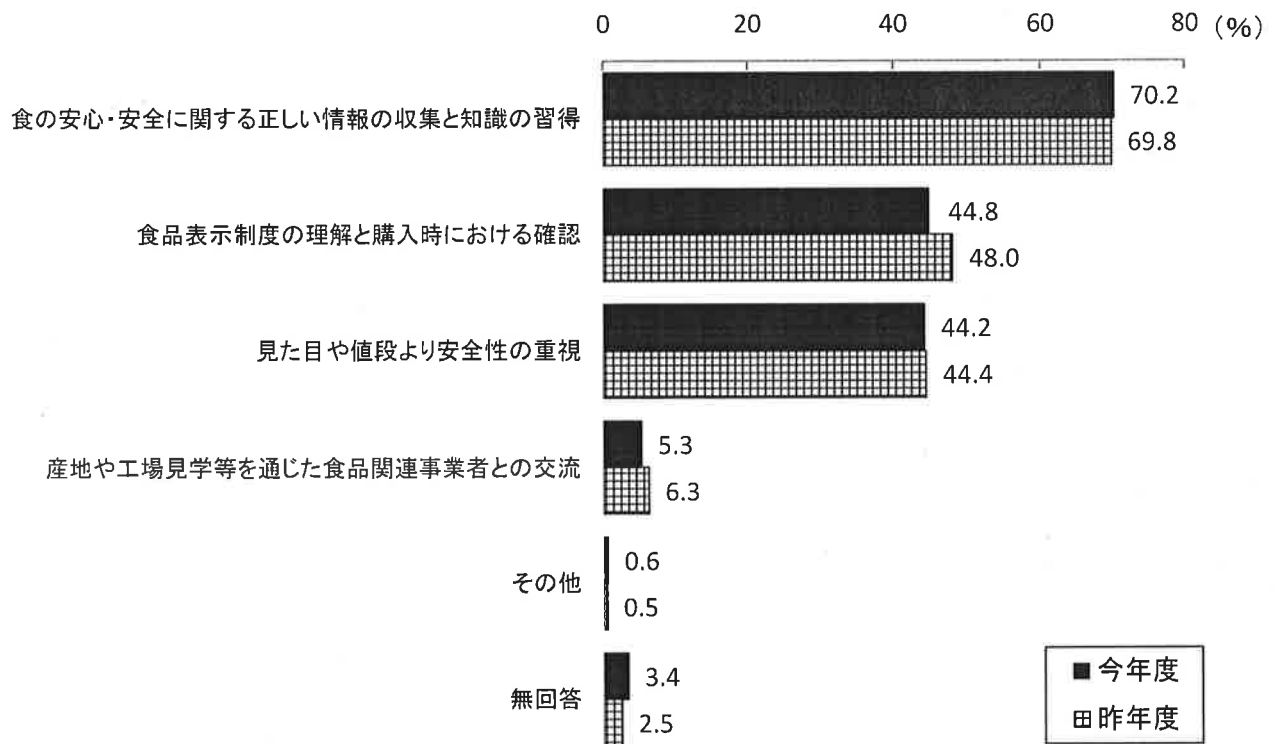
Q10-3 あなたは、県民が安全で安心な食生活を送るために、「食品関連事業者（生産者、製造・加工者、販売者）」、「消費者」、「県」は、それぞれどのような取組が必要だと思いますか。

(1) 食品関連事業者に望む取組 (〇は2つまで)



安全で安心な食生活を送るために「食品関連事業者」に望む取組について、「食品事故等が発生した場合の速やかな情報提供」が50.7%と最も高く、次いで「衛生管理の高度化や検査などの自主的な取組の推進」(49.1%)、「原産地や期限表示などの適正な表示の徹底」(39.7%)、「法令遵守などの倫理意識の向上」(36.1%)の順となっている。昨年度と比較すると、「食品事故等が発生した場合の速やかな情報提供」が2.9ポイント上昇し、「法令遵守などの倫理意識の向上」が2.9ポイント低下している。

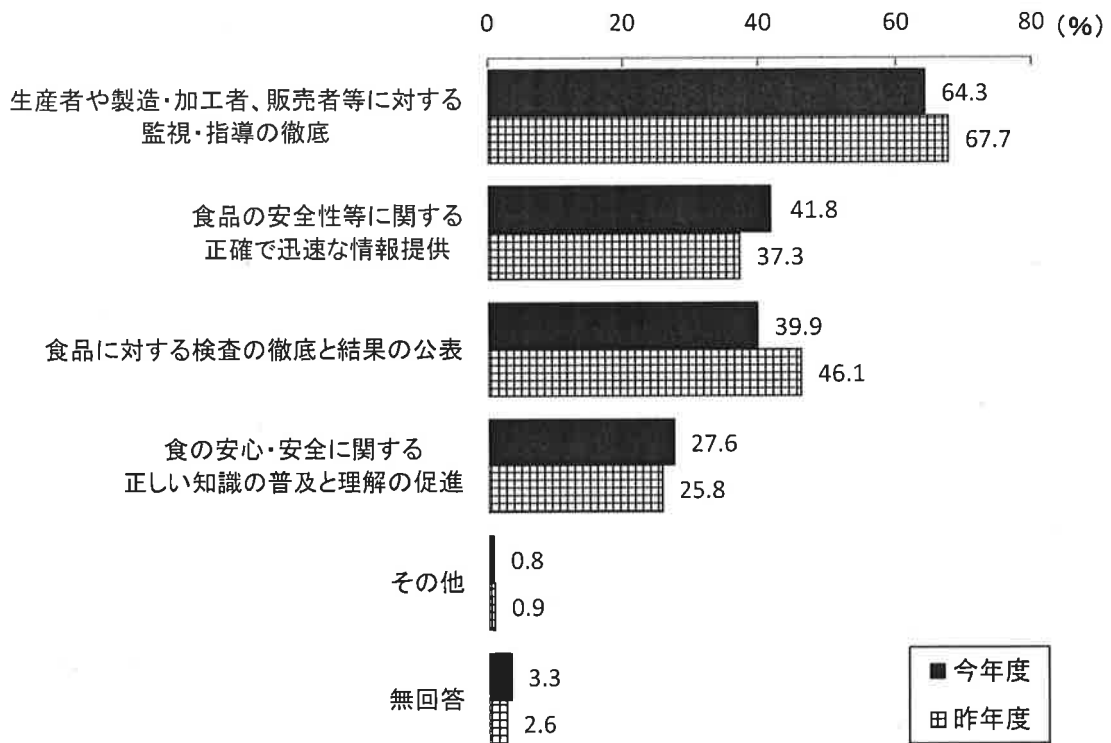
(2) 消費者に必要な取組 (〇は2つまで)



安全で安心な食生活を送るために「消費者」に必要な取組について、「食の安心・安全に関する正しい情報の収集と知識の習得」が70.2%と最も高く、次いで「食品表示制度の理解と購入時における確認」(44.8%)、「見た目や値段より安全性の重視」(44.2%)、「産地や工場見学等を通じた食品関連事業者との交流」(5.3%)の順となっている。昨年度と比較すると、「食品表示制度の理解と購入時における確認」が3.2ポイント低下している。



(3) 県に望む取組 (〇は2つまで)



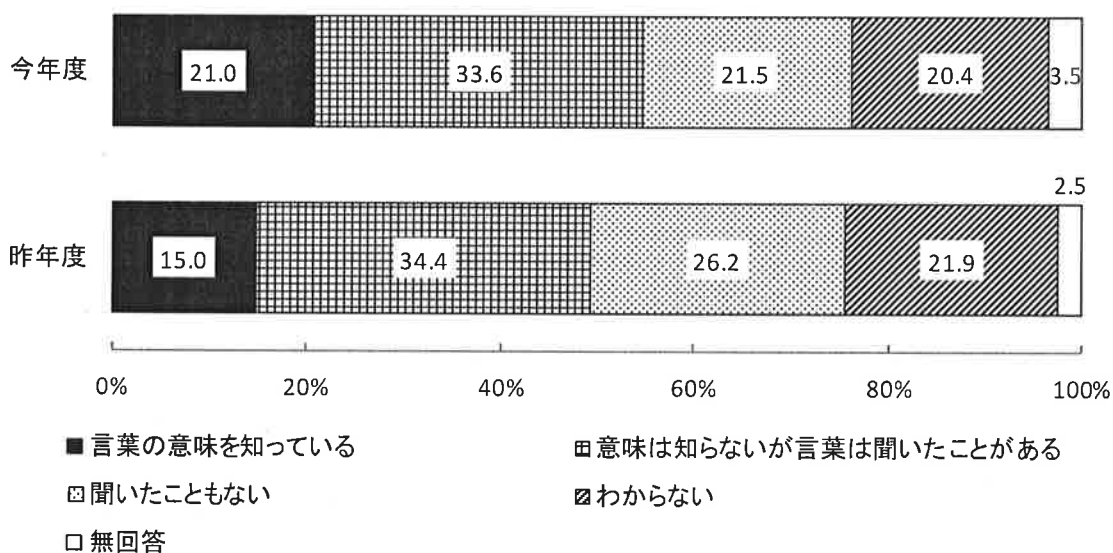
安全で安心な食生活を送るために「県」に望む取組について、「生産者や製造・加工者、販売者等に対する監視・指導の徹底」が64.3%と最も高く、次いで「食品の安全性等に関する正確で迅速な情報提供」(41.8%)、「食品に対する検査の徹底と結果の公表」(39.9%)、「食の安心・安全に関する正しい知識の普及と理解の促進」(27.6%)の順となっている。昨年度と比較すると、「食品に対する検査の徹底と結果の公表」が6.2ポイント低下している。

## 11. 生物多様性について

「生物多様性」とは、様々な生き物がいたり、山・川・海など生き物が暮らせる豊かな自然があることです。この生物多様性は、私たちの豊かな暮らしに欠かせない多くの自然の恵みをもたらしてくれます。

### 11-1. 「生物多様性」の認知状況

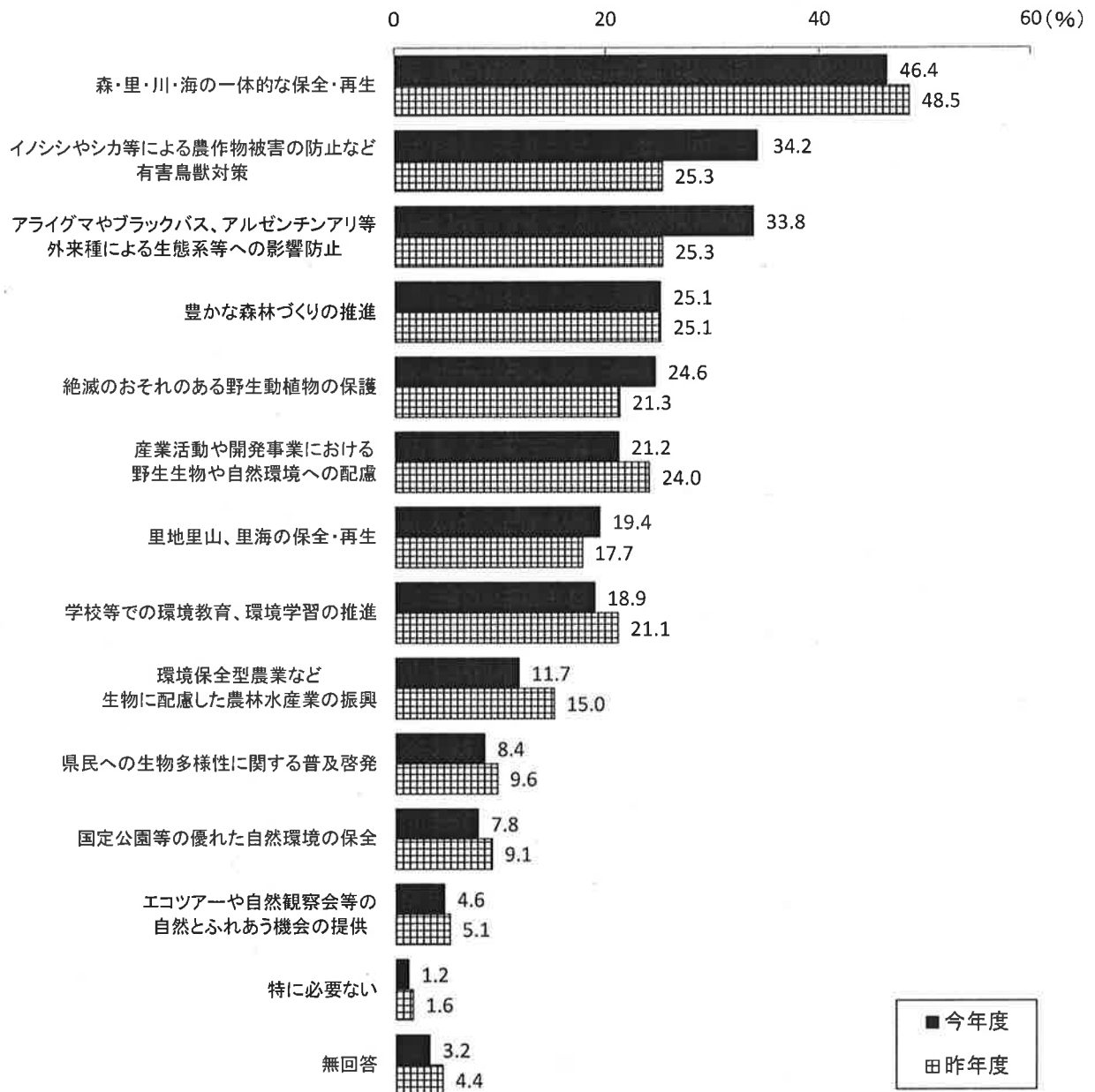
Q11-1 あなたは、「生物多様性」の言葉の意味を知っていますか。(〇は1つ)



「生物多様性」の認知状況について、「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」が33.6%と最も高く、次いで「聞いたこともない」(21.5%)、「言葉の意味を知っている」(21.0%)、「わからない」(20.4%)の順となっている。昨年度と比較すると、「言葉の意味を知っている」が6.0ポイント上昇している。

11-2. 生物多様性を守るために必要な取組

Q11-2 生物多様性を守っていくために、どのような取組が必要だと思いますか。  
(〇は3つまで)

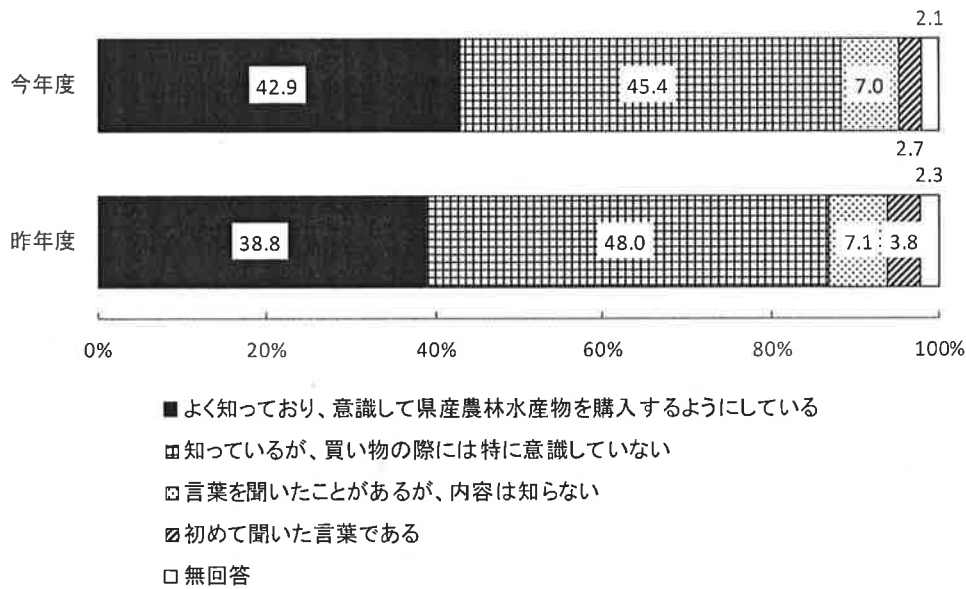


生物多様性を守るための必要な取組について、「森・里・川・海の一体的な保全・再生」が46.4%と最も高く、次いで「イノシシやシカ等による農作物被害の防止など有害鳥獣対策」(34.2%)、「アライグマやブラックバス、アルゼンチンアリ等外来種による生態系等への影響防止」(33.8%)、「豊かな森林づくりの推進」(25.1%)、「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」(24.6%)などの順となっている。昨年度と比較すると、「イノシシやシカ等による農作物被害の防止など有害鳥獣対策」は8.9ポイント上昇し、「アライグマやブラックバス、アルゼンチンアリ等外来種による生態系等への影響防止」は8.5ポイント上昇している。

12. 地産・地消の推進について

12-1. 「地産・地消」の認知状況

Q12-1 県内で生産された農林水産物を県内で消費する「地産・地消」についてご存じですか。(〇は1つ)

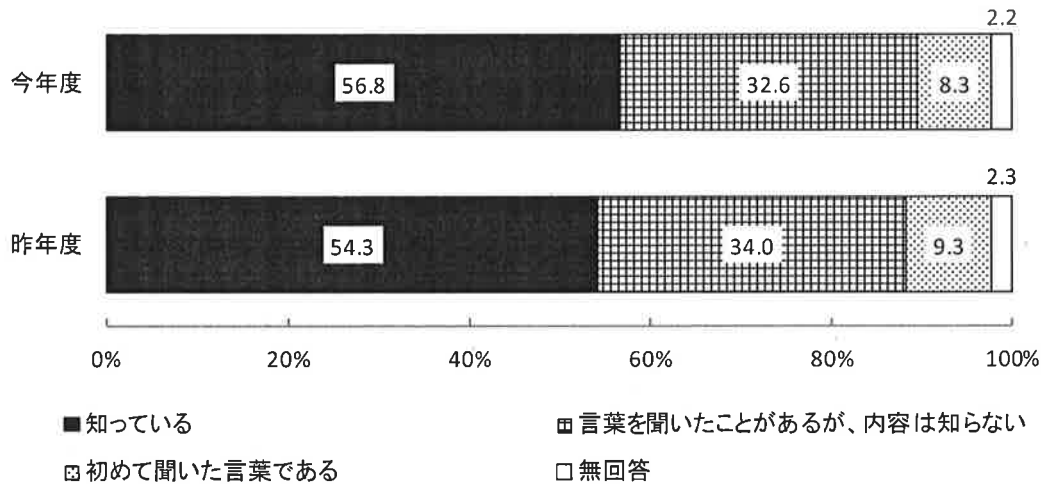


「地産・地消」の認知状況について、「知っているが、買い物の際には特に意識していない」が45.4%と最も高く、次いで「よく知っており、意識して県産農林水産物を購入するようにしている」(42.9%)、「言葉を聞いたことがあるが、内容は知らない」(7.0%)、「初めて聞いた言葉である」(2.7%)の順となっている。昨年度と比較すると、「よく知っており、意識して県産農林水産物を購入するようにしている」が4.1ポイント上昇し、「知っているが、買い物の際には特に意識していない」が2.6ポイント低下している。

12-2. 「やまぐちブランド」の認知状況

Q12-2 県産農林水産物等の需要拡大を進めるため、味や品質に優れる「やまぐちブランド」の育成に取り組んでおり、現在、「萩たまげなす」や「やまぐちのあまだい」など約80商品が登録されています。

あなたは、この「やまぐちブランド」をご存じですか。(〇は1つ)

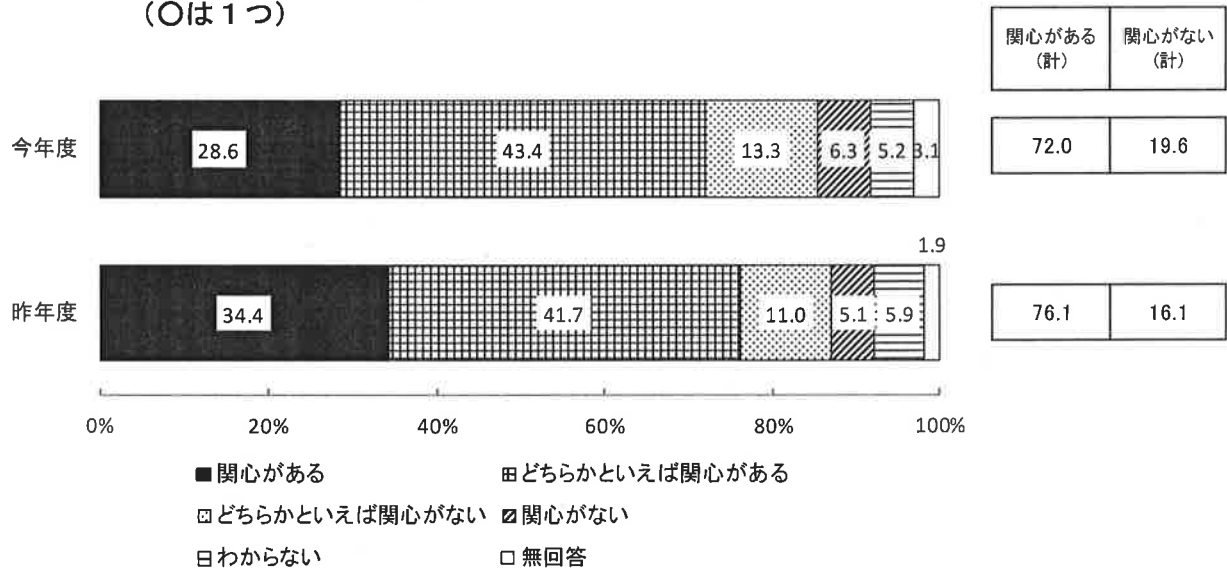


「やまぐちブランド」の認知状況について、「知っている」が56.8%と最も高く、次いで「言葉を聞いたことがあるが、内容は知らない」(32.6%)、「初めて聞いた言葉である」(8.3%)の順となっている。昨年度と比較すると、「知っている」が2.5ポイント上昇している。

### 13. 食育について

#### 13-1. 「食育」に対する関心度

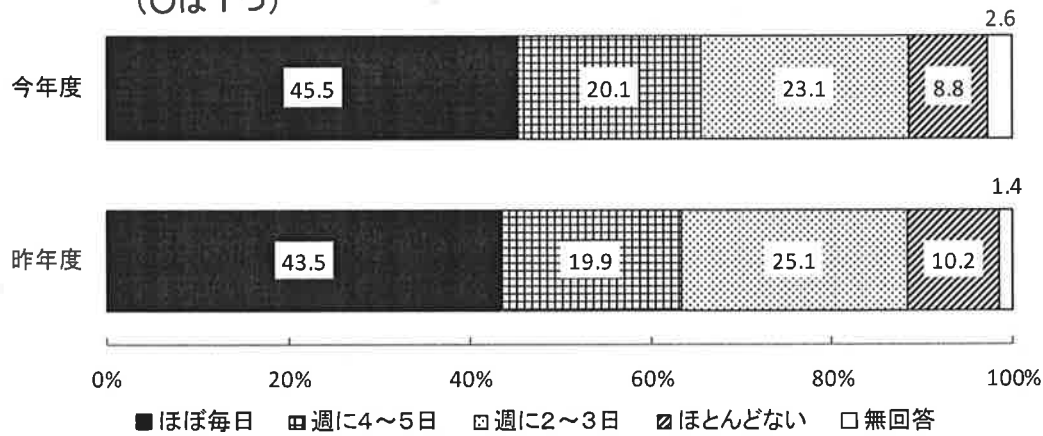
Q13-1 「食育」とは、「食」をめぐる状況の変化に伴うさまざまな問題に対処し、その解決を目指した取組をいいます。あなたは、「食育」について関心がありますか。  
(○は1つ)



食育に対する関心度について、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた『関心がある(計)』は72.0%、「関心がない」と「どちらかといえば関心がない」を合わせた『関心がない(計)』は19.6%となっている。昨年度と比較すると、『関心がある(計)』は4.1ポイント低下している。

13-2. 主食・主菜・副菜を揃えて食べる頻度

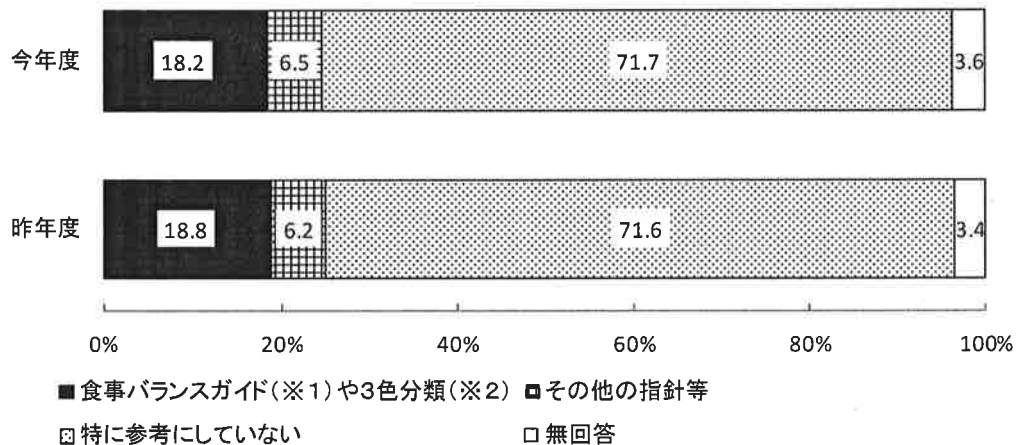
Q13-2 主食（ごはん、パン、麺など）・主菜（肉、魚、卵、大豆製品などを使ったメインの料理）、副菜（野菜、きのこ、いも、海藻などを使った小鉢・小皿の料理）を3つ揃えて食べることが1日2回以上あるのは、週に何日ありますか。（〇は1つ）



主食・主菜・副菜を揃えて食べる頻度について、「ほぼ毎日」が45.5%と最も高く、次いで「週に2~3日」(23.1%)、「週に4日~5日」(20.1%)、「ほとんどない」(8.8%)の順となっている。昨年度と比較すると、「ほぼ毎日」は2.0ポイント上昇し、「週に2~3日」は2.0ポイント低下している。

13-3. 日頃参考になっている指針等

Q13-3 あなたは、日頃の健全な食生活を実践するため、どのような指針等を参考にしていますか。（〇は1つ）



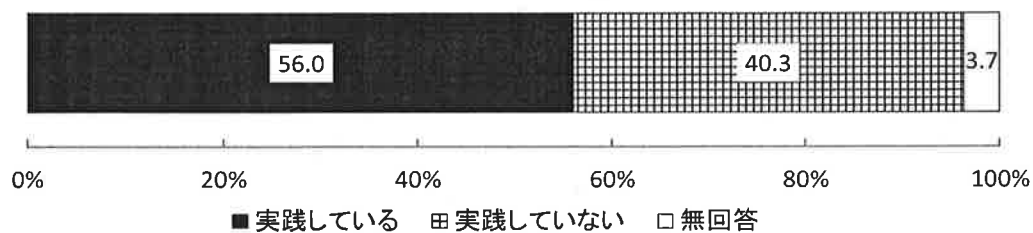
※1 「食事バランスガイド」：「何を」「どれだけ」食べたらよいかをわかりやすくコマで示したもの

※2 「3色分類」：食品の体内での主な働きを3つに分けて、主な食品を分類したもの

日頃参考になっている指針等について、「特に参考にしていない」が71.7%と最も高く、次いで「食事バランスガイドや3色分類」(18.2%)、「その他の指針等」(6.5%)の順となっている。昨年度と比較すると、大きな差はみられない。

## 13-4. 生活習慣病の予防や改善のための食事・運動の実践状況

Q13-4 あなたは、生活習慣病の予防や改善のために普段から適正体重の維持や減塩等に気を付けた食生活を実践していますか。(〇は1つ)



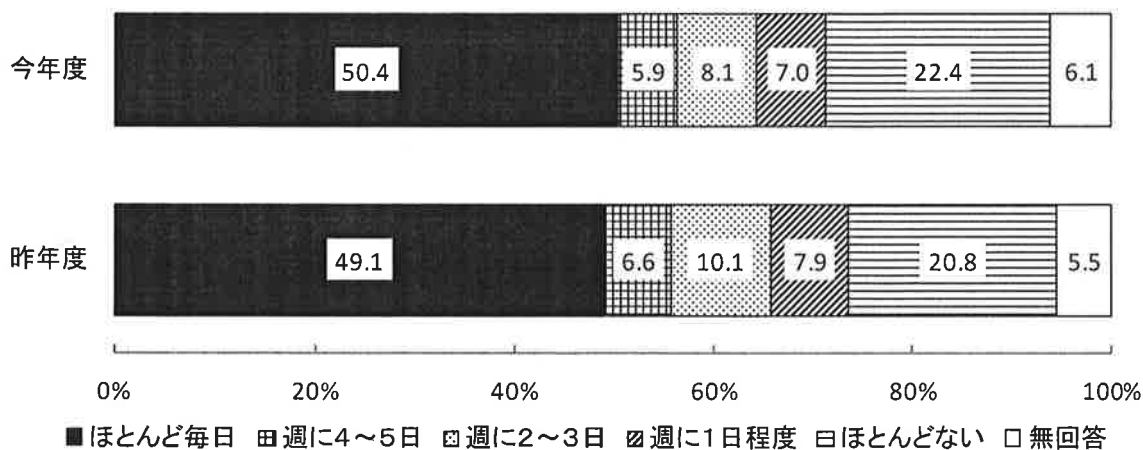
生活習慣病の予防や改善のための食事・運動の実践状況について、「実践している」は56.0%、「実践していない」は40.3%となっている。



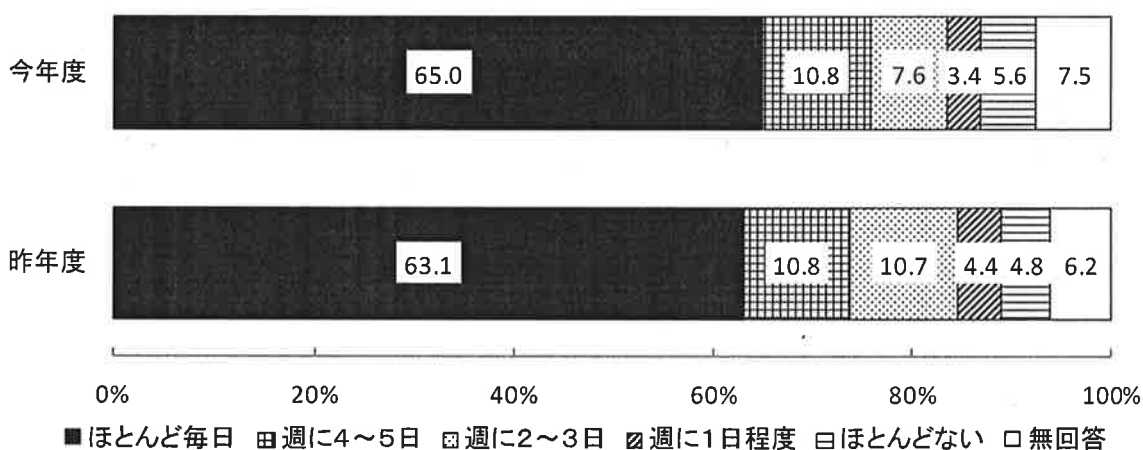
13-5. 朝食・夕食を家族と一緒に食べる頻度

Q13-5 家族と同居している方のみお答えください。(〇はそれぞれ1つつ) (n=1,412)

(ア) 朝食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか



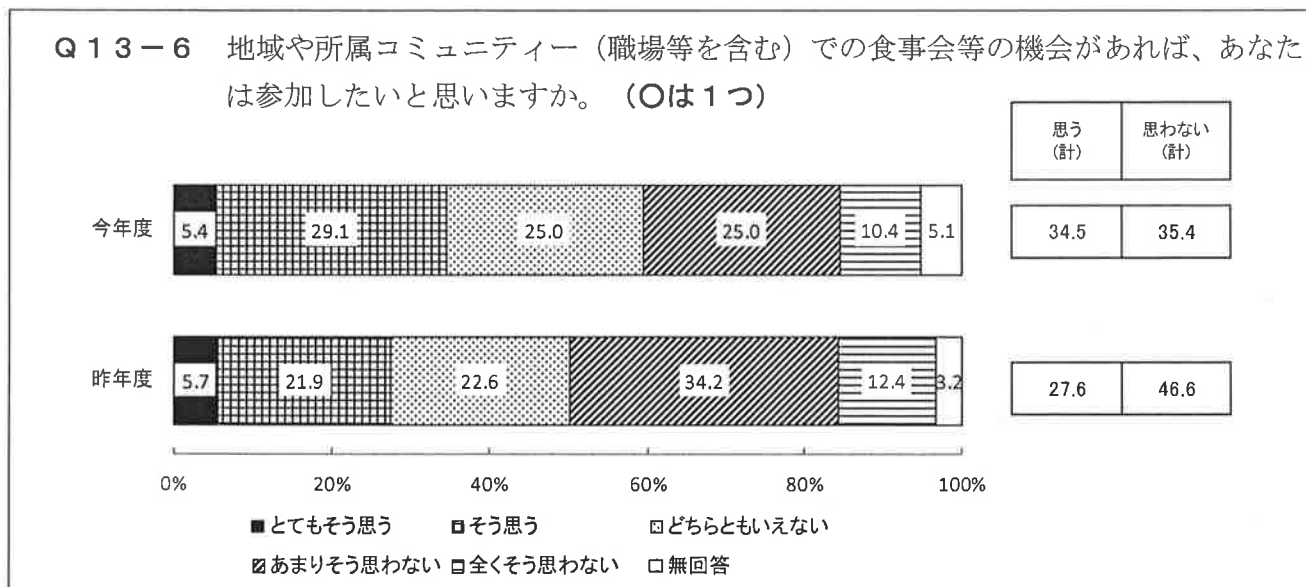
(イ) 夕食を家族と一緒に食べることはどのくらいありますか



朝食を家族と一緒に食べる頻度について、「ほとんど毎日」が50.4%と最も高く、次いで「ほとんどない」(22.4%)、「週に2~3日」(8.1%)などの順となっている。昨年度と比較すると、「週に2~3日」は2.0ポイント低下している。

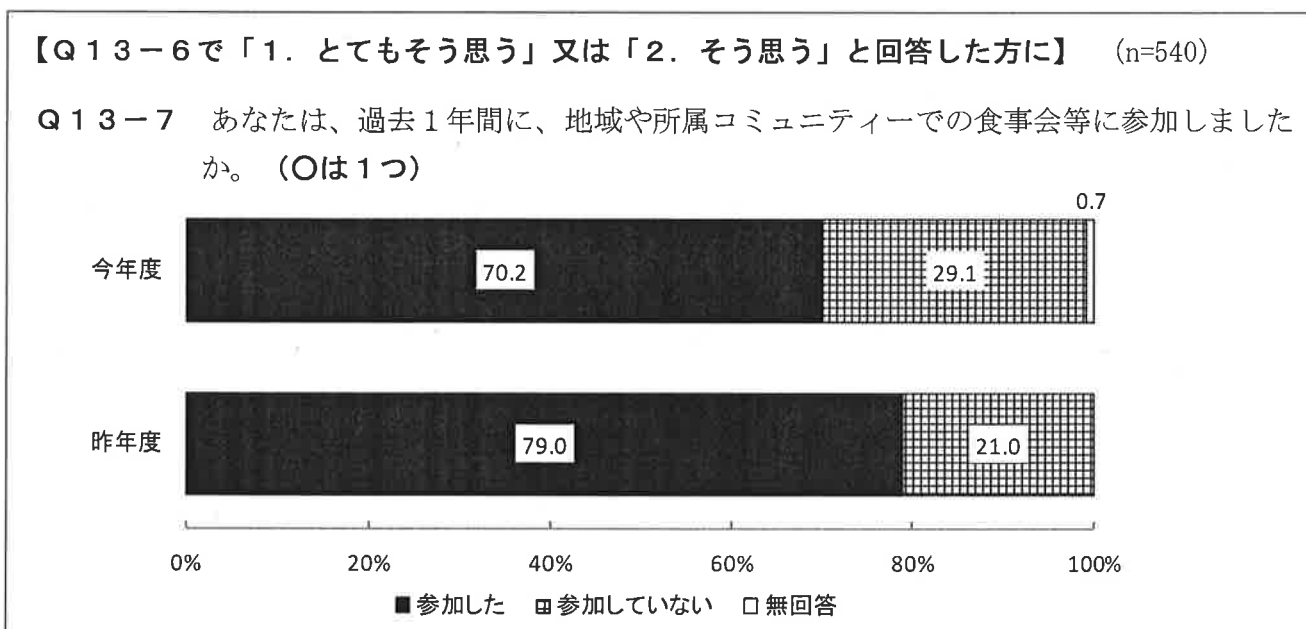
夕食を家族と一緒に食べる頻度について、「ほとんど毎日」が65.0%と最も高く、次いで「週に4~5日」(10.8%)、「週に2~3日」(7.6%)などの順となっている。昨年度と比較すると、「週に2~3日」は3.1ポイント低下している。

13-6. 地域や所属コミュニティでの食事会等の参加意向



地域や所属コミュニティでの食事会等の参加意向について、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせた『思う（計）』は34.5%、「全くそう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた『思わない（計）』は35.4%となっている。昨年度と比較すると、『思わない（計）』は11.2ポイント低下している。

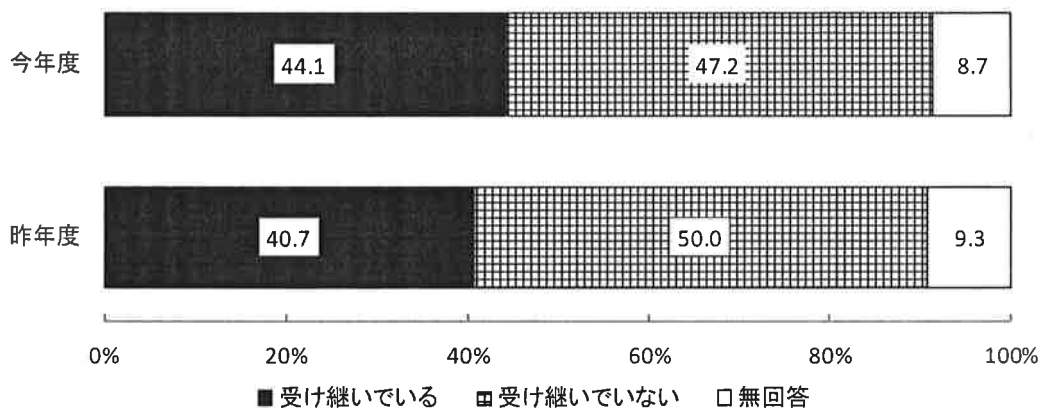
13-7. 地域や所属コミュニティでの食事会等の参加状況



Q13-6で「とてもそう思う」又は「そう思う」と回答された方に過去1年間の地域や所属コミュニティでの食事会等の参加状況について質問すると、「参加した」は70.2%、「参加していない」は29.1%となっている。昨年度と比較すると、「参加した」は8.8ポイント低下している。

## 13-8. 料理や味、食べ方・作法の伝統の受け継ぎ状況

Q13-8 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を受け継いでいますか。(〇は1つ)

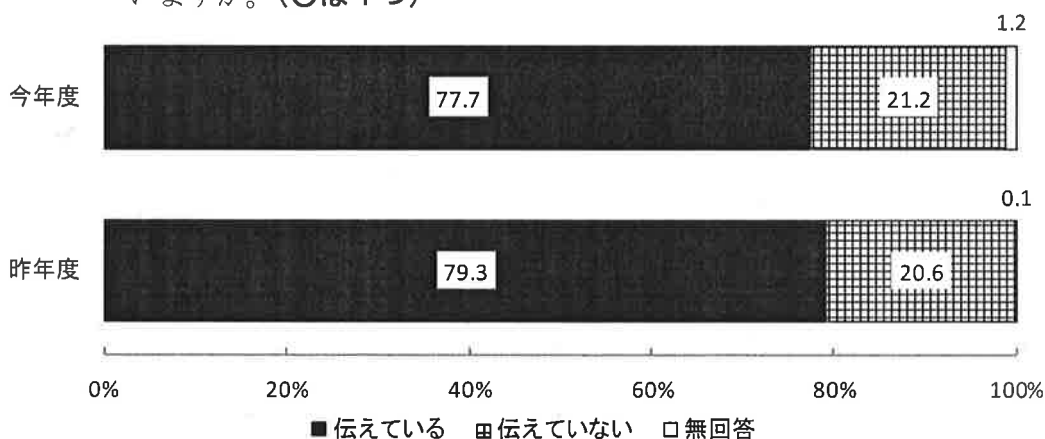


料理や味、食べ方・作法の伝統の受け継ぎ状況について、「受け継いでいる」は44.1%、「受け継いでいない」が47.2%となっている。昨年度と比較すると、「受け継いでいる」は3.4ポイント上昇している。

## 13-9. 料理や味、食べ方・作法の伝統の引き継ぎ状況

【Q13-8で「1. 受け継いでいる」と回答した方に】 (n=690)

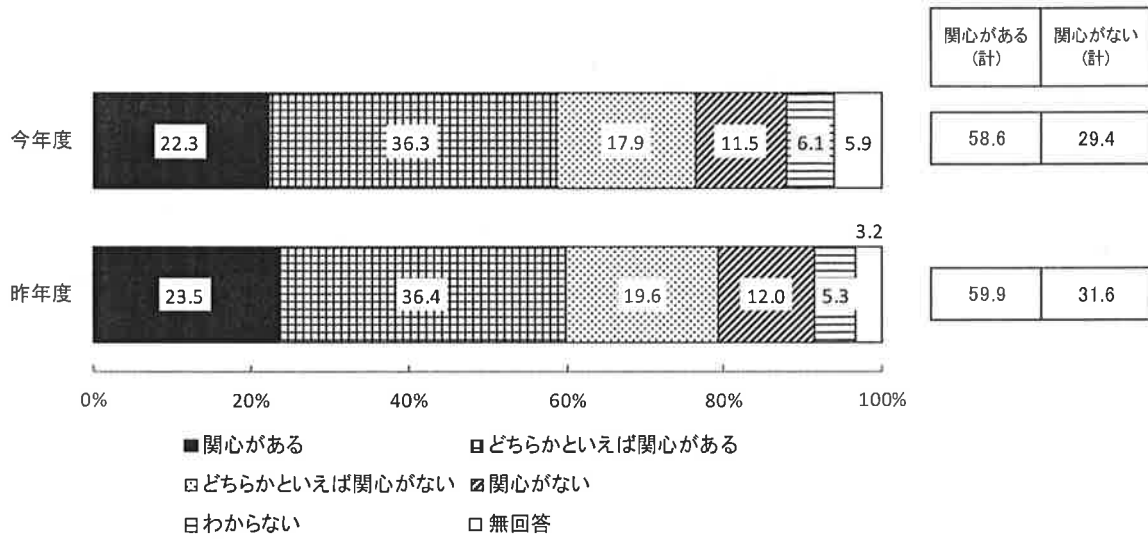
Q13-9 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を、地域や次世代(子供や孫を含む)に対して伝えていますか。(〇は1つ)



Q13-8で「受け継いでいる」と回答された方に、料理や味、食べ方・作法の伝統の引き継ぎ状況について質問すると、「伝えている」は77.7%、「伝えていない」は21.2%となっている。昨年度と比較すると、「伝えている」は1.6ポイント低下している。

13-10. 食べ方への関心度

Q13-10 あなたは、噛み方、味わい方といった食べ方に関心がありますか。(〇は1つ)

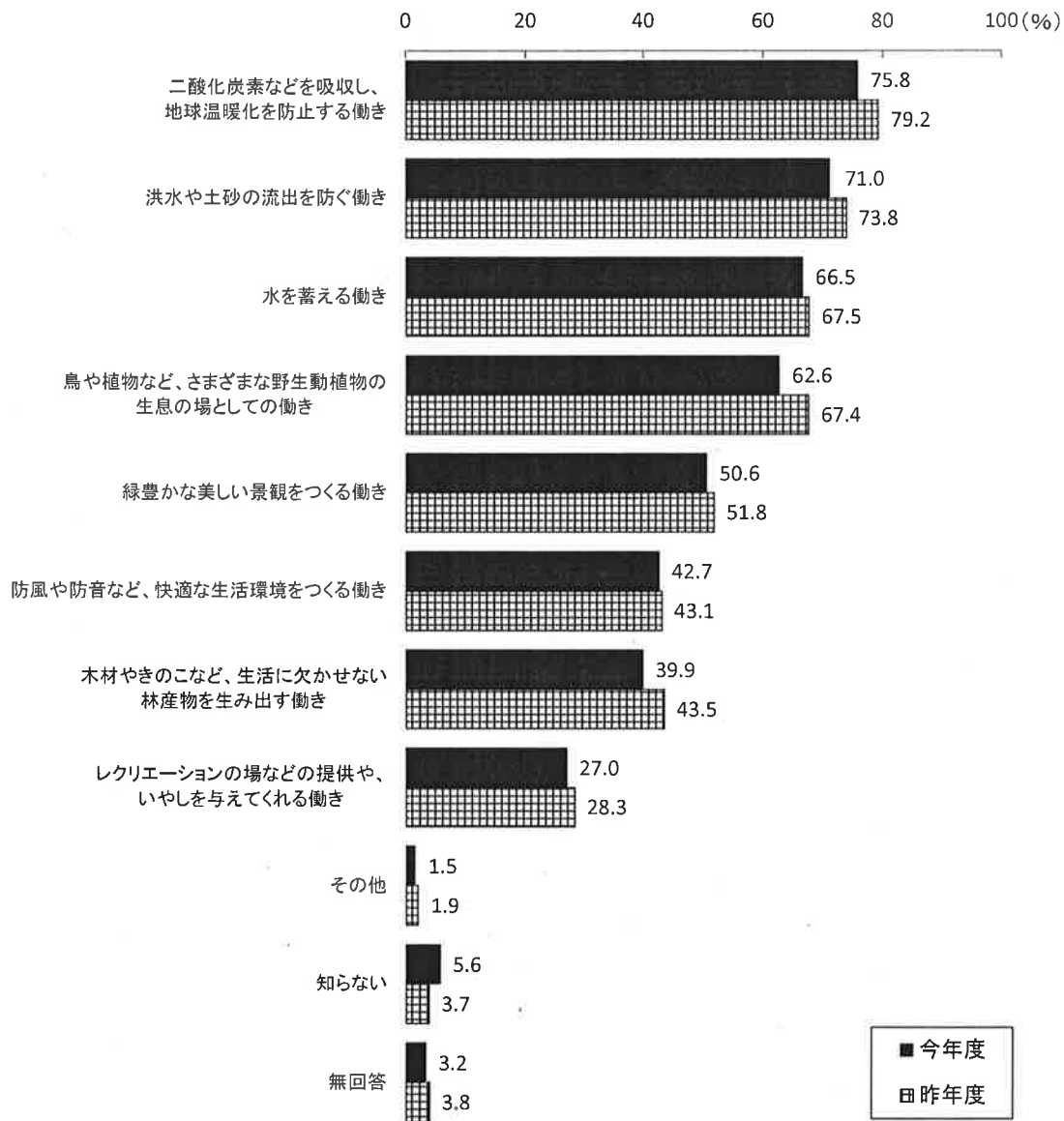


噛み方、味わい方といった食べ方への関心度について、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた『関心がある (計)』は58.6%、「関心がない」と「どちらかといえば関心がない」を合わせた『関心がない (計)』は29.4%となっている。昨年度と比較すると、『関心がない (計)』は2.2ポイント低下している。

## 14. やまぐち森林づくり県民税について

### 14-1. 森林の持っている働き

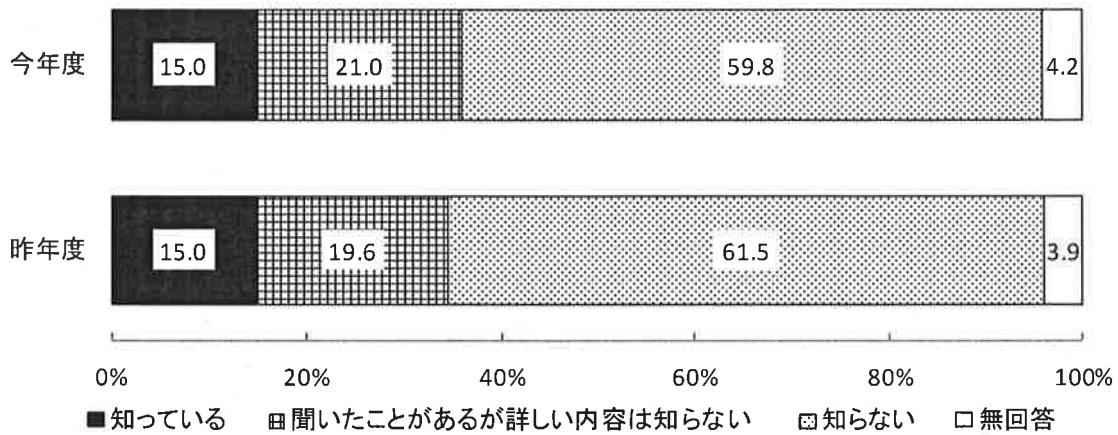
Q14-1 近年、森林の荒廃が問題となっていますが、あなたは、森林の持っているどのような働きをご存じですか。(〇はいくつでも)



森林の持っている働きで知っているものについて、「二酸化炭素などを吸収し、地球温暖化を防止する働き」が75.8%で最も高く、次いで「洪水や土砂の流出を防ぐ働き」(71.0%)、「水を蓄える働き」(66.5%)、「鳥や植物など、さまざまな野生動植物の生息の場としての働き」(62.6%)、「緑豊かな美しい景観をつくる働き」(50.6%)、「防風や防音など、快適な生活環境をつくる働き」(42.7%)などの順となっている。昨年度と比較すると、「鳥や植物など、さまざまな野生動植物の生息の場としての働き」は4.8ポイント低下し、「木材やきのこなど、生活に欠かせない林産物を生み出す働き」は3.6ポイント低下している。

14-2. 「やまぐち森林づくり県民税」の認知状況

Q14-2 山口県では、荒廃した森林の再生を図るため、平成17年度から「やまぐち森林づくり県民税」を導入しました。あなたは、この「やまぐち森林づくり県民税」をご存じですか。(〇は1つ)

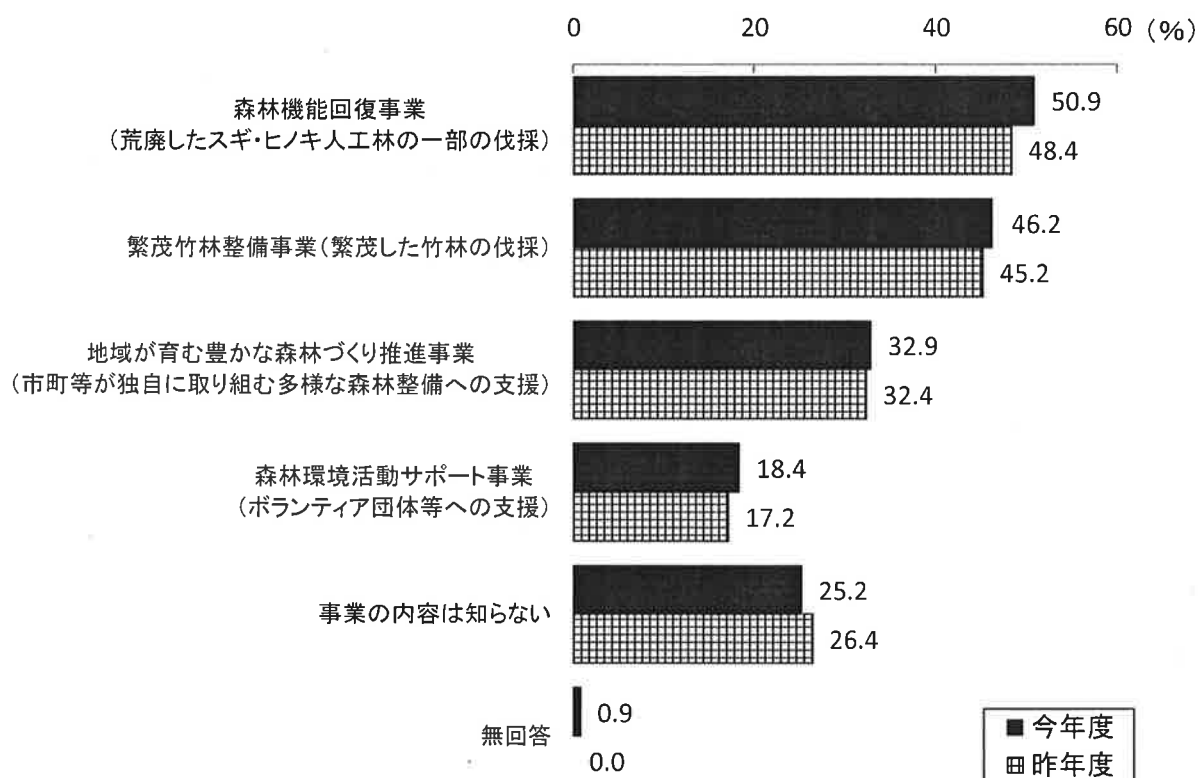


「やまぐち森林づくり県民税」の認知状況について、「知らない」が59.8%と最も高く、次いで「聞いたことがあるが詳しい内容は知らない」(21.0%)、「知っている」(15.0%)の順となっている。昨年度と比較すると、「知らない」が1.7ポイント低下している。

14-3. 「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業の内容

【Q14-2で「1. 知っている」と回答した方に】 (n=234)

Q14-3 「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業のうち、どの事業の内容をご存じですか。(〇はいくつでも)

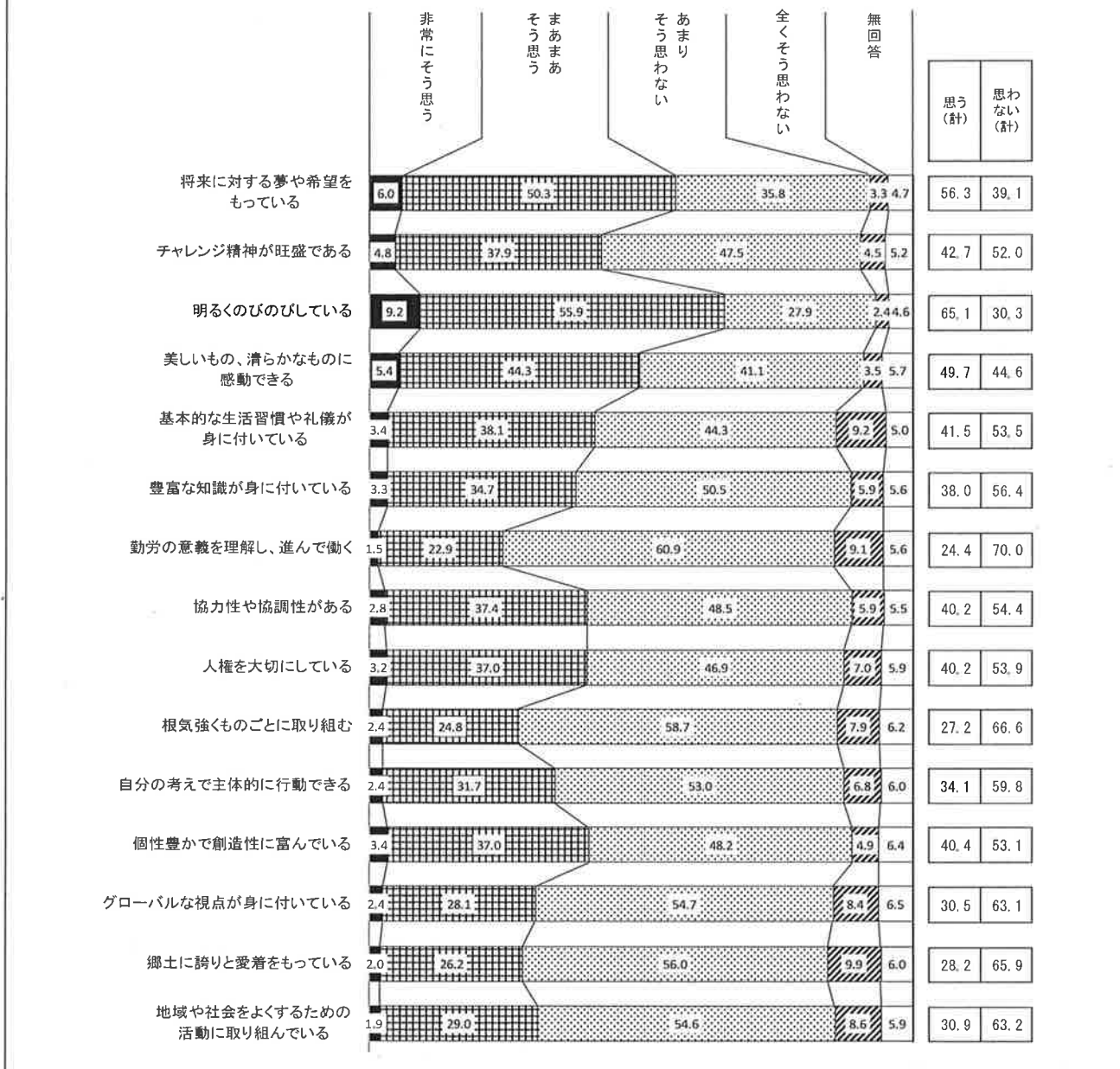


Q14-2で「やまぐち森林づくり県民税」を「知っている」と回答された方に、知っている「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業の内容について質問すると、「森林機能回復事業（荒廃したスギ・ヒノキ人工林の一部の伐採）」が50.9%と最も高く、次いで「繁茂竹林整備事業（繁茂した竹林の伐採）」（46.2%）、「地域が育む豊かな森林づくり推進事業（市町等が独自に取り組む多様な森林整備への支援）」（32.9%）、「森林環境活動サポート事業（ボランティア団体等への支援）」（18.4%）の順となっている。昨年度と比較すると、「森林機能回復事業（荒廃したスギ・ヒノキ人工林の一部の伐採）」は2.5ポイント上昇し、「事業の内容は知らない」は1.2ポイント低下している。

15. 山口県教育について

15-1. 今の子どもたちに対する印象

Q15-1 あなたは、今の子どもたちについてどのように感じていますか。  
いずれか1つを○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)



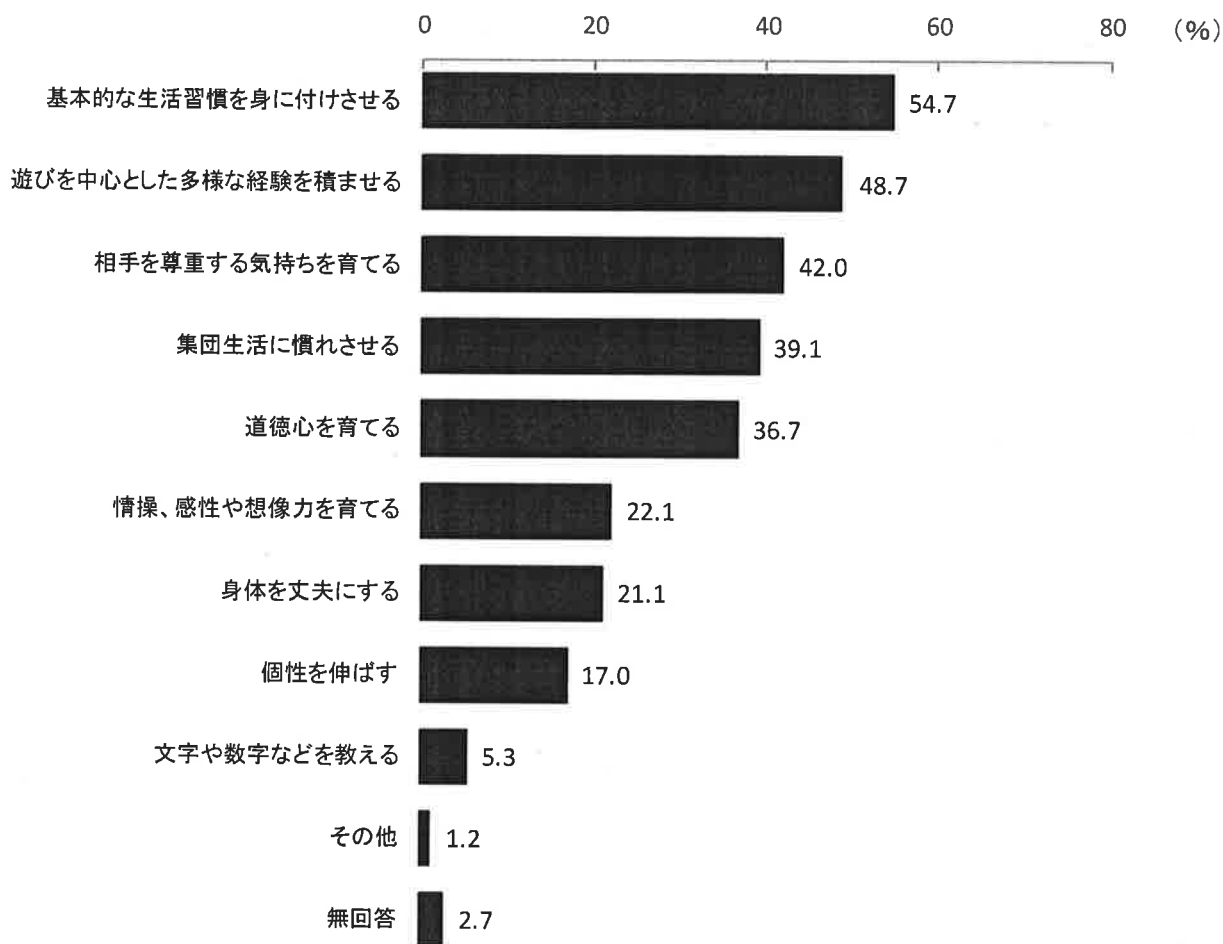
今の子どもたちへの感想について、「非常にそう思う」と「まあまあそう思う」を合わせた『思う(計)』の割合は、「明るくのびのびしている」が、65.1%と最も高く、次いで、「将来に対する夢や希望をもっている」(56.3%)、「美しいもの、清らかなものに感動できる」(49.7%)などで高くなっている。

一方、「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」を合わせた『思わない(計)』の割合は、「勤労の意義を理解し、進んで働く」が、70.0%と最も高く、次いで、「根気強くものごとに取り組む」(66.6%)、「郷土に誇りと愛着をもっている」(65.9%)などで高くなっている。



15-2. 幼稚園で力を入れたらよいと思うこと

Q15-2 あなたは、幼稚園（保育所・こども園）ではどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（〇は3つまで）

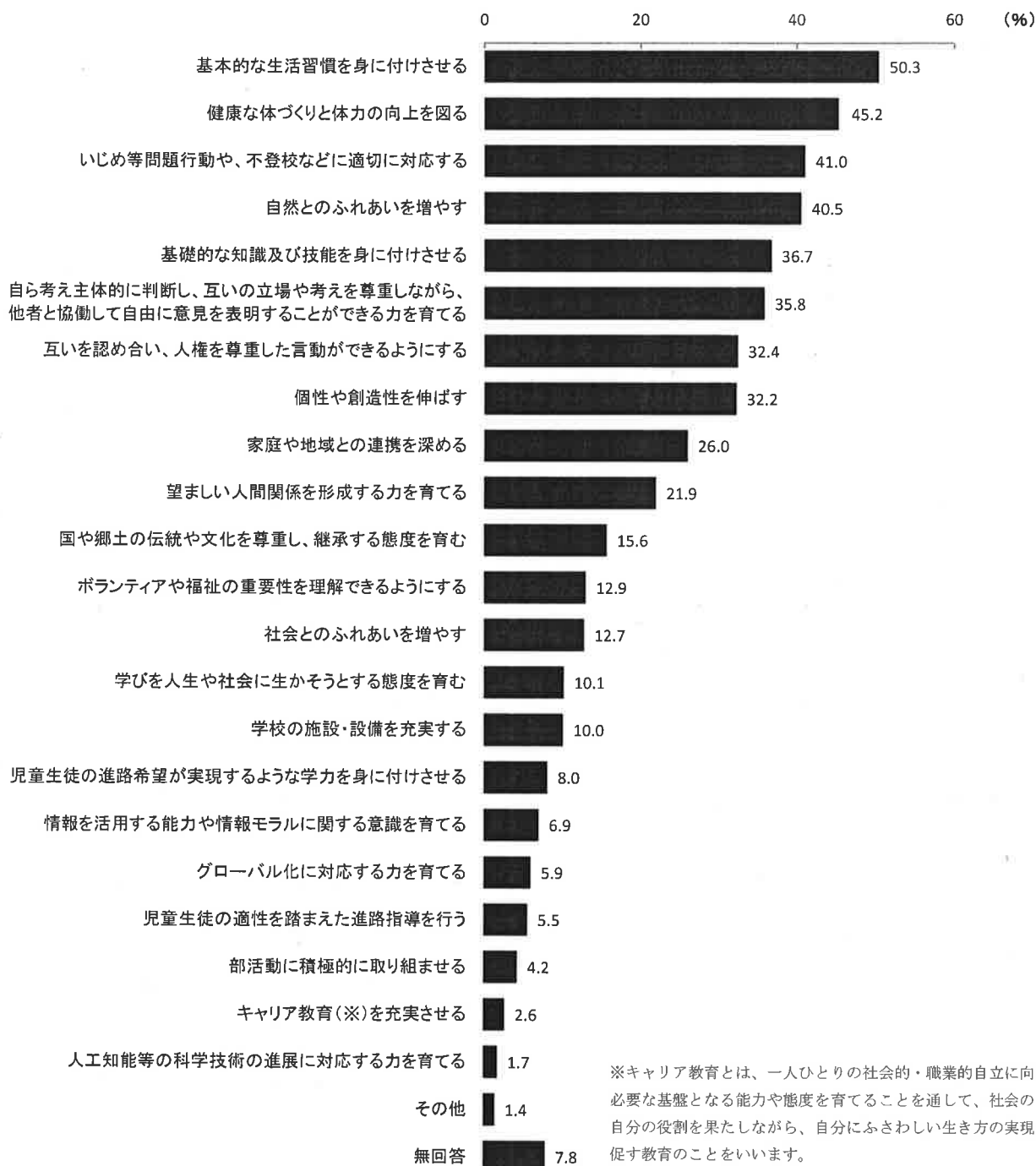


幼稚園で力を入れたらよいと思うことについて、「基本的な生活習慣を身に付けさせる」が 54.7%と最も高く、次いで「遊びを中心とした多様な経験を積ませる」(48.7%)、「相手を尊重する気持ちを育てる」(42.0%)、「集団生活に慣れさせる」(39.1%)の順となっている。

15-3. 小学校・中学校・高等学校の教育で力を入れたらよいと思うこと

Q15-3 あなたは、小学校・中学校・高等学校の教育ではどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。小学校・中学校・高等学校それぞれについて、お答えください。  
(○はそれぞれ5つまで)

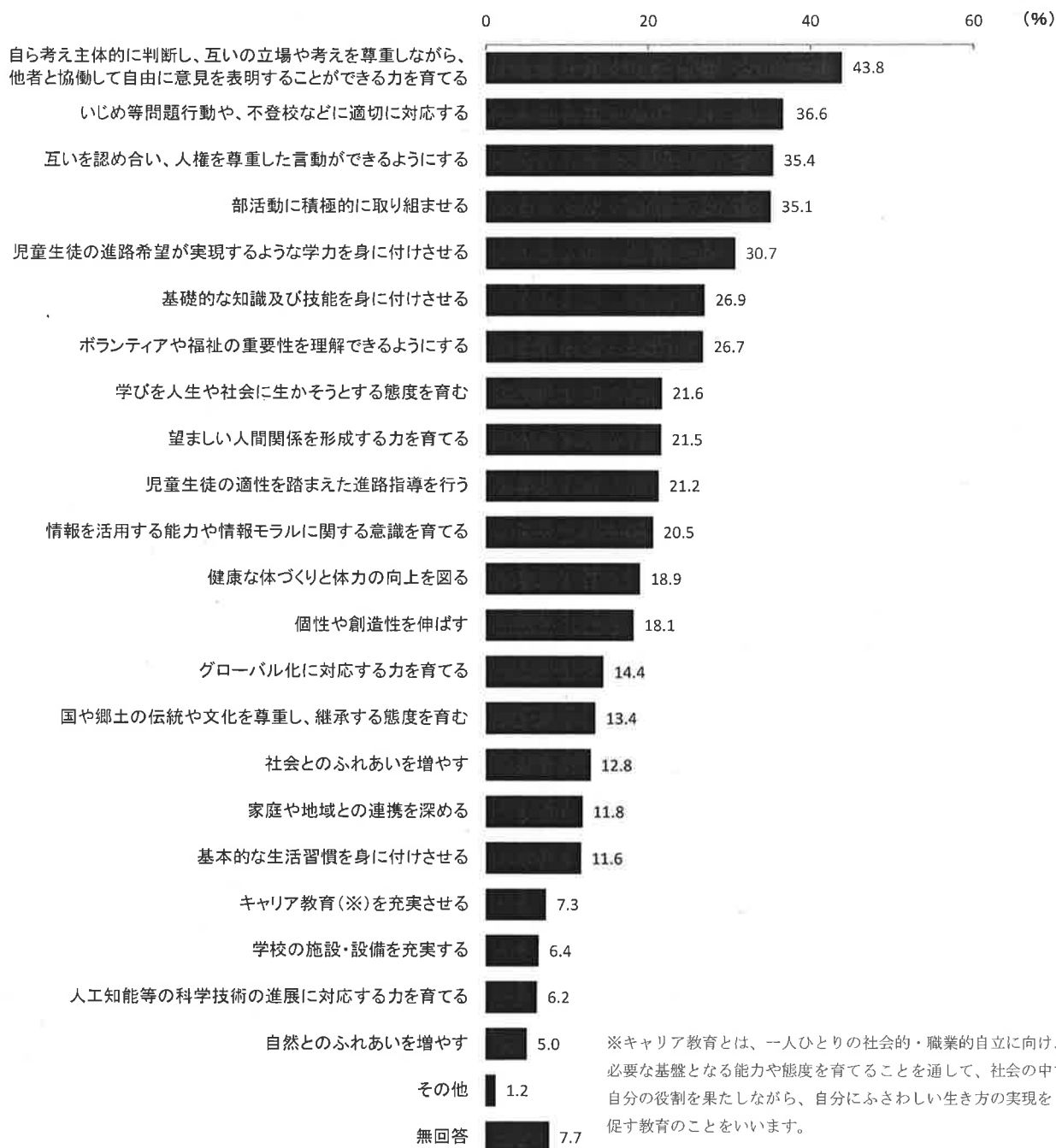
(1) 小学校



小学校の教育で力を入れたらよいと思うことについて、「基本的な生活習慣を身に付けさせる」が50.3%と最も高く、次いで「健康な体づくりと体力の向上を図る」(45.2%)、「いじめ等問題行動や、不登校などに適切に対応する」(41.0%)、「自然とのふれあいを増やす」(40.5%)の順となっている。

Q15-3 あなたは、小学校・中学校・高等学校の教育ではどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。小学校・中学校・高等学校それぞれについて、お答えください。  
(〇はそれぞれ5つまで)

(2) 中学校

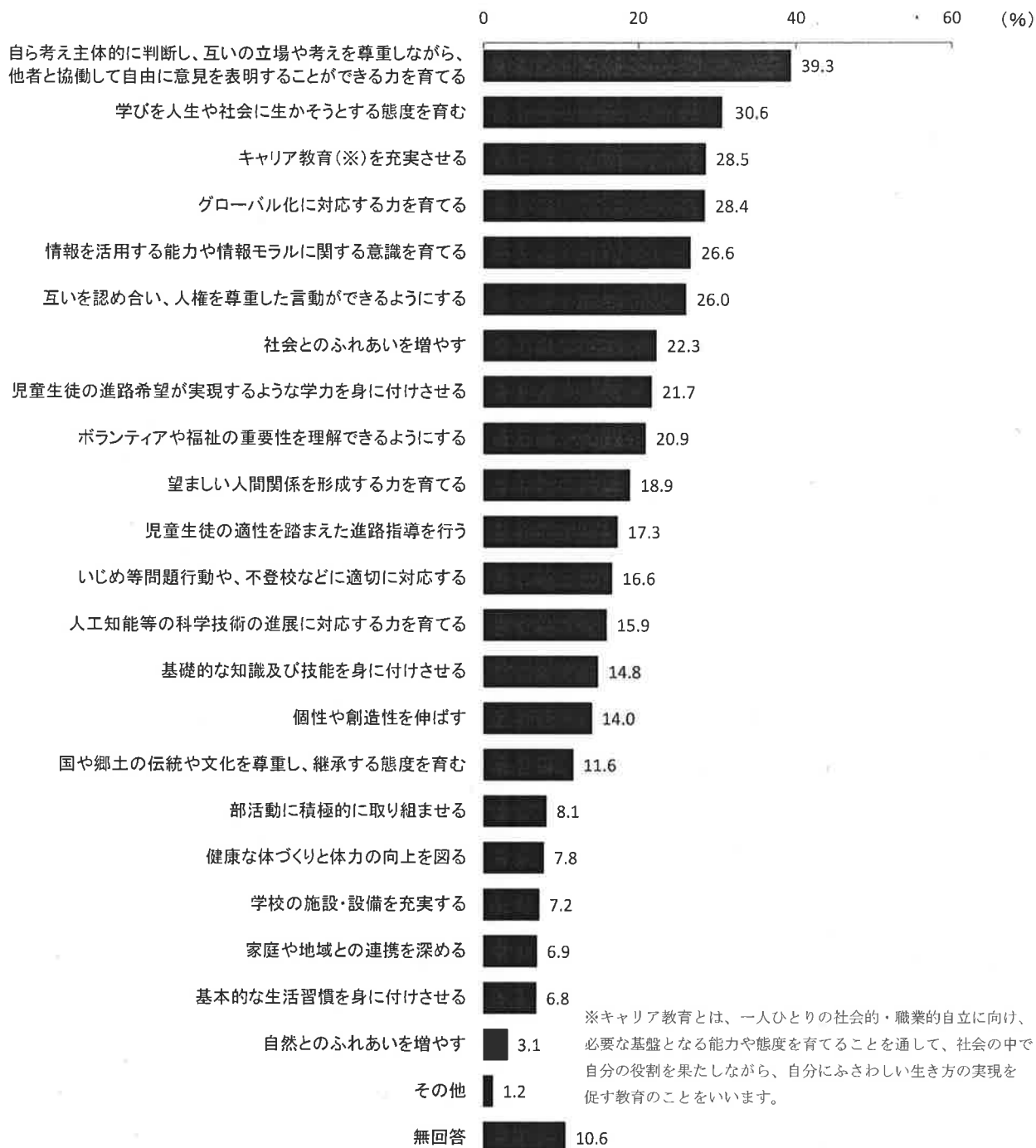


中学校の教育で力を入れたらよいと思うことについて、「自ら考え主体的に判断し、互いの立場や考えを尊重しながら、他者と協働して自由に意見を表明することができる力を育てる」が43.8%と最も高く、次いで「いじめ等問題行動や、不登校などに適切に対応する」(36.6%)、「互いを認め合い、人権を尊重した言動ができるようにする」(35.4%)、「部活動に積極的に取り組ませる」(35.1%)の順となっている。

Q15-3 あなたは、小学校・中学校・高等学校の教育ではどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。小学校・中学校・高等学校それぞれについて、お答えください。

(○はそれぞれ5つまで)

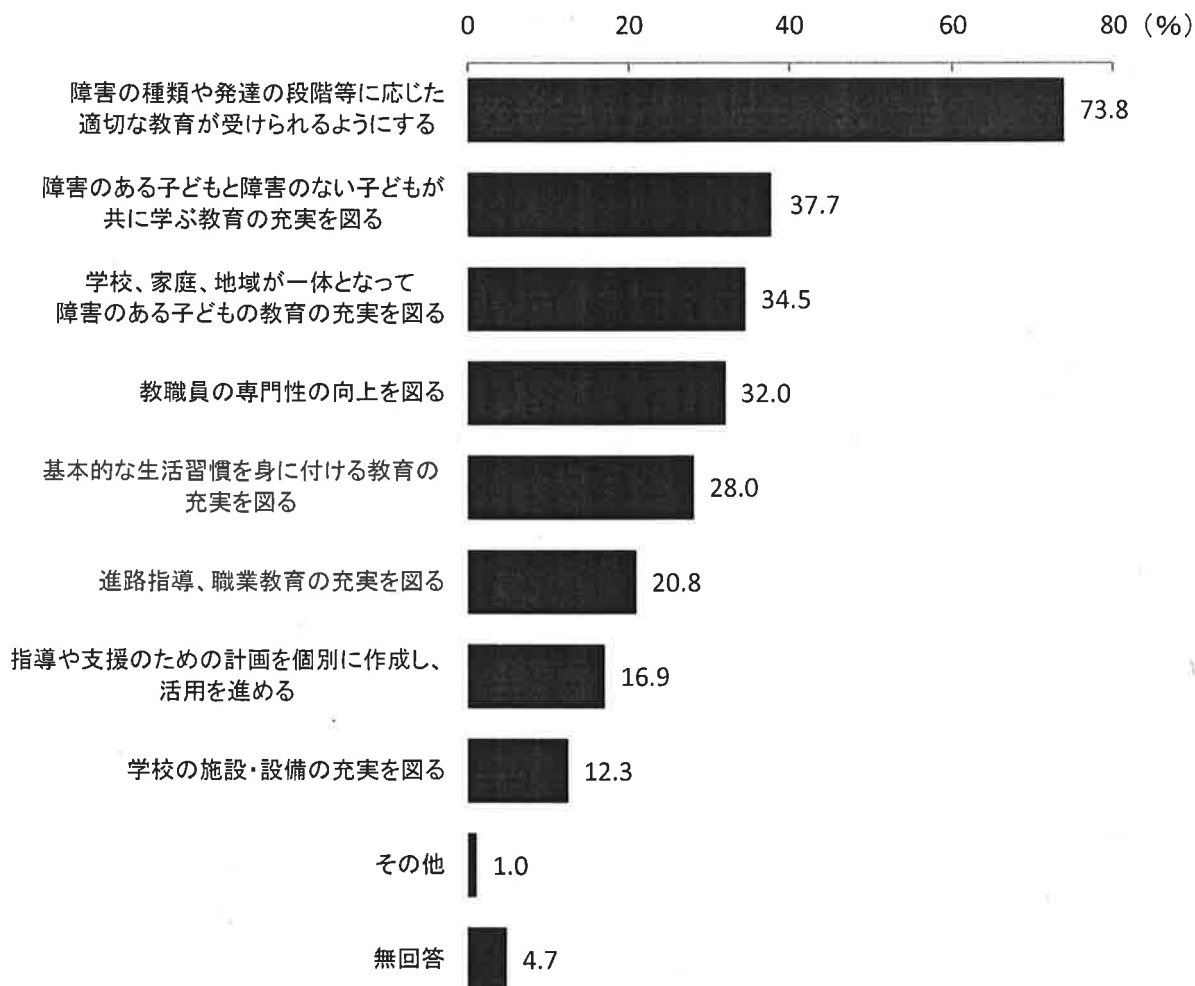
(3) 高等学校



高等学校の教育で力を入れたらよいと思うことについて、「自ら考え主体的に判断し、互いの立場や考えを尊重しながら、他者と協働して自由に意見を表明することができる力を育てる」が39.3%と最も高く、次いで「学びを人生や社会に生かそうとする態度を育む」(30.6%)、「キャリア教育を充実させる」(28.5%)、「グローバル化に対応する力を育てる」(28.4%)の順となっている。

15-4. 障害のある子どもの教育で力を入れたらよいと思うこと

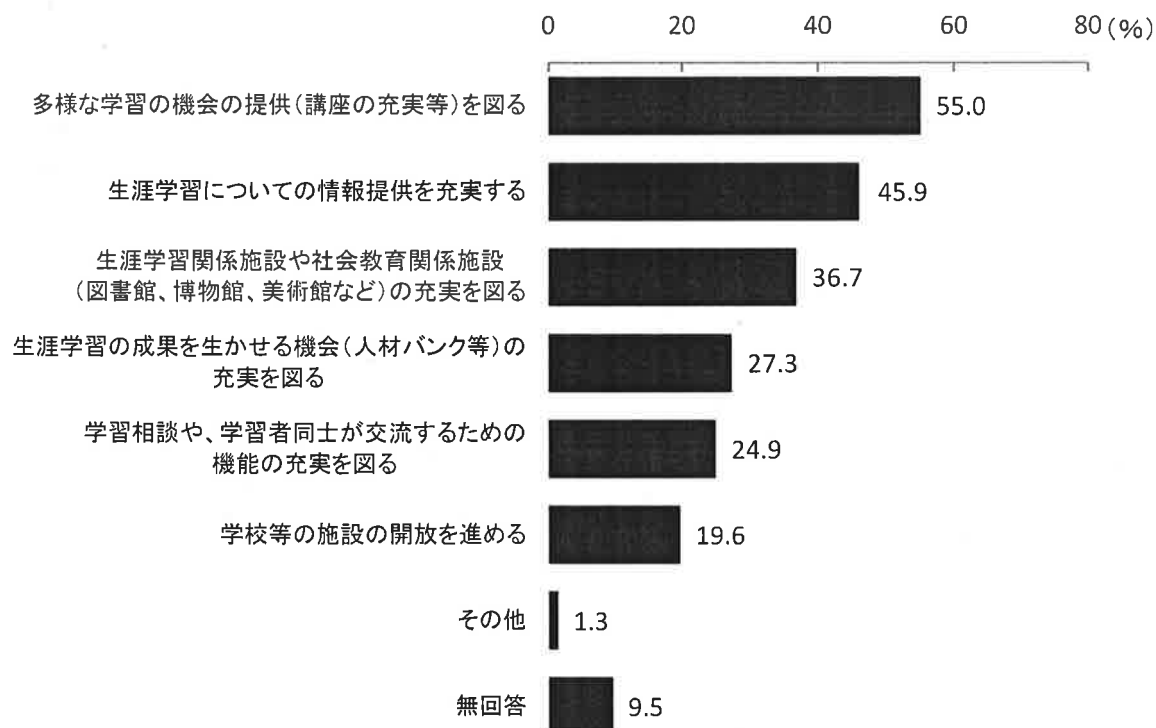
Q15-4 あなたは、障害のある子どもの教育ではどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。(〇は3つまで)



障害のある子どもの教育で力を入れたらよいと思うことについて、「障害の種類や発達の段階等に応じた適切な教育が受けられるようにする」が73.8%と最も高く、次いで「障害のある子どもと障害のない子どもが共に学ぶ教育の充実を図る」(37.7%)、「学校、家庭、地域が一体となって障害のある子どもの教育の充実を図る」(34.5%)、「教職員の専門性の向上を図る」(32.0%)の順となっている。

## 15-5. 生涯学習について

Q15-5 あなたは、生涯学習（※）をもっと盛んにしていくためには、どのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（〇は3つまで）



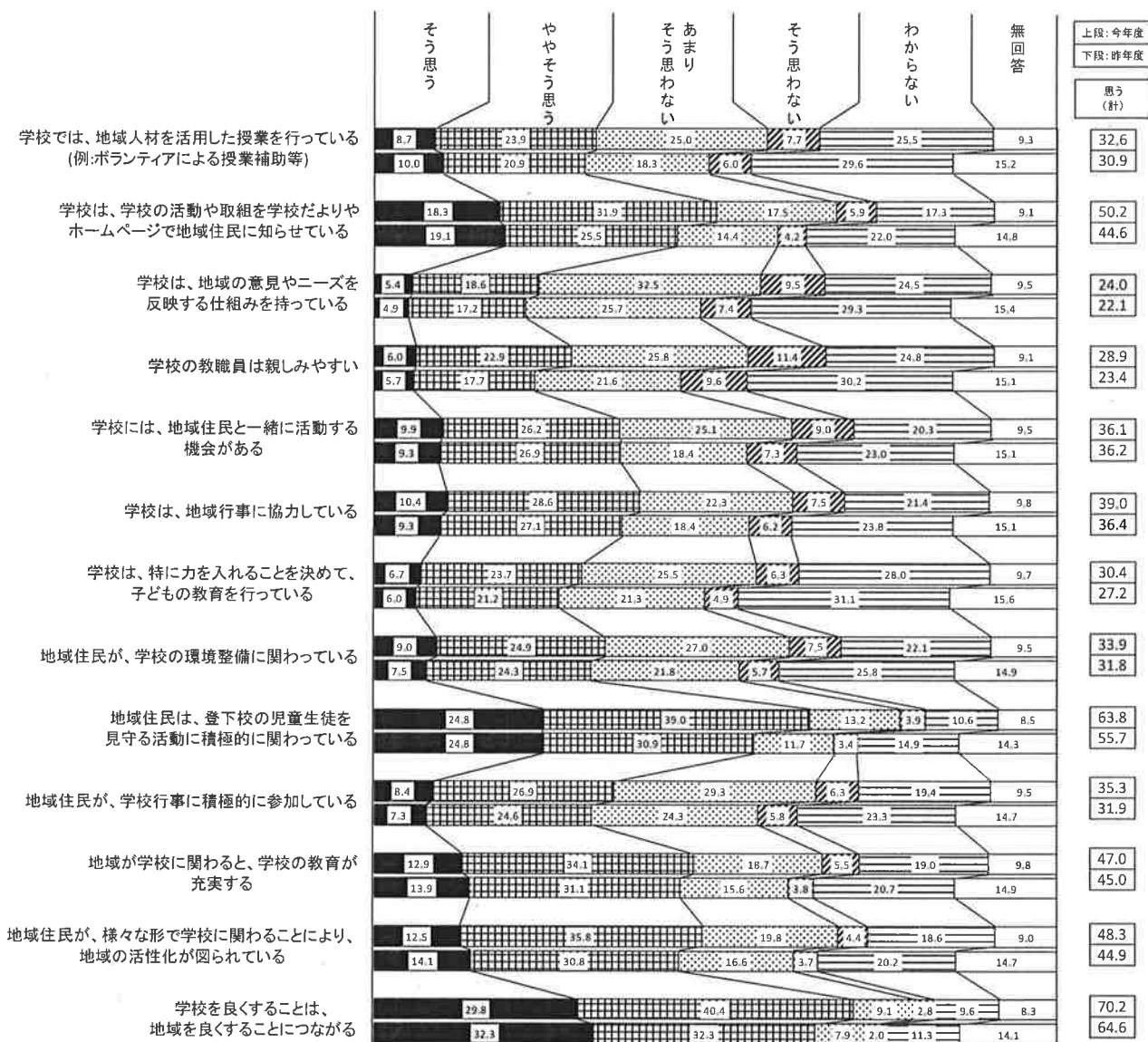
※生涯学習とは、一人ひとりが自分の人生を豊かにするため、生涯のいろんな時期に、自分から進んで行う学習やスポーツ・文化活動、ボランティア活動、趣味などの様々な活動のことをいいます。

生涯学習で力を入れたらよいと思うことについて、「多様な学習の機会の提供 (講座の充実等) を図る」が 55.0% と最も高く、次いで「生涯学習についての情報提供を充実する」(45.9%)、「生涯学習関係施設や社会教育関係施設 (図書館、博物館、美術館など) の充実を図る」(36.7%)、「生涯学習の成果を生かせる機会 (人材バンク等) の充実を図る」(27.3%) の順となっている。

16. コミュニティ・スクールについて

16-1. 地域と学校との関係

Q16-1 あなたがお住まいの地域と地域にある学校（小学校、中学校いずれについてでも可）との関係について、あなたはどの程度そう思いますか。そう思う程度を教えてください。（〇はそれぞれ1つずつ）

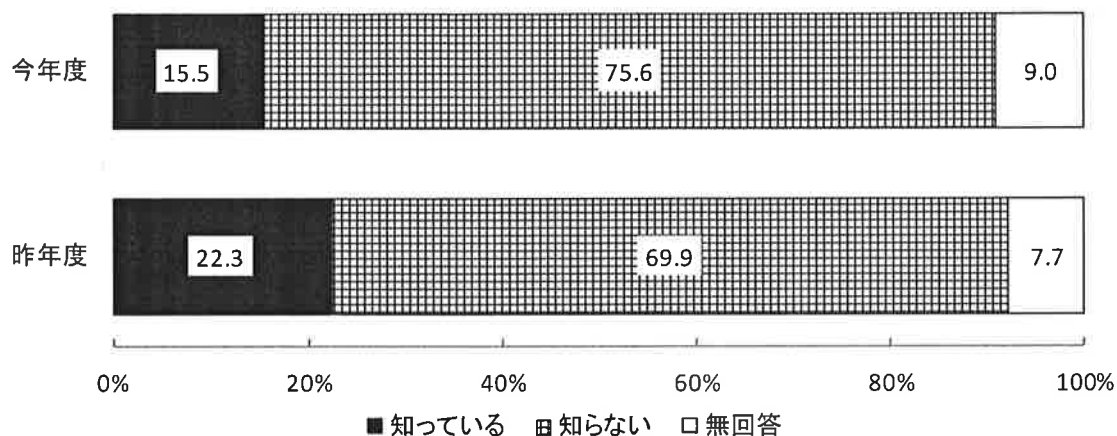


上記のグラフの資料項目は、平成25年度兵庫教育大学「学校の総合マネジメント力の強化に関する調査研究」の研究テーマ「スクール・コミュニティに向けた学校のマネジメント力強化に関する調査研究」の質問項目を参考とした。

地域と学校との関係について、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『思う（計）』の割合は、昨年度と同様に「学校を良くすることは、地域を良くすることにつながる」（70.2%）が最も高く、次いで、「地域住民は、登下校の児童生徒を見守る活動に積極的に関わっている」（63.8%）、「学校は、学校の活動や取組を学校だよりやホームページで地域住民に知らせている」（50.2%）などの順になっている。昨年度と比較すると、「学校には、地域住民と一緒に活動する機会がある」（36.1%）以外、すべての項目で『思う（計）』の割合が上昇している。

16-2. コミュニティ・スクールの認知状況

Q16-2 山口県では、コミュニティ・スクールを核とした地域とともにある学校づくりを推進しています。あなたは、この「コミュニティ・スクール」をご存じですか。  
(〇は1つ)

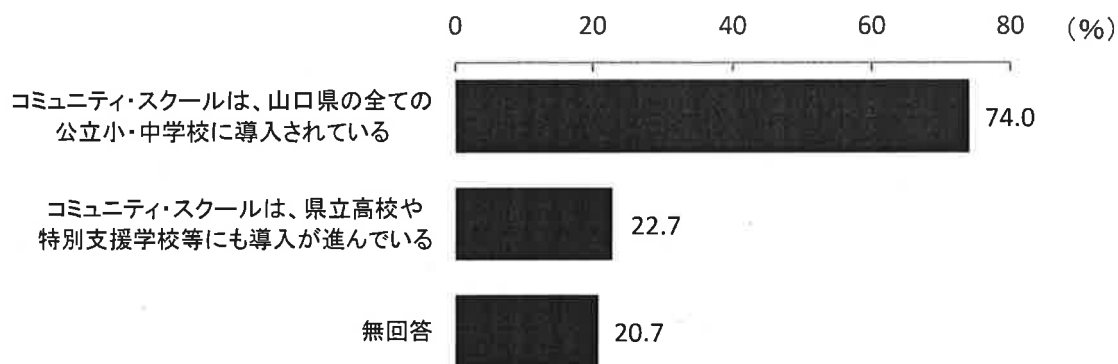


コミュニティ・スクールの認知度について、「知っている」は15.5%となっており、昨年度と比較すると、6.8ポイント低下している。

16-3. コミュニティ・スクールについて知っていること

【Q16-2で「1. 知っている」と回答した方に】 (n=242)

Q16-3 「コミュニティ・スクール」について、以下のことをご存じでしたら、〇をつけてください。(複数回答可)



コミュニティ・スクールについて知っていることについて、「コミュニティ・スクールは、山口県の全ての公立小・中学校に導入されている」が74.0%、「コミュニティ・スクールは、県立高校や特別支援学校等にも導入が進んでいる」が22.7%となっている。